

下関市立市民病院 年報

第 6 卷

平成 29 年度



地方独立行政法人

下関市立市民病院

SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

目次

はじめに	2	リハビリテーション部	95
病院の沿革	3	栄養管理部	101
下関市立市民病院組織図	7	薬 剤 部	106
委員会組織図	8	地域連携部	109
各部門の活動状況		健診部	115
腎臓内科	9	医療安全対策室	116
内科・リウマチ膠原病内科	12	ドクターズクラーク室	121
緩和ケア内科	14	審議会・委員会、部会活動報告	
ペインクリニック内科	17	薬事審議会	122
循環器内科	19	感染管理委員会	123
消化器内科	24	保険委員会	129
小児科	26	輸血療法委員会	130
外科	29	治験審査委員会	135
呼吸器外科	37	検体検査管理委員会	137
脳神経外科	39	診療録管理委員会	138
心臓血管外科	41	安全管理委員会	140
小児外科	45	褥瘡対策委員会	148
整形外科	46	栄養管理委員会	149
皮膚科	51	広報年報委員会	150
泌尿器科	52	倫理研究委員会	152
産婦人科	54	臨床倫理委員会	154
耳鼻咽喉科	57	研修管理委員会	156
放射線診断科	58	CS推進委員会	158
放射線治療科	59	クリニカルパス推進委員会	160
麻酔科	60	緩和ケア委員会	163
病理診断科	62	ボランティア活動	164
歯科・歯科口腔外科	64	出前講座	165
看護部	67		
放射線部	88		
検査部	91		

はじめに

院長 田中雅夫

平成29年が終わり、2月中旬韓国開催の冬のオリンピックで男子フィギュアスケートの金・銀、女子スピードスケートの金などの快挙に世の中が湧いています。東日本震災の被災者である羽生選手が数か月前の負傷を鎮痛剤で抑えての努力で金メダル！というのは日本人に極限の感銘を与えました。私は、銀を獲得した若い宇野選手の、気負いなく淡々と銀メダルを何のこともなく思っている表情にも無限の可能性を感じました。

平成は31年度の4月をもって終わることが決まりました。平成の最大の特徴はInternet of thingsと言われるインターネット技術の進化でしょう。ネット社会は変革のスピードを益々上げ、確かに便利にはなりましたが、仮想通貨のようにお金をお金で買うという、思わぬ間違った方向へ暴走もしています。一部の若者たちは一獲千金を夢見てヒット数を競い、夢想の世界に溺れてしまっているように思うのは私だけでしょうか。それで富は得られても、何も人の役に立たない人生ではつまらないでしょう。

さて、2016年4月からの第2期中期計画の半分が早くも終わりました。小幅ながらの黒字と少しの赤字決算を往來しています。病院は本館の改築が済み施設の陣容が整いました。狭い病院の中ですが少しは働きやすくなったことと思います。来年度は、手術部の倉庫としている手術室をもうひとつ稼働させれば手術予定の時間内消化に役立つので、倉庫を増築してその部屋を使えるようにすることと、満杯状態のMRIの増設を計画しています。地域医療構想に示された病院統合まではまだ相当の期間がかかりますから、それまで何とか工夫してやって行かなければなりません。

院内にも素晴らしいニュースがあります。吉田副院長の国際治験の成果が何とNew England Journal of Medicineに掲載され、市民病院の名前が掲載されました。2017年のインパクトファクターは72.406と第2位で広く読まれる雑誌で、病院全体から出る論文の何年分を確保したかわからないくらいの快挙です。市中病院でもこういうことを目指せるという模範と言えるでしょう。

消化器内視鏡の器種も常に最新モデルが使える契約に変えました。メンテナンスを会社に任せ使用数に応じて支払うというシステムなので、細かく言うと病院がやや不利な契約ですが、耐用年限を過ぎた内視鏡を使い続けるというストレスは感じずに済みます。職員のやり甲斐確保策の一つです。

過労死が社会問題となり働き方改革が法制化されました。毎日早くの帰宅など他の業種でも理想的にはいかないのに、数不足の医療人、とくに医師には尚更無理です。ワークライフバランスという言葉が流行し、医師を目指す若い人達には時間など考えずに働くことの多い診療科を避ける傾向も目立って来ています。この先医療がどうなっていくのかわかりませんが、まずはやり甲斐のある仕事をストレスなくやれる職場にするために最大限の努力をしましょう。

病院の沿革

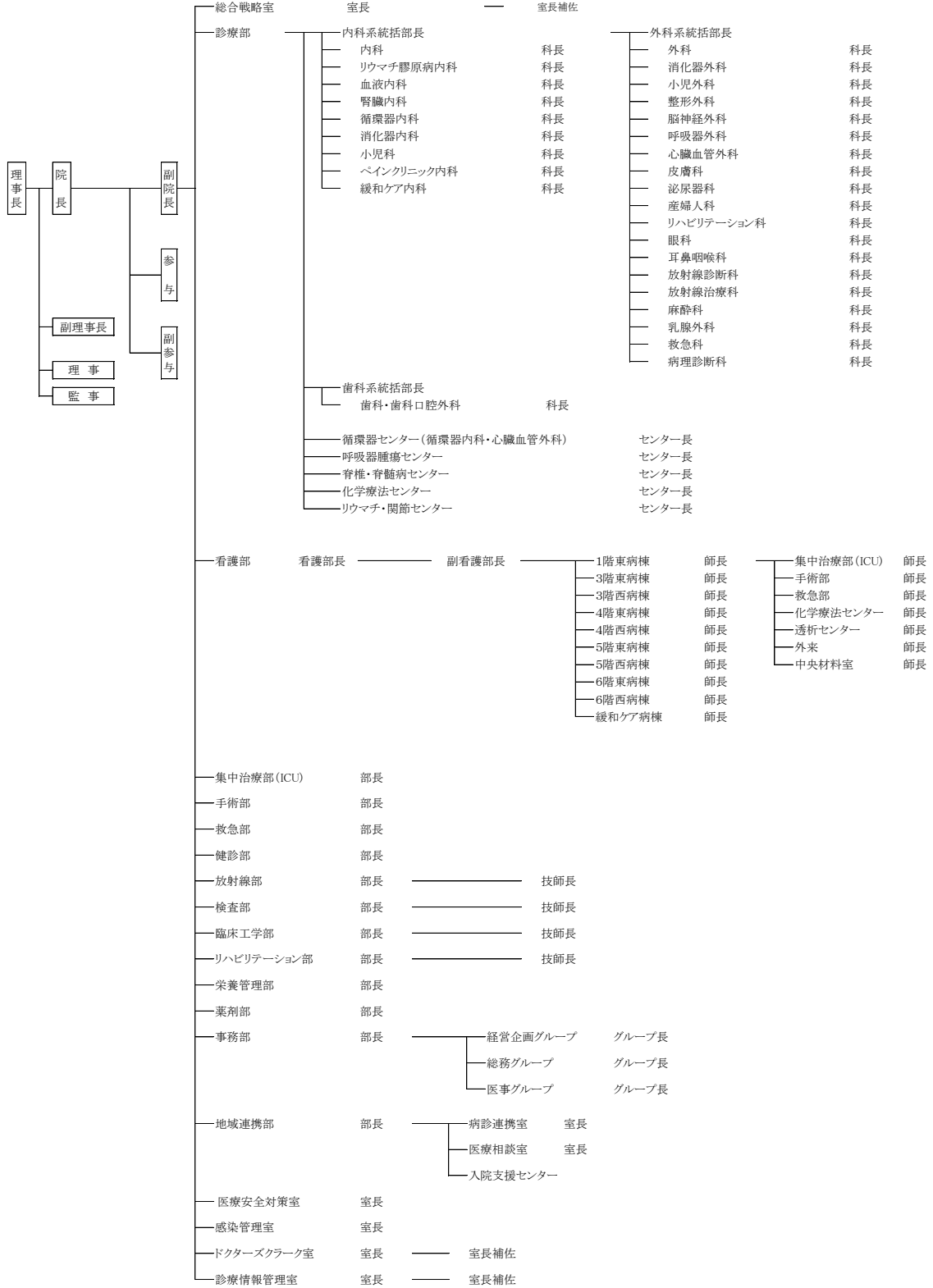
明治34年12月	下関市立高尾病院（伝染病院）開設
明治45年	衛生試験所
大正15年 4月	高尾病院改築
昭和 8年 5月	下関市立診療所併設
昭和22年 8月	下関市立診療所を病院に改める。（名称は以前の名称を使用 医師5名）
昭和23年 6月	下関市立診療所小月分院開設
昭和23年 6月	日本医療団下関病院を買収、下関市立病院として発足
昭和25年 1月	下関市立中央病院 初代院長 常松順介就任
昭和25年 3月	下関市立高尾病院、下関市立診療所と下関市立病院を統合し、下関市立中央病院として発足（医師9名） 一般 53 床、結核 51 床、伝染 50 床、下関市立病院を下関市立中央病院附属新町診療所に改称（13 床）
昭和25年 6月	長府診療所設置
昭和25年10月	耳鼻咽喉科新設
昭和26年 1月	第2代院長 浜崎邦夫就任
昭和26年 4月	弟子待仮診療所設置
昭和26年 8月	新町診療所病室設置（6室9床）
昭和28年 3月	弟子待仮診療所廃止
昭和28年 6月	小月（14床）、長府（8床）隔離病舎廃止
昭和29年12月	小月診療所廃止
昭和30年10月	吉田、王喜伝染病院隔離病舎廃止
昭和31年 1月	長府診療所廃止
昭和32年 7月	伝染病院2階建（53床）増築
昭和33年 1月	新町診療所を増設、下関市立中央病院新町分院として開設（30床）、基準給食実施
昭和33年10月	基準給食、基準看護実施2類 本院 医師12名 看護婦36名 新町分院 基準看護実施2類
昭和35年 3月	分院 医師3名 看護婦11名
昭和35年 7月	分院改築（2病棟）
昭和36年 3月	本院、分院保険医療機関指定、分院基準看護1類に変更
昭和36年 8月	新築（本院）190床（分院30床）、結核51床、伝染53床
昭和37年 4月	本院1類に変更（結核は2類） 地方公営企業法の一部適用 結核44床に変更
昭和38年 1月	総合病院の名称使用許可（県）
昭和38年 4月	身体障害者福祉法に基づく指定（耳鼻科、眼科）

昭和38年11月	診療及び公衆衛生に関する実施修練病院の指定
昭和39年 4月	第3代院長 亀田五郎就任
昭和40年 1月	病院開設許可申請事項一部変更許可 一般 304床、結核 36床、伝染 53床、合計 393床、(76床増床)
昭和40年 2月	救急病院指定 (救急専用優先病院 10床)
昭和41年 3月	新町分院廃止
昭和41年 6月	健康保険法による基準寝具の実施について承認
昭和42年 3月	新館 150床 (改築 74床、増築 76床) 増改築完成
昭和42年 4月	消化器科、循環器科、脳神経外科の3科を新設
昭和42年 9月	上田中町医師公舎 (16戸) 完成
昭和44年 6月	人工腎臓室を設ける
昭和46年 3月	大学町医師公舎 (8戸) 完成
昭和46年 4月	呼吸器科、神経精神科、理学診療科の3科を新設 19科となる
昭和47年 5月	健康保険法による基準看護特類承認
昭和49年 7月	外科病棟 2単位制実施
昭和49年 9月	内科病棟 2単位制実施 病院用地取得 71.96 m ² (向洋町 2丁目 10-53)
昭和50年 2月	院内保育所開設 (にこにこ保育園運営委員会)
昭和50年 4月	健康保険法による基準看護甲表特2類承認 (結核、甲表2類) 診療科目 20科となる。神経精神科を神経科、精神科に分ける。
昭和51年 4月	医師 30名、医療技師 34名、看護婦 195名、事務 50名、職員定数 309名、病棟 2-8体制実施
昭和52年 4月	医師 30名、医療技師 35名、看護婦 200名、事務 50名、職員定数 315名
昭和54年 3月	呼吸器科外科、心臓血管外科、小児外科の3科を新設 23科となる
昭和56年 1月	結核病床 36床一般病床へ転床
昭和56年 7月	特定病床 15床承認
昭和59年 5月	移転改築に係る新病院開設許可 (一般 430床・伝染 30床)
昭和60年 4月	第4代院長 四宮 衛就任
昭和61年 3月	新病院建設起工式
昭和63年 3月	新病院完成
昭和63年 4月	新病院における診療開始 (一般 430床のうち 377床・感染症 30床)
平成元年 4月	第5代院長 徳永正晴就任
平成元年 4月	閉鎖部分の一般 53床の診療開始
平成元年 6月	内科外来の予約診療制実施
平成元年 8月	登録医制度実施
平成元年 9月	基準看護 (特3類) 一般 6棟 212床、(特2類) 一般 248床承認
平成 2年 7月	外科、整形外科外来の予約診療制実施
平成 4年 4月	臨床研修病院の指定
平成 4年 6月	基準看護 (特3類) 一般 7棟 265床、(特2類) 一般 195床変更承認
平成 4年10月	外来全科の予約診療制実施
平成 5年 4月	週休2日制導入
平成 5年 7月	人間ドック受診者ホテル宿泊実施

平成 6年10月	中華人民共和国青島市市立医院と友好病院締結
平成 7年 6月	新看護（2対1看護A）体制実施 11単位 460床
平成 7年 7月	入院時食事療法特別管理加算実施
平成 8年 4月	第6代院長 赤尾元一就任 夜間勤務看護加算実施
平成 8年 6月	MR棟（増築）完成
平成 8年 7月	MRを更新、CTを増設する。又、脳ドック、肺癌ドックを創設
平成 9年 2月	理学療法科をリハビリテーション科へ診療名を変更し歯科口腔外科を追加し 24科に
平成 9年 3月	透析センター（増築）完成 外来駐車場を40台分増設 旧NHK下関支局局舎取得
平成 9年 6月	新病院開設10周年記念講演会開催
平成10年 3月	新病院開設10周年記念誌発行
平成10年 4月	災害拠点病院の指定
平成10年10月	病院情報システム導入委員会の設置
平成11年 3月	心臓部血管連続撮影装置更新 無菌室完成
平成11年 4月	感染症医療機関（感染症2類）の指定 感染症病床数30床から6床へ減床 感染症病棟を1階東病棟へ変更（一般9床、感染症6床）
平成11年11月	中央採血室増築工事開始 1階東病棟へ普通個室4室増加
平成12年 3月	中央採血室増築工事完成 多目的血管連続撮影装置更新
平成12年10月	病院情報システム稼動（一次）
平成13年 3月	病院情報システム稼動（二・三次）
平成13年 4月	第7代院長 小柳信洋就任 外科、整形外科外来の予約診療制実施 院外処方開始
平成14年 4月	蓋井島診療開始
平成15年 1月	病院機能評価受審（平成15年8月認定）
平成16年 3月	救急センター改修（外来化学療法室の設置）
平成17年10月	CTを更新（64列マルチスライス）
平成18年 4月	看護職員配置基準 10対1体制（制度変更による）
平成18年 8月	地域がん診療連携拠点病院の指定
平成20年 2月	ESCO事業供用開始（ESCO事業：下関市立中央病院省エネルギー化事業）
平成20年 3月	リニアック室増築完成、リニアック装置更新
平成20年 6月	病院機能評価（Ver5.0）受審（平成20年8月認定）
平成23年 2月	電子カルテシステム稼動
平成23年 3月	地方独立行政法人下関市立市民病院定款議決
平成23年12月	地方独立行政法人化関連条例議決

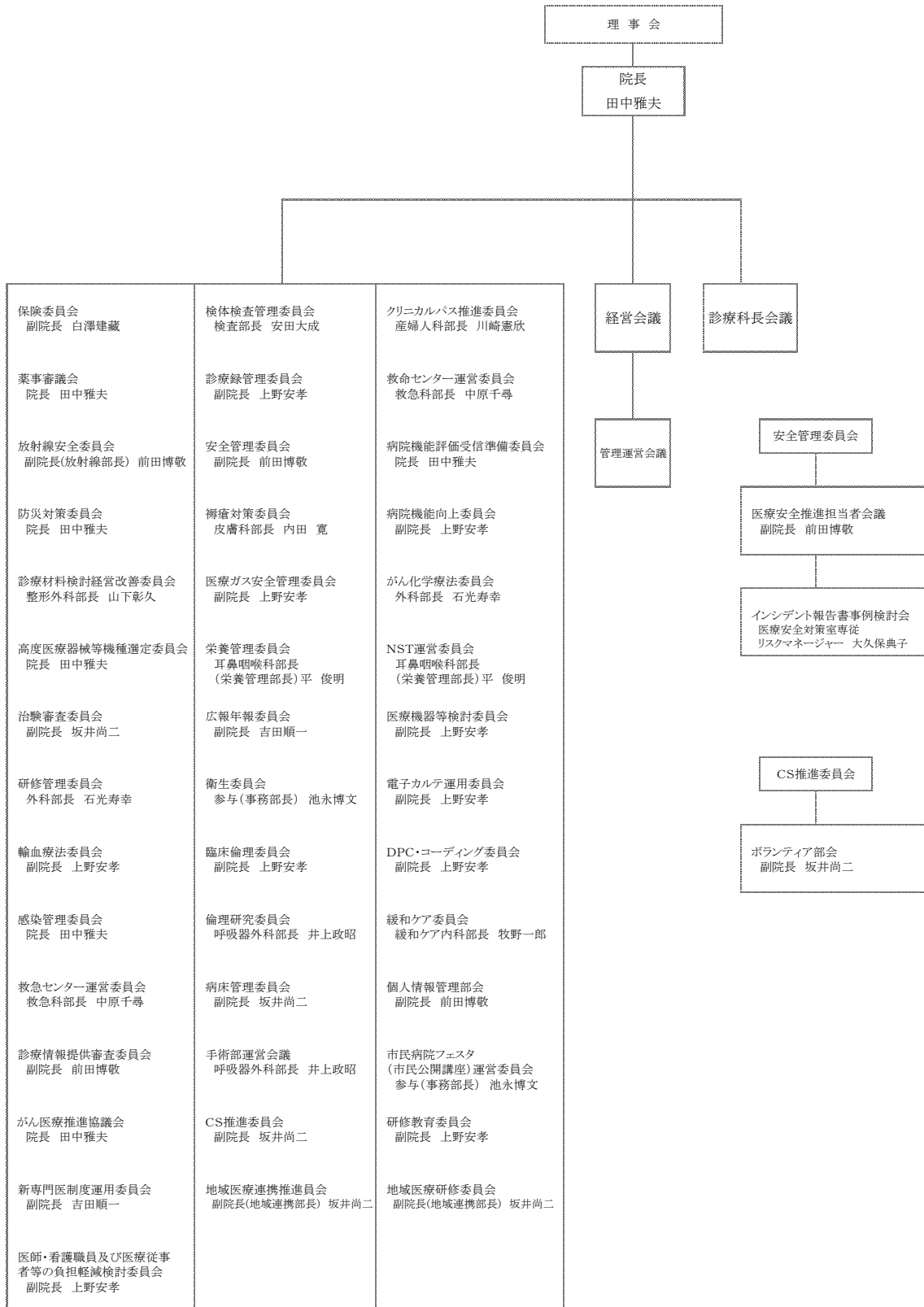
平成24年 2月	法人認可取得
平成24年 4月	地方独立行政法人下関市立市民病院設立（下関市立市民病院開設） D P C 準備病院、医療費預かり金制度開始
平成25年 3月	クレジットカード払制度開始 病棟改修工事（病室、デイルーム等）開始
平成25年 7月	コンビニエンスストア（ローソン）オープン
平成25年11月	I C U 10 床運用開始
平成25年12月	病棟改修工事（病室、食堂デイルーム等）完成
平成26年 6月	一般病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料算定開始
平成26年 8月	地域医療センター（仮称）建設工事安全祈願祭 リハビリテーションセンター（改築）完成
平成27年 3月	地域がん診療連携拠点病院の指定終了 院内改修工事（薬剤部、健診センター他）開始
平成27年 4月	第 8 代院長 田中雅夫就任
平成27年10月	地域医療センター（仮称）建設工事完成
平成27年11月	新館にて化学療法センター12床、透析センター32床、医局の運用開始
平成28年 3月	病院機能評価(3rdG:Ver. 1. 1)受審（平成 28 年 6 月認定）
平成28年 4月	D P C 対象病院移行
平成28年 5月	健診センター開設
平成28年 7月	緩和ケア病棟 20 床開設
平成28年 8月	緩和ケア病棟入院料算定開始（20 床）
平成28年10月	地域包括ケア病棟入院料算定開始（54 床） 栄養相談室改修
平成28年11月	救急センター改修
平成28年12月	生理検査室改修
平成29年 2月	地域医療支援病院の承認を得る
平成29年 5月	入院支援センター開設
平成29年 6月	内視鏡室・3 階西病棟改修
平成29年 7月	診察室、医療機器室改修
平成29年11月	サーバー室増設
平成30年 3月	電子カルテシステム更新 C T を更新（64 列マルチスライス）

下関市立市民病院組織図



(平成 30 年 4 月 1 日現在)

委員会組織図



(平成 30 年 3 月 31 日 現在)

腎臓内科

【スタッフ】

坂井 尚二 中村 亜輝子 千葉 弘胤（4月～9月） 田中 洋澄（11月～）

【概要】

スタッフは久留米大学腎臓内科の人事異動で、浦江憲吾医師が転任し千葉弘胤医師が着任しました。吉水秋子医師が九州大学第二内科のローテーション入りのために転任となり、前年度より1名減の3名体制となりました。年度途中の9月に千葉医師退任に伴い、11月より田中洋澄医師が大学人事により着任しました。途中2名体制の期間は非常に厳しい運営でしたが業務に支障なく診療を継続できました。

診療活動は腎疾患を中心とした専門内科として診療活動を行っていますが、専門内科のない呼吸器疾患や糖尿病のコントロールや治療、多臓器にわたる重症疾患に対して救急対応など、総合内科としての治療にも多く担当しています。

日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表を積極的に行い、研修医の指導にも力を注いでいます。糖尿病をはじめ生活習慣による疾患が増加しており、高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加しています。そのため福祉介護支援の重要性が増し、腎代替療法の血液透析では福祉介護スタッフによる通院援助など、在宅治療であるCAPD（腹膜透析）では訪問看護師の協力と多職種連携し、地域で医療を看る体制づくりを行っています。慢性腎臓病（CKD）の治療については全身疾患の一環として診るよう心がけており、早期からの予防のためには、患者様やかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考えています。そのためにも病診連携に力を入れ、紹介の患者様には個別の栄養指導を受けていただき満足度向上を図っています。実際の診療の場では看護師、臨床工学技士、栄養士などのコ・メディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざして行っています。

平成27年11月に新館にオープンした透析センターでは、規模の拡大だけでなく設備更新を行い、個々の患者様の病態に応じた治療ができるようにしています。

入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しても透析センター並びにICUにて積極的に対応しています。

【診療】

外来は週4日（火・水・金曜日午前、木曜日午前・午後）ですが、急性疾患や緊急時、院内外からの紹介には常時対応しています。

透析センターでは、32床を月・水・金曜日に午前・午後の2クール、火・木・土曜日は午前みの1クールで運営し、常時約90名の患者様が血液透析を受けています。また総合病院としての使命で他の透析施設から各科に入院となる患者様は積極的に受け入れています。整形・脳疾患はもとより、心・下肢血管のインターベンション治療目的の循環器疾患の患者様が増加しています。在宅治療である腹膜透析（CAPD）の導入も行っています。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBMに基づいて専門的治療を行うようにしています。IgA

腎症に対しては症例により治療法である扁桃腺摘出術、ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い、腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげています。最近では高齢者の急速進行性腎炎の代表である ANCA 関連腎炎が増加傾向にあります。遺伝性疾患である多発性嚢胞腎 (ADPKD) も新たな薬物治療 (バズプレッシン V2 受容体拮抗薬：トルバプタン) に取り組んでおり、腎嚢胞の増大を抑制し腎機能障害の進行抑制に取り組んでいます。慢性腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、心不全、糖尿病の治療は、専門医との連携を図りながら特に食事治療の重要性を考え栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行っています。患者様だけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めています。末期腎不全の腎代替療法 (腎移植、血液透析、腹膜透析) については、透析センターにて腎代替療法選択外来で対応し、個別に説明しています。慢性腎臓病 (CKD) の早期発見には、検診での尿異常など一般医と腎専門医との連携が必要です。特に高齢者においては潜在的に腎機能低下を有しており、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性があります。早期診断治療には、今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えています。

【入院患者統計】 (平成 29 年度)

病 名	慢性腎不全	101
	急性腎不全	8
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	28
	電解質異常	7
	尿路感染症	11
	心不全	9
	糖尿病・糖尿病腎症	19
	シャントトラブル	111
	呼吸器感染症	49
	その他	44
	総症例数	387
治 療	内シャント造設術	51
	CAPD 手術	4
	PTA	88
	経皮的腎生検	13
	血漿交換療法	1
	血球成分除去療法	26
	腹水濾過濃縮再静注法	30
	持続的血液透析濾過	10
	総件数	223

【業績集】

<学会・研修会>

開催 年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.4.20	①当院における浮腫治療の現状とサムスカの使用経験からの考察 ②腎臓から考える心不全	坂井 尚二 (座長)		地域医療研修会 よくわかる心腎 関連セミナー	下関市立 市民病院
2017.6.15 ~6.18	低エネルギー外傷で両側 腱断裂を来した症例	中村亜輝子 ¹⁾	浦江憲吾 ¹⁾ 吉水秋子 ¹⁾ 坂井尚二 ¹⁾ 吉村潤子 ¹⁾ 島田英二郎 ²⁾ 山下彰久 ²⁾	第62回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.6.15 ~6.18	ニプロ社製RO装置WRO システムを使用しての 水質及び熱水消毒温度 についての検討	佐々木毅 ³⁾	若尾泰子 ³⁾ 藤田忍 ³⁾ 前田友美 ³⁾ 鈴木雄揮 ³⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第62回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.6.15 ~6.18	シャント管理加圧マッ サージ法の取り組み	海野智枝 ⁴⁾	松本和美 ⁴⁾ 市川智春 ⁴⁾ 川満利恵 ⁴⁾ 木村裕子 ⁴⁾ 佐々木毅 ³⁾ 中村亜輝子 ¹⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第62回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.7.12	高齢者不眠診療の落とし 穴～せん妄と転倒を 増やさない薬物選択～	坂井 尚二 (座長)		不眠症を考 える会 in 下関	東京第一 ホテル下関
2017.10.29	偽性アルドステロン症 による低カリウム性周 期性四肢麻痺を呈した 一例	立田穂那美 ⁵⁾	中村亜輝子 ¹⁾ 江口 透 ⁶⁾ 野村 裕 ²⁾	日本内科学 会九州支部 第319回 九州地方会	福岡大学 8号館

腎臓内科¹⁾ 整形外科²⁾ 臨床工学部³⁾ 看護部⁴⁾ 研修医⁵⁾ 糖尿病内分泌代謝内科⁶⁾

内科・リウマチ膠原病内科

【スタッフ】

大田 俊一郎 医長 日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医

【診療】

市内唯一のリウマチ専門医常勤施設として関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめ下記のような様々な難治性自己免疫疾患の診察・診療を行いました。2015年度より地域連携をより重要視し、院内開催の地域連携のための研究会を立ち上げ、2018年3月時点で計6回開催しました。この3年間で多くの先生にご参加頂き、紹介・逆紹介ともに著明に増加しています。また2015年度より関節超音波検査を行う体制を構築しましたが、年々症例数も増加しており、関節疾患の鑑別、治療評価に役立っています。

【外来診療実績】（平成29年度）

関節リウマチ	311名	強皮症	65名
リウマチ性多発筋痛症	49名	混合性結合組織病	12名
RS3PE 症候群	8名	血管炎症候群	29名
悪性関節リウマチ	3名	Behcet 病	12名
若年性関節リウマチ	2名	Sjogren 症候群	63名
脊椎関節炎	11名	サルコイドーシス	8名
SAPHO 症候群	3名	成人発症 Still 病	4名
全身性エリテマトーデス	59名	IgG4 関連疾患	4名
多発性筋炎・皮膚筋炎	18名		

【生物学的製剤使用実績】（平成 29 年度；2018 年 3 月時点で使用中のみ）

薬剤名	例数
抗 TNF α 阻害薬	
レミケード	10 例
エンブレル	8 例
ヒュミラ	6 例
シンポニー	17 例
シムジア	5 例
抗 IL-6 受容体阻害薬	
アクテムラ	33 例
抗 CTLA4 抗体	
オレンシア	23 例
JAK 阻害薬	
ゼルヤンツ	8 例
計	110 例

緩和ケア内科

【スタッフ】

牧野 一郎 緩和ケア内科部長

【概要】

平成 29 年の緩和ケア内科の活動をご報告致します。

緩和ケア内科の診療は、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の 3 部門から構成されています。

緩和ケア外来は週 1 回・金曜日(急を要する場合は随時)に診療を行っています。市内はもとより県外からもご紹介を頂いており、昨年のはべ 180 人余りの患者様が受診されました。それぞれの患者様にできるだけの時間を取り、丁寧な診療を行うよう心がけています。緩和ケア病棟入院相談のための初診の患者様の他、最近では再来の患者様の数も増加しています。

緩和ケアチームは多職種からなる専門家集団であり、当院の一般病棟に入院されているがん患者様の様々な苦痛(肉体的のみならず精神的、社会的、霊的など)を緩和するための活動を行っています。

緩和ケア病棟はがん患者様の最後の砦です。平成 28 年 7 月の開設から 1 年余りが経ち、病棟運営も軌道に乗ってきました。院内外を問わずご紹介頂いた、幅広い領域のがんの患者様の診療・ケアを行っています。緩和ケア病棟では根治手術や抗がん剤などの抗がん治療は行いませんが、がんに伴う症状を和らげ、体調を維持、あるいは改善して頂くことを目標に診療を行っています。在宅復帰も視野に入れており、最近では体調を回復して自宅に退院する患者様の数も増えてきました。緩和ケア病棟=後がない、とっておられた患者様やご家族の方々から「来てよかった」とのお言葉を頂いています。

【診療実績】(平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月)

緩和ケア外来のべ外来患者数 181 名

緩和ケアチームラウンド 131 名

緩和ケア病棟診療概要

入院患者数 125 名

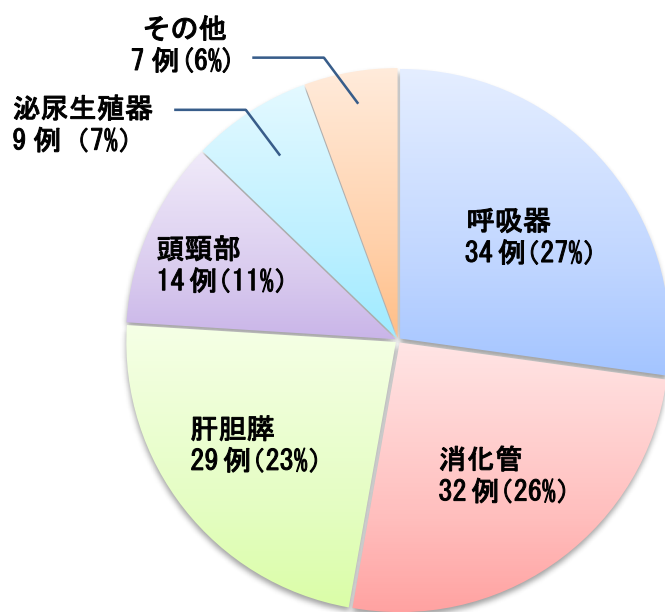
平均年齢 75.5 歳(24 歳～95 歳)

性別 男性 69 名

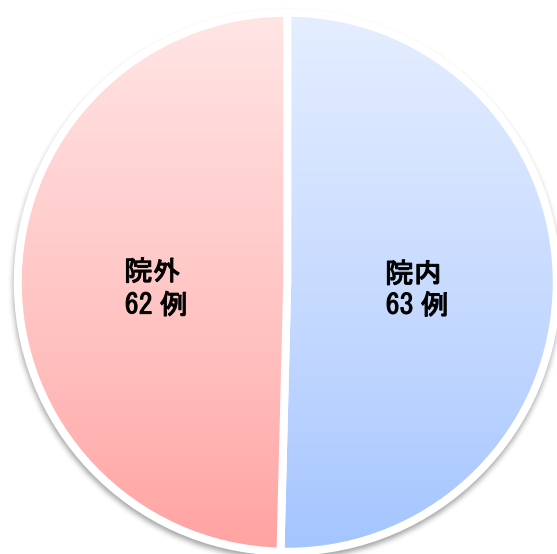
女性 56 名

平均在院日数 35.8 日(1～213 日)

原発部位別緩和ケア病棟入院患者数



紹介元医療機関



【ご紹介頂いた医療機関（紹介数）】

関門医療センター	(18)	松田内科クリニック	(2)
済生会下関総合病院	(11)	下関病院	(2)
下関医療センター	(8)	小倉医療センター	(1)
北九州市立医療センター	(4)	吉利医院	(1)
五十嵐内科	(3)	はしもと内科医院	(1)
山口大学	(2)	九州大学	(1)
九州がんセンター	(2)	大分県済生会日田病院	(1)
あかしクリニック	(2)	在宅	(2)

【業績集】

〈学会発表等〉

開催 年月日	演 題 名	演 者	学 会 名	場 所
2017. 1. 20	特別講演座長	牧野一郎	第 6 回下関チーム 医療緩和ケア懇話 会	下関市 (海峡メッ セ下関)
2017. 4. 12	「緩和ケアのご紹介」	牧野一郎	下関ロータリー クラブ卓話	下関市 シーモール
2017. 5. 20	「オピオイドを開始する時」	牧野一郎	第 6 回製鉄記念八 幡病院緩和ケア研 修会	北九州市 (製鉄記念 八幡病院)
2017. 5. 21	世話人	牧野一郎	第 46 回山口緩和 ケア研究会	山口市 (山口県教 育会館)
2017. 5. 27	「下関市立市民病院のご紹介 緩和ケア病棟設立記も併せて」	牧野一郎	2017 年度九州大 学第一外科北九州 同門会	北九州市 (ステーショ ンホテル小 倉)
2017. 9. 15	企画責任者	牧野一郎	第 7 回下関チーム 医療緩和ケア懇話 会	下関市 (関門医療 センター)
2017. 10. 21	「周術期リハビリテーション」 「化学療法・放射線療法の合併 症とリスク管理、骨転移患者へ の対応」	牧野一郎	がんのリハビリテ ーション研修会	山口市 (山口コ・ メディカル 学院)
2017. 10. 29	世話人	牧野一郎	第 47 回山口緩和 ケア研究会	山口市 (山口県教 育会館)
2017. 11. 1	緩和ケア「医師の視点から」	牧野一郎	第 1 回下関市立市 民病院緩和ケア研 修会	下関市 (下関市立 市民病院)

ペインクリニック内科（疼痛外来）

ペインクリニックは多種多様な痛みの治療相談に応じる外来です。

特に難治性とされる神経そのものの損傷や機能異常で起こる痛みに対しての相談に力を入れています。最近は多くの種類の鎮痛薬が開発され治療成績も向上しつつあります。

当外来では患者様と粘り強く治療を進めてゆくことを心がけています。

近年、痛みの治療において漢方薬の効果も確認され、当外来においても積極的に応用し、確かな治療成績を認めています。

【担当医】

藤原義樹（日本麻酔科学会専門医）

【対象とする疾患】

帯状疱疹後神経痛

三叉神経痛

腰痛

偏頭痛

難治性の腰痛

線維筋痛症など

【診察日時】

毎週 月曜日、水曜日、金曜日（午前 11 時まで受付）

【診療実績】

平成 29（2017）年は新患数 97 名でした。

内訳は帯状疱疹後痛が 32 例、腰椎症を含む腰下肢痛が 21 例、三叉神経痛を含む顔面痛 21 例、頸肩腕症候群などによる上肢の痛み 13 例、胸壁痛 8 例、舌咽神経痛 2 例と続きます。

他に心因性の疼痛や線維筋痛症などがあります。

治療方法としてトリガーポイント注射、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、キセノン光照射などの手技のほか、各種鎮痛薬、漢方薬などを併用しています。

近年、外来における神経ブロック（注射）が減少傾向ですが、疼痛管理のための内服薬の効能が向上しており、注射に頼らなくとも疼痛治療、管理が可能となってきています。

慢性の難治性疼痛に対する麻薬の貼付薬の処方が可能です。

【主な疾患とその症状】

帯状疱疹後神経痛：

帯状疱疹は水疱ができて皮膚科で治療を開始しますが、それが治癒した後も、その部

分にピリピリと走る痛みが続く場合をいいます。通常の“鎮痛薬”は無効なことが多く、特殊な薬剤が必要です。可能なら神経ブロックも行います。

頭痛：

頭痛には痛み方によりいくつかの診断があります。ドクドクと拍動するのは偏頭痛、目の周りがえぐられるように痛むのは群発頭痛、頭全体が締め付けられるように痛むのは緊張性頭痛、などです。脳の検査で異常がなく、たびたびの頭痛が起こる場合は、詳しく問診して適切な処方で行くことが多いです。

三叉神経痛：

世間で言うところの“顔面神経痛”のことです。目の周り、鼻の横、顎などに食事、歯磨き、ひげそりなどで誘発されるピリピリと電気が走るような痛みのことです。脳の検査も必要ですが、異常がなくて起こる方が多いです。

線維筋痛症：

原因不明の長引く全身痛です。あらゆる検査をしても“原因不明”の場合、その可能性があります。慢性化しているためうつ状態が加味されていることも多いです。通常の痛み止めはなかなか効果がありません。

循環器内科

【スタッフ】

金子 武生	部長	日本循環器学会認定循環器専門医
安田 潮人	医長	日本循環器学会認定循環器専門医
辛島 詠士	医長	日本循環器学会認定循環器専門医
與田 俊介	医師	
梶山 渉太	医師	

【概要】

4月に梶山渉太医師が加わり念願の5名態勢となりました。他のメンバーは代わらずチームワークも向上しました。

冠動脈形成術、下肢血管形成術、カテーテルアブレーションとも症例数は増加しました。

【診療実績】（平成29年1月～平成29年12月）

1日平均外来患者数は25.9名（前年+3.2名）、年間入院総数は800名（前年-39名）でした。

心臓カテーテル検査（PCI含まず）	388件	合併症	成功率
冠動脈形成術（PCI）	183件	4例	97%
緊急PCI（急性心筋梗塞など）	43件	0例	95%
待機PCI	140件	4例	97%
カテーテルアブレーション	24件	1例	96%

下肢等末梢血管造影（EVT含まず）	78件	合併症	成功率
下肢等末梢血管動脈形成術（EVT）	153件	3例	94%

ペースメーカー植込術	計 40件	
	新規	31件
	交換	9件

【業績集】(平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月)

<学会・ライブ>

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2017.1.21	「心筋梗塞を契機として 診断された多血症の 1 例」	久保山雄介	辛島詠士 與田俊介 安田潮人 金子武生	日本内科学 会第 316 回 九州地方会	九州大学
2017.2.18	Presentation Award (English oral presentation), Knuckled shaped 0.035 wire protrusion during the procedure of the ISR-CTO.	Eiji Karashima		JET2017	ガーデン シティ品川
2017.2.19	Most Valuable General Presentation Award, (最優秀賞受賞)	Eiji Karashima		JET2017	ガーデン シティ品川
2017.4.8	Demonstration2017, Local Faculty	辛島詠士		YUDA LIVE	ニューメディア アプラザ山口
2017.5.12 ~13	Demonstration, Faculty	辛島詠士		The 34th KOKURA LIVE	西日本総合 展示場
2017.5.12	Ultimate Iliac コメン テーター (11:00-12:30) 症例検討会 2 コメンテ ーター (14:00-15:30)	辛島詠士		The 34th KOKURA LIVE	西日本総合 展示場
2017.5.13	Ultimate Calcium コ メンテーター (14:00-15:30)	辛島詠士		The 34th KOKURA LIVE	西日本総合 展示場
2017.6.17 ~18	コメンテーター	辛島詠士		LEVEL4 (第 4 回 最新 のエビデンス と経験に基づ いた血管内治 療研究会)	森之宮 病院

2017.6.24	症例提示「下肢動脈造影目的の入院日に急性下肢虚血を発症した一例」	辛島詠士	辰元良麻 與田俊介 安田潮人 金子武生	日本循環器学会九州地方会	アクロス福岡
2017.6.24	症例提示「急性下肢虚血に対し、緊急でカテーテル治療を施行した1例」	辰元良麻	辛島詠士 與田俊介 安田潮人 金子武生	日本循環器学会九州地方会	アクロス福岡
2017.6.24	症例提示「心不全を契機に診断に至った左房浸潤肺癌の一例」	與田俊介	辛島詠士 安田潮人 金子武生	日本循環器学会九州地方会	アクロス福岡
2017.7.7	メディカル一般口演(英語) Ichibanyari PAD2 has a potential to dilate the quite stiff constriction (一番槍 PAD2 で硬い完全閉塞病変をブジーする！)	辛島詠士		第26回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT2017)	京都国立国際会館
2017.10.7	一般演題「同側順行OUTBACKの際、反省点の多かった1例」	辛島詠士		JPR2017	灘尾ホール
2017.10.28	ランチョンセミナー 「Leave the right thing behind –Think SFA treatment after DCB introduction–」 「Stent の Scaffold をどう使うのか？」	辛島詠士		CCT2017	神戸国際会議場
2017.11.22	「ARIA が選ぶこれからの Interventional Cardiologist 100 人」	選出 辛島詠士		ARIA	
2017.11.25	アフタヌーンレクチャー 「Preparation の真髄」 「Vessel Prep with NSE PTA for the better outcome! ~Pre stenting, Pre DCB~」	辛島詠士		CPAC2017	ロワジールホテル豊橋

2017.12.2	一般演題「総腸骨動脈の高度石灰化狭窄病変へのステントが内腸骨方向に開いてしまった症例」	辛島詠士	梶山渉太 與田俊介 安田潮人 金子武生	第 111 回 日本循環器学会 中国地方会	倉敷市 芸文館
2017.12.2	一般演題「心不全治療におけるトルバプタンの有効性と左房拡大の有無に対する比較検討」	梶山渉太	辛島詠士 與田俊介 安田潮人 金子武生	第 111 回 日本循環器学会 中国地方会	倉敷市 芸文館

<勉強会・ワークショップ>

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2017.3.2	参加者	辛島詠士	朝日イン テック	京都桂病院 EVT Workshop	京都桂病院
2017.4.20	Lecture 「サムスカが変えた私の 心不全治療」	辛島詠士		地域医療研 修会	下関市立 市民病院 講堂
2017.5.11	症例提示 「お見せしたくない EVT 症例」	辛島詠士		FOOT 11 th Meeting	ホテルク ラウンパ レス小倉
2017.5.26	座長	金子武生	第一三共 株式会社	Meet The Expert 特別講演	東京第一 ホテル
2017.6.8	特別講演「下肢潰瘍の新 たな治療～カテーテルで 挑む～」	辛島詠士	大塚製薬	下肢救済セミナー	東京第一 ホテル
2017.6.9	症例提示 「OUTBACK 使って みました」	與田俊介	テルモ 株式会社 座長 辛島詠士	第二回長州 足の会	山口グラン ドホテル
2017.6.15	一般演題「ナックルワイ ヤーがステントストラッ トから逸脱した EVT の 一例」	辛島詠士	興和創薬	第 19 回下関 循環器研究会	東京第一 ホテル
2017.7.1	特別講演「PAD に挑む～ 薬物・カテーテル治療～」	辛島詠士	第一三共 株式会社	IVR 研究会	済生会山口 総合病院

2017.7.13	講演 「サムスカが変えた私の心不全治療」	辛島詠士	大塚製薬	第 141 回関豊病薬会研修会	海峡メッセ 下関
2017.7.14	特別講演 「サムスカが変えた私の心不全治療」	辛島詠士	大塚製薬	Samsca Young Conference	ANA クラウンプラザホテル
2017.7.27	一般演題 「静脈血栓症に対するイグザレルトの効果」	辛島詠士	バイエル薬品 座長 金子武生	下関循環器カンファレンス	下関グランドホテル
2017.8.4	座長	辛島詠士	(特別講演) 松川龍二	Samusca conference	東京第一ホテル
2017.10.3	ゲストオペレーター	辛島詠士		福岡通信病院 PCI・EVT ワークショップ	福岡通信病院
2017.11.9	基調講演 「当院のカテーテル治療の現状」	辛島詠士	バーリンガーインゲルハイム 座長 金子武生 (特別講演) 上野高史	Intervention Conference	下関市立市民病院講堂
2017.11.11	ファシリテーター	辛島詠士		中四国二刀流の会 初陣	ホテルメルパルク岡山
2017.11.15	症例提示 「Case3」	辛島詠士		中国・四国 POBA Summit 2017	グランヴィア岡山
2017.11.16	一般講演 「水利尿薬サムスカの使い方」	辛島詠士		学術講演会	防府グランドホテル
2017.11.30	講演 「私の下肢動脈治療に対する取り組みと現状」	辛島詠士		学術講演会	生涯学習プラザ 2F

消化器内科

【スタッフ】

具嶋正樹、山口敢、村田征喜

*平成 29 年 3 月で濱田広之が退職、同年 4 月より村田征喜が就任しました。

【概要】

消化管領域を中心に、腫瘍や炎症性腸疾患などの消化器疾患全般に関する診断・治療にあたっています。

食道癌・胃癌に対しての内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を導入しており、ガイドラインに沿った加療を行っています。

昨年度より超音波内視鏡（EUS）装置が導入され、消化管癌の深達度診断や消化管粘膜下腫瘍の診断、治療方針決定のために有用な検査となっております。その他、内視鏡的大腸ポリープ切除、胃瘻造設や消化管出血、異物除去などの内視鏡的処置も数多く実施しています。本年度は内視鏡室が改装され、より快適な空間で、円滑に内視鏡検査、治療を行えるようになりました。

また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に関しては、近年症例が多く集まるようになり、病状に応じて免疫調整剤や白血球除去療法、抗 TNF α 抗体製剤なども適宜併用し治療を行っています。

外科的加療の必要な消化器疾患については、当院外科と密に連携を取りながら適切な加療が円滑に行えるよう心がけています。（尚、肝疾患に関して、専門的な処置、診療を必要とする場合は他院の専門医と連携し診療を行っています。）

【診療実績】（平成 29 年 1 月～12 月）

<内視鏡検査数>

上部消化管内視鏡検査	3,237 件
大腸内視鏡検査	971 件
超音波内視鏡検査	24 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	4 件
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	19 件
下部消化管内視鏡的粘膜切除術（EMR）・ポリープ切除術	172 件
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	1 件
内視鏡的消化管止血術	98 件
内視鏡的バルーン拡張術	8 件
内視鏡的ステント挿入術	4 件
内視鏡的異物除去術	13 件
胃瘻造設・交換	27 件

<入院診療疾患>

食道癌	10	S 状結腸軸捻転	10
食道静脈瘤	4	クローン病	12
食道良性疾患	7	潰瘍性大腸炎	6
胃癌	15	その他小腸大腸良性疾患	19
十二指腸癌	1	急性膵炎	26
胃・十二指腸腺腫	2	慢性膵炎	0
胃ポリープ	3	急性胆嚢炎	14
出血性胃十二指腸潰瘍	35	急性胆管炎	11
上部消化管出血	9	急性肝炎	2
その他胃十二指腸良性疾患	14	肝硬変	6
大腸癌	10	肝胆膵悪性腫瘍	4
大腸ポリープ	131	その他肝胆膵良性疾患	5
腸閉塞	27	腹膜炎	1
下部消化管出血（大腸憩室出血など）	30	貧血	10
虚血性腸炎	26	肺炎	47
結腸憩室炎	10	その他内科疾患	77
感染性腸炎	27		

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.05.22	非特異性多発性小腸潰瘍症の病態と診断	具嶋正樹	(座長)	第13回北九州消化器カンファレンス	ホテルニューターガワ
2017.06.24	ヘリコバクター・ピロリ感染と胃がん	具嶋正樹		平成29年度第1回市民公開講座	下関市立市民病院
2017.07.26	十二指腸狭窄を呈した特発性後腹膜血腫の1例	村田征喜	山口 敢 具嶋正樹	第15回下関消化器病フォーラム	下関グランドホテル
2017.10.07	十二指腸狭窄を呈した特発性後腹膜血腫の1例	徳永 修	村田征喜 山口 敢 具嶋正樹	第15回胃腸病態機能研究会	エーザイ株式会社福岡コミュニケーションオフィス
2017.11.17	妊娠を契機に増悪した潰瘍性大腸炎の1例	具嶋正樹	村田征喜 山口 敢	山口 IBD 講演会	ユウベルホテル

小児科

【スタッフ】

常勤医師：河野 祥二 岡田 裕介

非常勤：大賀 由紀（医師） 綿野 友美（医師） 永田 良隆（医師）
河原 典子（医師） 東 良紘（医師） 鮎川 淳子（臨床心理士）

【診療実績】

I 外来実績

(1) 外来総数

	延患 者数	新患 者数	紹介 件数	1日 平均	健診	定期 予防接種	おたふく かぜ	ロタ ウイルス
1月	508	87	35	26.7	19	93	5	12
2月	456	81	37	22.8	13	103	7	16
3月	604	97	49	27.5	22	101	9	14
4月	472	79	46	23.6	14	78	8	11
5月	430	71	29	21.5	14	78	7	8
6月	428	71	24	19.5	13	62	6	9
7月	410	74	31	20.5	16	55	6	5
8月	522	92	44	23.7	18	56	9	3
9月	447	82	50	22.4	4	43	6	5
10月	407	78	44	19.4	20	62	5	8
11月	398	56	24	19.9	11	80	9	12
12月	434	76	38	21.7	6	67	10	6
合計	5,516	944	451	22.4	170	878	87	109

インフルエンザの予防接種：145

(2) 専門外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アレルギー外来 (永田医師)	70	66	106	70	58	60	54	69	71	62	46	43	775
小児心身症外来 (大賀医師)	31	31	61	40	35	42	27	45	45	19	38	28	442
小児神経外来 (綿野医師)	50	24	61	43	33	39	44	58	32	42	35	46	507

II 入院実績（入院疾患別分類）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上気道炎 (咽喉頭炎・扁桃炎)	1	1	3	1	2	1	1	3	3			2	18
気管支炎			1		3		1	3		2			10
肺炎			2			1	1	1		2		4	11
インフルエンザ	3	4		5	1							1	14
アデノウイルス扁桃炎						1					1		2
RSウイルス感染症	4	2	1					5	11	7	3	4	37
マイコプラズマ感染症	2	1									1		4
ロタウイルス胃腸炎	1	1	14	3		1				1			21
感染性胃腸炎 (含ノロウイルス)	2	1	3	1		1	1	1		1	2	2	15
気管支喘息	1	2	1	1	2		2		1	3		2	15
喘息性気管支炎				2	1					1			4
食物アレルギー (負荷試験)	1	2	2	1	2		1	2		1	2		14
熱性けいれん	1				2	1			1				5
未熟児新生児疾患	3	5	4	2	2	3			4	2	2	1	28
川崎病	2		2	1									5
無菌性髄膜炎													0
X連鎖無ガンマグ ロブリン血症	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
体重増加不良・ 低身長	1	1	1				1	5					10
小 計													227
その他なし 尿路感染症など 3例、てんかん・けいれん性疾患 6例、急性中耳炎・急性副鼻腔炎など 9例、脳幹部腫瘍・後腹膜奇形腫 2例、伝染性単核症などウイルス性疾患 7例、細菌性髄膜炎・GBS感染症など 2例、検査入院・社会的入院 12例、突発疹 2例、思春期早発症 8例、ヒトメタニューモウイルス気管支炎 9例、便秘 2例、ボタン乾電池誤飲・胃重積症 3例、百日咳・クループ性気管支炎 4例、フルクトース・1.6ビスホスファターゼ欠損症 1例、特発性横断性脊髄炎・右横隔神経マヒ 2例、アナフィラキシーショック・悪性高熱症 2例、IgA血管炎 2例、カンピロバクター腸炎 2例													78
合 計													305

【下関市イルカふれあい体験】

平成 15 年度より、自閉症児を対象に動物介在療法の一つである「イルカふれあい体験」を山口大学教育学部と海響館の協力を得て毎年実施してきました。平成 29 年度も、海響館の雌イルカの出産および育児が必要となるため、休止となりました。

【業績集】

〈発表〉

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
H29. 1. 25	CPA の 4 か月男児例について	河野祥二 鳴海宏子		第 49 回下関 小児疾患 カンファレンス	下関市立 市民病院
H29. 5. 18	主訴は腹痛、腹部エコーが診断に繋がった腹部腫瘍の 2 例	岡田裕介	河野祥二	第 50 回下関 小児疾患 カンファレンス	下関市立 市民病院
H29. 7. 2	当院における小児 B 群溶血性連鎖球菌感染症の臨床的検討	岡田裕介	河野祥二	第 130 回 日本小児科 学会山口地 方会	ANA クラウ ンプラザホ テル宇部
H29. 7. 26	Yersinia pseudotuberculosis 感染症の 2 例	河野祥二		第 51 回下関 小児疾患 カンファレンス	下関市立 市民病院
H29. 10. 11	彦島地区で確認された百日咳の 3 症例	岡田裕介	河野祥二	第 52 回下関 小児疾患 カンファレンス	下関市 医師会 会議室
H29. 12. 3	予防接種をされるすべての先生方へー予防接種ガイドライン 2017 年度版を活用するー	河野祥二		平成 29 年度 山口県医師会 予防接種医 研修会	山口県 医師会 大会議室
H29. 12. 17	中枢性思春期早発症と自閉症スペクトラム障害の合併例についての検討	岡田裕介	河野祥二	第 131 回 日本小児科 学会山口地 方会	山口大学 医学部 第 3 講義室

外 科

【概要】

平成 29 年（2017）1－12 月

本年、外科スタッフは大きな異動はありませんでしたが、当科外科で修練した裊愷哲医師が麻酔科常勤医として赴任してくれました。麻酔科としても病院としても活躍を大いに期待したいところです。

例年通り今年も 11 月 24 日東京で行われました第 79 回日本臨床外科学会総会において当院外科を研修した川畑早紀研修医が「Gemcitabine+nab-Paclitaxel 施行後に行った腹腔動脈合併膵体尾部切除が RO 手術となった局所進行膵体尾部癌の一例」という演題を発表しましたが、惜しくも研修医 Award には今一步足りませんでした。

また 28 年度より募集が開始される新専門医制度について、吉田順一副院長（日本外科学会認定施設代表、下関市医師会理事）が産業医科大学や九州大学のプログラムの提携病院として活動しています。手始めに、山口県で取れる外科専門医とその上のサブスペシャリティ（消化器外科専門医、小児外科専門医、呼吸器外科専門医など）について講演し、若手外科医にとって魅力ある病院となるよう努めています。

なお実績として当年、次頁に紹介する医師から 2 名の外科専門医が誕生しています。

【週間予定に沿って】

月曜、木曜：術後カンファレンスにて、内視鏡手術ビデオを編集したものを全医師で検討し、医療安全の面や認定資格取得に向けて研鑽しています。

火 曜：診療科・部門横断的にカンサーボードを行い、患者様中心に病院として最適な治療方針を決定しています。

水 曜：朝、化学療法カンファレンスにてその週の化学療法件数を報告し、レジメの変更の際は個別の症例の紹介を行っています。

午後は外科・呼吸器外科の総回診後、退院支援スタッフカンファレンスを看護師、医療ソーシャルワーカー（MSW）や理学療法士と行い、患者様の継ぎ目無い（Seamless）退院や転院を図っています。

金 曜：抄読会で最新文献から自己研鑽と全医師への還元を行っています。また緩和ケアラウンドとチーム会議にて症例検討を行っています。

随 時：標準医療を忌避する例や終末期の倫理的な問題について臨床倫理委員会で検討しています。また研究課題については、文部科学省・厚生労働省ガイドラインに従い、同研究部会で審議を受けています。

【外科と関連科の医師と資格など、2017 年 12 月現在、*厚労省広告許可】

<外科・消化器外科>

●田中 雅夫 理事長・院長：

日本膵臓学会名誉理事長、日本外科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会監事、アジアオセアニア膵臓学会プレジデント；外科専門医*・

指導医、消化器外科専門医*・指導医・消化器がん治療認定医、消化器病専門医*・指導医、消化器内視鏡専門医*・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本胆道学会指導医、

- 石光 寿幸 外科部長・乳腺外科部長：
外科専門医*・指導医、消化器外科専門医*・指導医・消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、日本乳癌学会認定医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、検診マンモグラフィ読影認定
- 大谷 和広 消化器外科部長：
外科専門医*・指導医、消化器外科専門医*・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医*、がん治療認定医機構認定医、日本肝臓学会認定肝臓専門医
- 宮竹 英志 外科医長：
外科専門医*、日本内視鏡外科学会技術認定医*
- 江口 大樹 外科医師：
外科専門医*、消化器外科専門医*、救急専門医*、がん治療認定医機構認定医
- 川地 眸 外科医師

<呼吸器外科>

- 吉田 順一 副院長、外科部長・呼吸器外科部長
診療科長（外科・消化器外科・小児外科）：
外科専門医*、呼吸器外科専門医*、消化器外科専門医*感染症専門医*・指導医、抗菌化学療法指導医、ICD（インフェクションコントロールドクター）、がん治療認定医機構認定医・暫定指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医
- 井上 政昭 呼吸器外科部長：
外科専門医*・呼吸器外科専門医*、がん治療認定医機構認定医・暫定指導医
- 森 將鷹 呼吸器外科医師：2017年4月～9月
- 小山 倫太郎 呼吸器外科医師：2017年10月～

<救急科>

- 中原 千尋 救急部長：
外科専門医*、消化器外科専門医*
- 奥村 幹夫 救急科医師：
外科専門医*

救急科では一般外科であれば緊急例の手術を担当しますが、その間の外来を外科などの医師が補っています。また患者様にとっては継ぎ目無い診療を受ける体制をとっています。

<小児外科>

- 福原 雅弘 小児外科医師は上記の全医師と共同して業務を行いました。

<緩和ケア内科>

- 牧野 一郎 緩和ケア内科部長：

外科専門医*、消化器外科専門医*・指導医・消化器がん外科治療認定医、
がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、日本肝胆膵外科学会高度技能名
誉指導医、消化器病専門医*

以上、スタッフの布陣も充実し救急、外科手術、化学療法、緩和医療にいたるがん治療のすべてを担っております。患者様にとって安全で質の高い外科診療を目指し日夜、研鑽と教育に勤しんでいます。

【年間手術症例数】（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）

			開腹 開胸	鏡視下
消化管及び 腹部内臓	食道	食道切除再建術	0	0
		食道（粘膜下）腫瘍摘出術	0	0
		その他の手術	0	0
		（上記のうち）食道癌切除手術総数	0	0
	胃・十二指腸	胃全摘術	3	1
		幽門側胃切除術	6	4
		噴門側胃切除術	0	0
		胃部分切除術	0	1
		その他の手術	13	4
		（上記のうち）胃癌切除手術総数	10	6
	小腸・虫垂・ 結腸	小腸切除・狭窄形成術	6	0
		結腸切除術	13	50
		虫垂炎手術	4	18
		腸閉塞に対する手術	11	2
		人工肛門造設・閉鎖術	19	0
		その他の手術	4	0
		（上記のうち）結腸癌切除手術総数	4	50

	直腸・肛門	直腸切除術	2	11
		直腸切断術	1	4
		大腸（亜）全摘術	0	0
		肛門疾患手術	1	0
		その他の手術	1	0
		（上記のうち）直腸癌切除手術総数	4	14
	肝・胆・膵・脾	肝切除術	11	0
		胆のう摘出術	0	36
		総胆管結石症に対する手術	2	0
		膵頭十二指腸切除術	7	0
		膵頭十二指腸切除術以外の膵切除術	8	1
		脾臓摘出術	0	0
		その他の手術	6	1
		（上記のうち）肝・胆道・膵癌切除手術総数	20	1
	腹腔・腹膜・ 後腹膜	ヘルニア手術	55	0
その他の手術		17	3	
乳腺	乳房切除	12	0	
	乳房温存手術	19	0	
	その他の手術	4	0	
	（上記のうち）乳癌切除手術総数	31	0	
呼吸器・縦隔	肺・気管・ 気管支	肺切除術	3	46
		その他の肺・気管・気管支の手術	14	24
		（上記のうち）肺癌切除手術総数	3	41
	縦隔	胸腺摘除術	1	1
		縦隔腫瘍手術	0	1
		その他の手術	0	0
頭頸部・内分泌	甲状腺疾患に対する手術	1	0	
	副甲状腺疾患に対する手術	0	0	

	その他の手術	5	0
末梢血管	静脈瘤に対する手術	0	0
	その他の手術	57	0
外傷		8	0

【業績集】（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.02.10	一般講演	石光寿幸 (座長)		再発乳癌治療 Meet the Expert in 下関	下関市生涯 学習プラザ
2017.04.06 ～.04.08	病院・職種情報連携の抗菌 薬適正使用 (AS): 地域 4 病 院 5 年間で抗菌薬使用・血 液培養の密度、緑膿菌の感 受性をアウトカムに	吉田順一	原田由紀子 他病院 2 名	第 91 回日本 感染症学会 総会・学術講 演会	京王プラザ ホテル
2017.04.06 ～.04.08	日本の Clostridium difficile 感染症疫学研究報告: タイピング解析		吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学 研究グループ)	第 91 回日本 感染症学会 総会・学術講 演会	京王プラザ ホテル
2017.04.06 ～.04.08	日本の Clostridium difficile 感染症疫学研究報告: 発生率とリスクファクター		吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学 研究グループ)	第 91 回日本 感染症学会 総会・学術講 演会	京王プラザ ホテル
2017.04.06 ～.04.08	日本の Clostridium difficile 感染症疫学研究報告: 細菌学的検査法における 比較検討		吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学 研究グループ)	第 91 回日本 感染症学会 総会・学術講 演会	京王プラザ ホテル
2017.04.27 ～.04.29	セッション	田中雅夫 (司会)		第 117 回日本 外科学会定期 学術集会	パシフィコ 横浜
2017.04.27 ～.04.29	パネルディスカッション (特別発言)	田中雅夫		第 117 回日本 外科学会定期 学術集会	パシフィコ 横浜
2017.04.27 ～.04.29	敗血症の新・旧定義など諸 因子による腹部感染症術後 の転帰予測:	吉田順一	井上政昭 宮竹英志 江口大樹	第 117 回日本 外科学会定期 学術集会	パシフィコ 横浜

	ビッグデータの発掘		大谷和宏 石光寿幸 岩浪崇嗣 中原千尋 牧野一郎 田中雅夫		
2017.07.20 ～.07.22	周術期のクロストリジウム・ ディフィシル感染症の8例	奥村幹夫	吉田順一 中山和典 江口大樹 宮竹英志 中原千尋 大谷和宏 牧野一郎 石光寿幸 田中雅夫	第72回日本 消化器外科 学会総会	石川 (金沢)
2017.07.21	症例検討	奥村幹夫		第19回下関乳 腺画像診断 カンファレンス	下関グラン ドホテル
2017.07.28	特別講演	宮竹英志 (座長)		膵癌化学療 法セミナー in 下関(地域 医療研修会)	下関市立 市民病院
2017.08.30	一般演題	吉田順一 (座長)		下関がん免疫 セミナー	東京第一 ホテル下関
2017.08.31	トロンボモデュリンアルファ (遺伝子組み換え)注射剤 の使用経験	川地眸		福岡外科感染 症セミナー	ホテル 日航福岡
2017.09.15	第7回下関チーム医療緩和 ケア懇話会・症例検討会 開会あいさつ	牧野一郎		第7回下関チー ム医療緩和ケア 懇話会・症例検 討会	関門医療 センター
2017.10.06	当院での腹腔鏡下側方郭清 術の経験	江口大樹	石光寿幸 森將鷹 川地眸 奥村幹夫 宮竹英志 中原千尋 大谷和宏 井上政昭 牧野一郎	第18回福岡 内視鏡外科 研究会	西鉄グ ランド ホテル

			吉田順一 田中雅夫		
2017.10.12 ～.10.15	(デジタルポスター) 腹膜 播種が疑われ腹腔鏡下生検 などにより診断された結核 性腹膜炎の1例	奥村幹夫	吉田順一 中山和典 江口大樹 宮竹英志 中原千尋 大谷和宏 石光寿幸 田中雅夫	第25回日本 消化器関連 学会 (JDDW2017 FUKUOKA)	福岡
2017.11.23 ～.11.25	急速に増大した悪性葉状腫 瘍の1例	奥村幹夫		第79回日本 臨床外科学 会総会	東京国際 フォーラム
2017.11.23 ～.11.25	胃癌直腸癌の重複進行癌に対 し、抗癌剤を含む治療で寛解状 態まで導入できた1例	中原千尋		第79回日本 臨床外科学 会総会	東京国際 フォーラム
2017.12.07 ～.12.09	腹腔鏡下結腸切除、開腹肝 切除後に内ヘルニアをきた した1例	江口大樹		第30回日本 内視鏡外科 学会総会	国立京 都国際 会館
2017.12.07 ～.12.09	尿膜管遺残症に対し、臍輪を利 用して単孔式腹腔鏡下尿膜管 摘出術を施行した2例	福原雅弘		第30回日本 内視鏡外科 学会総会	国立京 都国際 会館

<論文>

論文・症例・原著等	著者	共同著者等	雑誌名等	巻・号・頁	年
Bezlotoxumab for Prevention of Recurrent Clostridium difficile Infection	Junichi Yoshida	M.H.Wilcox, D.N.Gerding 他	The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE	376 巻 4 号 305～317 頁	2017
(CommitteeReport)Multicenter collaboration study on the β -lactam resistant Enterobacteriaceae in Japan - The 65th anniversary public interest purpose project of the Japanese Society of Chemotherapy	Junichi Yoshida		Journal of Infection and Chemotherapy	23 巻 583～586 頁	2017
平成 29 年 胆・膵領域はこう展開する	田中雅夫		胆と膵	38 巻 1 号 1 頁	2017
病院紹介	田中雅夫		霜仁会会報	平成 29 年 1 月 275 号	2017
IPMN 診療における進歩と課題	田中雅夫		医学のあゆみ	261 巻 1 号 77～81 頁	2017
座談会『新専門医制度への対応』	吉田順一		勤務医ニュース	19 号 1～16 頁	2017
4 施設における病院・職種連携の抗菌薬適正使用：抗菌薬使用密度、血液培養密度および Pseudomonas aeruginosa に対する最小発育阻止濃度をアウトカムに	吉田順一	原田由紀子 菊池哲也 浅野郁代 植野孝子 他病院 12 名	THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS	70 巻 5 号 261～267 頁	2017
(委員会報告)日本化学療法学会 公益目的事業プロジェクト β -ラクタム系薬耐性腸内細菌科細菌に関する他施設共同研究	吉田順一		日本化学療法学会雑誌	65 巻 5 号 647～649 頁	2017

呼吸器外科

【概要】

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

2017年の全手術症例数は87例、原発性肺癌手術症例数は42例と前年度と比較し増加しました。当科では外科としての手術治療のみでなく呼吸器腫瘍センターとしての役割も果たしており、手術治療を選択されず抗がん剤治療や放射線治療を選択された患者様の治療も行っています。近年注目されているがん免疫治療は2016年から2017年末までに17例の治療を行いました。原発性肺癌治療は早期発見、早期治療が基本です。当院での肺癌手術治療は多くは内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行います。進行肺癌に対しては開胸で拡大手術にも取り組んでいます。また、進行肺癌患者においては術前に抗がん剤や放射線治療を行い、腫瘍を小さくした後で手術を行うこともあります。

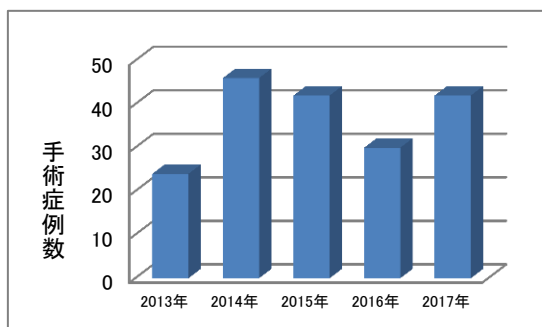
肺癌治療の進歩は目覚ましく、年々治療の適応が変化しています。当院では手術のみで肺癌治療を行うのではなく、手術治療・抗がん剤治療（分子標的薬、がん免疫治療を含む）・放射線治療を併用し、最も治療効果の高い治療を提供しています。勿論、治療方針は患者様やご家族の意見や希望を尊重して、話し合いで決定されます。

このように、当科の基本的治療方針である“患者様が受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”が実現できるように、臨床・研究において日々精進しております。本年もよろしく願いいたします。

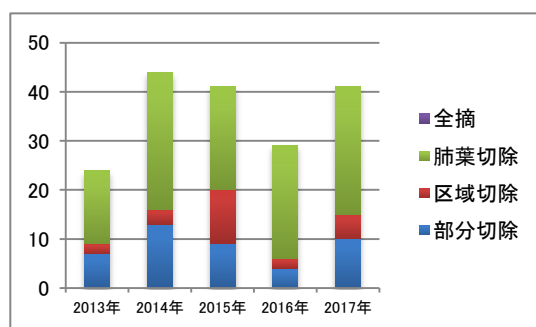
【原発性肺癌手術症例数】

年	2013	2014	2015	2016	2017
手術症例数	24	46	42	30	42

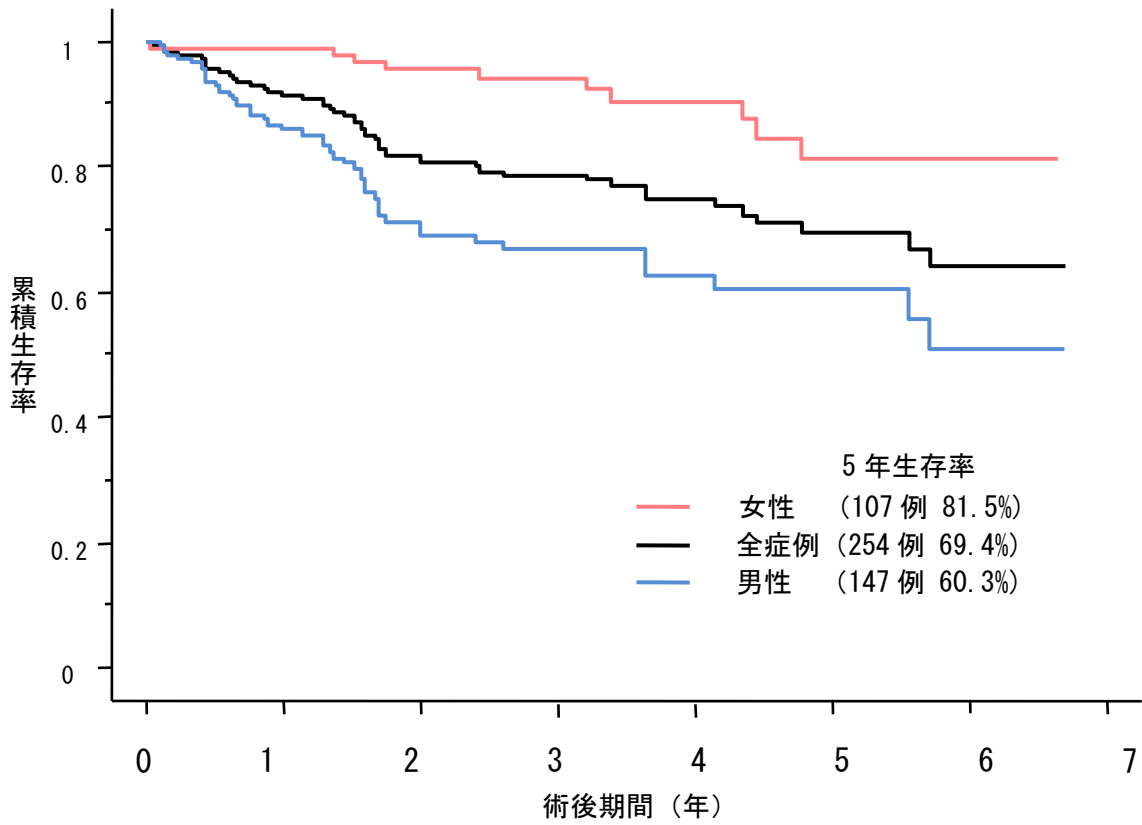
原発性肺癌手術症例数



原発性肺癌手術術式



肺癌術後生存率



脳神経外科

【スタッフ】

平成 29 年は医師 3 人体制で変更ありませんでした。3 月までは藤岡、4 月からは岩城に代わっております。

部長 中村 隆治 (2010.04～)
医長 尾中 貞夫 (2012.04～)
医師 藤岡 寛 (2015.04～2017.03)
医師 岩城 克馬 (2017.04～)

【概要】

昨年と同様に外来は予定手術日の木曜日以外は毎日行っております。木曜日でも可能であれば外来にも対応しております。急患にもできる限り対応しておりますのでご紹介ください。

脳神経外科での対象疾患は脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐に涉っております。最近では物忘れ、歩行障害を訴え受診する患者様が増えております。

その中には慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症の患者様も含まれており、積極的に物忘れの患者様も診察しております。シャント手術後に物忘れや歩行障害が改善する患者様がおられます。認知症サポート医を取得し認知症診断、治療にもかかわっております。アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭葉型などタイプを決定し、それぞれに対応した治療を行っております。

下関市は高齢化率が高く、手術となる症例は減少傾向にあります。入院患者様の多くは脳梗塞患者であり、そのうち半数以上が 80 歳以上で、t-PA (tissue-plasminogen activator: 組織プラスミノゲン活性化因子) 治療の適応にもなりにくい年齢層が多い状況です。岩城が平成 30 年 3 月に脳血管内治療医の専門医を取得しましたが、当院で血管内治療に従事しております。特に脳梗塞急性期の血栓回収を積極的に行い、予後改善に取り組んでおります。適応があれば頸動脈内膜剥離術や頸動脈ステント留置など積極的に取り組んでおります。脳腫瘍症例では診断に遺伝子解析が必要となり、九州大学脳神経外科と連携し診断を行っております。転移性脳腫瘍が多く放射線治療、特にガンマナイフと組み合わせ、侵襲の少ない治療を心がけています。

また、脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により ADL (Activities of Daily Living: 日常生活動作) 改善につなげたいと考えておりますのでご相談ください。

【診療実績】2017年(1月～12月)

1. 入院症例；約300例
2. 手術症例；62例

主な症例の内訳)

脳腫瘍	13例
脳動脈瘤クリッピング (破裂2例、未破裂1例)	3例
血腫除去術	5例
急性硬膜下および外血腫	1例
慢性硬膜下血腫	23例
水頭症(脳室腹腔シャント術等)	6例

3. 血管内手術；10例

内訳)

脳動脈瘤コイル塞栓術 破裂	3例
脳梗塞急性期 血栓回収術	7例

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.3.3	ベバシズマブを使用した膠芽腫の1例	藤岡 寛	中村隆治 尾中貞男	関門脳腫瘍カンファレンス	小倉ステーションホテル
2017.9.23	認知症と共に生きる	中村隆治	林 邦厚	市民病院フェスタ	下関市立市民病院講堂
2017.10.18	当院における血栓回収療法の導入と成績	岩城克馬	中村隆治 尾中貞夫	第8回関門CVDカンファレンス	小倉ステーションホテル
2017.10.25	入院加療を要した悪性症候群の4例	尾中貞夫	中原千尋 江口大樹 奥村幹夫	第45回日本救急医学会総会	リーガロイヤルホテル 大阪 大阪国際会議場
2017.12.19	拍動性腫脹を認めた頭蓋骨線維性骨異形成症の1例	岩城克馬	尾中貞夫 中村隆治	第84回日本脳神経外科学会中国四国支部会	海峡メッセ 下関

心臓血管外科

【スタッフ】

上野安孝 副院長、栗栖和宏 部長、木村聡 医長（～9月）と元松祐馬 医長（10月～）、満尾博 医師（～3月）と西健斗 医師（4月～）の4名体制で診療を行いました。

【診療概要】

心臓血管外科では、成人の心臓疾患（虚血性心臓病、弁膜症、重症心不全、不整脈など）や大動脈疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤など）、末梢動静脈疾患などの手術を中心とした診療を行っています。

虚血性心臓病に対する冠動脈バイパス術では、低侵襲で合併症の少ない心拍動下冠動脈バイパス術（人工心肺を使用しない手術）を第一選択として行っています。また、バイパスグラフトには長期開存性に優れる動脈グラフトを多用する方針としています。

僧帽弁膜症に対する手術では、心機能維持に優れる弁形成術をできるだけ行う方針としています。

大動脈疾患に対する治療では、通常の手術（開胸・開腹下の手術）に加えてステントグラフト内挿術も行っています。また胸部大動脈瘤において、通常の手術時にステントグラフト内挿術を組み合わせる方法（オープンステントグラフト法）も取り入れています。

末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症など）に対しては、血行再建（バイパス手術や血栓除去＋血管内治療など）を行っています。また、下肢の静脈瘤に対する治療は、静脈剥去術に加えて血管内焼灼治療も行っています。

なお心臓血管疾患では、突然病態が悪化する疾患（急性冠症候群、大動脈瘤破裂や急性大動脈瘤解離、急性動脈閉塞症など）があり、その際には緊急手術を行っています。

【診療実績】（平成29年1月～12月）

心臓血管外科の平成29年の、外来患者延数は2,113人、初診262人、紹介率93%、逆紹介率175%でした。入院延数は3,503人、平均在院日数18.2日でした。

心臓血管外科における平成29年の手術実績は下記の通りでした。手術室における手術件数は193件で、昨年に比べ増加しました。

A.心臓大血管手術

開心術症例数(人工心肺症例＋人工心肺非使用冠動脈バイパス症例＋胸部ステントグラフト症例)は69例でした。そのうち冠動脈バイパス術は人工心肺非使用心拍動下手術を12例、人工心肺使用手術を8例に行いました。弁膜症手術は33例でした。心臓腫瘍手術を1例に行いました。胸部大動脈手術は14例でした。うち4例に対してステントグラフト内挿術を行いました。なお急性大動脈解離の症例5例に緊急手術を行いました。

B.腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤に対する手術総数は 23 例でした。人工血管置換術を 7 例に、ステントグラフト内挿術を 16 例に行いました。

C.末梢動脈手術

末梢動脈手術総数は 24 例でした。内訳は下肢動脈閉塞に対するバイパス術を 9 例、血栓除去術を 9 例、内膜剥離を 2 例などでした。

D.下肢静脈疾患

下肢静脈瘤手術総数は 63 例でした。伏在静脈ストリッピング術が 27 例、血管内焼灼治療が 24 例でした。また、外来手術にて高位結紮術を 12 例に行いました。

<心臓血管外科手術統計> (平成 29 年 1 月～12 月)

心臓手術 55 例

虚血性心臓病手術	冠動脈バイパス術 20 例 (体外循環非使用心拍動下手術 12 例) 左室自由壁破裂修復術 1 例
弁膜症手術	33 例 大動脈弁置換術 22 例 (+冠動脈バイパス術 6 例+不整脈手術 1 例) 大動脈弁置換術+三尖弁形成術 3 例 (+冠動脈バイパス術 1 例+不整脈手術 1 例) 僧帽弁置換術 2 例 (+冠動脈バイパス術 1 例+不整脈手術 1 例) 僧帽弁置換術+三尖弁輪形成術 4 例 僧帽弁形成術 2 例
心臓腫瘍手術	1 例

大血管手術 37 例

上行大動脈置換術	3 例 (急性 A 型大動脈解離 3 例)
部分弓部大動脈置換術	1 例 (急性 A 型大動脈解離 1 例)
弓部大動脈置換術	5 例 (急性 A 型大動脈解離 1 例)
胸腹部大動脈置換術	1 例
胸部大動脈ステントグラフト内挿術	4 例
腹部大動脈置換術	7 例
腹部大動脈ステントグラフト内挿術	16 例

末梢血管手術 101 例

大腿-大腿動脈バイパス術	1 例
大腿-膝上膝窩動脈バイパス術	3 例
大腿-膝下膝窩動脈バイパス術	2 例
大腿-脛骨動脈バイパス術	3 例

血栓除去術±血管形成術	9例
血管内膜剥離+パッチ形成術	2例
大腿動脈損傷修復術	2例
動静脈瘻修復術	1例
上腕動脈表在化手術	1例
シャント造設術（人工血管）	7例
シャント瘤修復術	3例
人工血管抜去±血管形成術	3例
リンパ漏手術	1例
下肢静脈瘤ストリッピング術	27例
静脈血管内焼灼術	24例
下肢静脈瘤高位結紮術	12例

【業績集】

<学会・研究会>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017. 2. 10		上野安孝	(座長)	下関医師会学術講演会	下関(東京第一ホテル下関)
2017. 4. 19 ~21	大動脈手術後の仮性大動脈瘤の治療	満尾 博	栗栖和宏 木村 聡 上野安孝	第45回日本血管外科学会学術総会	広島(広島国際会議場・ANAクラウンプラザホテル広島)
2017. 5. 31	心臓手術ってどんな手術?	栗栖和宏		下関西ロータリークラブ卓話	下関(シーモールパレス)
2017. 6. 9	債務不履行責任および不法行為責任	木村 聡		第23回福岡心臓血管外科懇話会	二日市(大丸別荘)
2017. 6. 15	A型大動脈解離の緊急手術—急性それとも慢性?	西 健斗	栗栖和宏 木村 聡 上野安孝	第19回下関循環器研究会	下関(東京第一ホテル下関)
2017. 7. 27		上野安孝	(座長)	下関循環器カンファレンス	下関(下関グランドホテル)

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2017. 7. 27 ~28	急性か慢性か判断 に迷った A 型大動 脈解離の一例	西 健斗	栗栖和宏 山下慶之 木村 聡 上野安孝	第 50 回日本胸 部外科学会九 州地方会総会	福岡(アクロ ス福岡)
2017. 9. 26 ~29	高齢者における術 前 ADL と術後早期 の回復具合の関係 一地方病院での surgical AVR の成 績をもとに一	木村 聡	栗栖和宏 上野安孝	第 70 回日本胸 部外科学会定 期学術総会	札幌(さっぽ ろ芸術文化 の館・ロイト ン札幌)
2017. 12. 2	疣腫により左室流 入障害をきたした 人工弁感染の一例	西 健斗	栗栖和宏 木村 聡 上野安孝	第 111 回日本循 環器学会中国 地方会	倉敷(倉敷市 芸文館)
2017. 12. 2	大動脈手術におけ る脊髄保護戦略： 遅発性対麻痺に対 するネクロプトー シスの検討	本松祐馬	塩瀬 明	第 123 回日本循 環器学会九州 地方会	久留米(久留 米シティプ ラザ)

小児外科

【スタッフ】

医師：福原 雅弘

【外来患者数】（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）

新患：145 名、再来：379 名、計 524 名

【入院症例】（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）

男：36 名、女：14 名 計 50 名

急性虫垂炎	9	胆道閉鎖症	1
臍ヘルニア	3	奇形腫群腫瘍	1
鼠径ヘルニア	7	リンパ管腫	2
停留精巣	11	その他	7
陰嚢・精索水腫	9	計	50

【業績集】

〈発表〉

開催年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2017. 12. 7 -9	尿膜管遺残症に対し、 臍輪を利用して単孔 式腹腔鏡下尿膜管摘 出術を施工した 2 例	福原雅弘	大谷和広 川地 眸 奥村幹夫 江口大樹 宮竹英志 中原千尋 石光寿幸 吉田順一 田中雅夫	第 30 回日本内視 鏡外科学会総会	国立京都 国際会館
2017. 12. 17	腹痛を主訴に腹部エ コーが診断に有用で あった小児腹部腫瘍 4 例 ～当院における小児 腹部腫瘍の治療マネ ジメント～	福原雅弘	宗崎良太 伊崎智子 松浦俊治 田口智章	第 131 回日本小 児科学会山口地 方会	山口大学 医学部

整形外科

【スタッフ（専門、認定）】

副院長 兼 脊椎・脊髄病センター長 白澤建藏

（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本専門医機構整形外科専門医・日本整形外科学会専門医・脊椎内視鏡下手術技術認定医・脊椎脊髄病医・リウマチ医・スポーツ医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本リウマチ財団リウマチ医）

整形外科部長 山下彰久

（脊椎脊髄疾患・関節疾患、日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

医長 野村裕

（日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医）

医長 原田岳

（リウマチ・人工関節・膝関節・股関節疾患）

医長 渡邊哲也（脊椎脊髄疾患・足の外科）

橋川和弘医師、藤井勇輝医師、杉修造医師、鶴居亮輔医師、古川寛医師の10名が勤務しました。

【治療現況】

骨折等の骨関節の救急外傷の治療、脊椎脊髄疾患の診断と外科的治療、変形性関節症及び関節リウマチの薬物治療及び外科治療、小児の整形外科疾患、足の外科等を主体に治療を行っています。

なかでも脊椎脊髄疾患の手術症例は、山口県内でも非常に多く、低侵襲脊椎手術では、内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術や腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症）に対する経皮的脊椎手術や最小侵襲脊椎手術（経皮的椎弓根スクリューによる脊椎固定術、側方進入前方固定術）、成人脊柱変形（いわゆる成人の腰曲がりや側弯症）に対する脊柱再建手術、特発性脊柱側弯症に対する側弯矯正手術、骨粗鬆性脊椎椎体（圧迫）骨折に対する椎体形成術やBKP（バルーンカイトフォプラスティー）、前側方アプローチによる椎体置換術、頸椎変性疾患（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア）に対する椎弓形成術、透析やリウマチに伴う頸椎病変（環軸椎脱臼、軸椎下亜脱臼）の手術、アテトーゼ型脳性麻痺に伴う頸髄症手術、脊髄腫瘍や転移性脊椎腫瘍の手術等多岐にわたる実績を持っています。

また、関節疾患では変形性関節症やリウマチに対する人工関節手術が多く特に人工膝関節手術は県内でも有数の症例数を誇っています。スポーツ外傷やリウマチ、膝疾患に対する関節鏡下手術（膝半月板手術、膝前十字靭帯再建術、滑膜切除術）等で良好な成績を収めています。

【腰痛に対する最新の治療法】

I.腰痛の薬物治療

腰痛を起こす疾患は多岐にわたり、若い人では腰椎椎間板ヘルニアが多く、高齢者では腰部脊柱管狭窄症が最も多くなっています。慢性の腰痛に対して、これまでは消炎鎮痛剤の投薬、トリガーポイント注射、温熱療法などが行われてきましたが、最近では消炎鎮痛剤の投与頻度は減り、これに変わってオピオイド系の薬の投与が保険で適応となりました。さらに、様々な新薬が開発されています。このオピオイド系の薬（トラマドール、ブプレノルフィンの1週間持続貼付剤、デュロキセチンなど）は、麻薬と同じような作用で効果を示しますが、麻薬と違って厳しい管理は必要でなく長期投与が可能です。また、長期に服用しても安全で副作用も少なく安心して使用できます。人によっては便秘が起きますが、緩下剤投与でコントロールが可能です。更に、今後とも様々な疼痛治療薬が開発されており、先々市販される予定のものも多くあります。

II.腰痛の手術治療

一方、手術治療も変遷してきました。様々な脊椎の手術をなるべく小さな侵襲で行う取り組みがなされています。小侵襲ですということはキズが小さく術後の疼痛が少ない、出血量を少なくできる、術後の回復が早く早期に退院や社会復帰ができるということです。

また、小侵襲であれば、免疫力や抵抗力が落ちにくいため術後の感染や全身の合併症も少なくすることができます。

現在、当科で行っている脊椎の小侵襲手術としては内視鏡下椎間板摘出手術（MED）が挙げられます。10年前から開始しており、すでに500例以上の実績があります。皮切は1.5cmと小さく、手術侵襲も小さいため術後1週間以内に退院可能です。

腰部脊柱管狭窄症に対しては、神経の圧迫を取り除く除圧術に内視鏡下手術や顕微鏡手術といった方法で侵襲を少なくする方法があります。また、病気の種類によっては脊椎を固定する必要があり、小さな皮切で筋肉や脊椎骨を術野に展開しない経皮的椎弓根スクリュー法（PPS）による脊椎固定術を行っています。この方法では従来法と比べて出血量を抑さえ、手術による身体への負担（小侵襲）を少なくするのが目的です。ただし、手術中にレントゲンの透視装置を使うため術者、助手、看護師は放射線防護のため鉛の服を着て手術に臨み、放射線の被曝もするため医師には優しくない手術となります。

このPPS法に加えて、最近では小侵襲腰椎側方椎体固定（XLIF, OLIF）という最新の方法を平成27年3月より行ってきました。すでに100例以上の実績があります。

XLIFとは、側腹部（腸骨と肋骨の間）に約3cm程度の皮膚に小切開を入れ、筋肉を切離、切除せずに椎体の側方から腹膜外アプローチで椎間板を取り除き、ケージといった特殊な挿入物で固定して、脊椎の安定性を高める手術方法です。これまでの手術ではお腹に20cm程度の大きなキズで腹部の筋肉を切離しながら腹膜に到達する必要がありました。術後の疼痛が強く、侵襲も大きく大手術の部類に入っていました。腹部外科で腹腔内を手術する際、この腹筋群を切らずにする方法が腹腔鏡下手術です。このXLIFはお腹は切らずに腹膜外からアプローチします。ここは内視鏡では出来ませんが、特殊な開創器や手術器械を使うので小皮切で行うことができるようになり、出血は少なく術翌日から歩行が可能となりました。日本では2013年から厚労省に使用承認され、一部の認定病院で実施されてき

ました。この XLIF と PPS を組み合わせと行うことで腰椎の強固な固定と間接除圧を小さな侵襲で行うことが出来ます。PPS のため背部に数箇所の小切開と XLIF 用に側腹部に約 3cm の皮膚切開（皮切）で手術を実施できます。この手技の最大の利点は、間接除圧と言って脊髄の神経を直接触らないで神経を圧迫から解除する事にあります。神経に直接触らないので脊柱管内の神経に対し安全性が高く、従来の術式で起こっていた術後神経合併症（下肢の運動麻痺など）の危険性が殆どありません。また、出血が従来に比べ非常に少ないなど体への負担が少ない手術方法です。対象となる疾患は、腰部脊柱管狭窄症のなかでも腰椎変性すべり症、腰椎変性側弯症、腰椎後弯症、腰椎分離（すべり）症の一部などです。手術の成績は極めて良好で、術前の腰痛や下肢のしびれはほとんど軽快します。また、出血量が少なく、皮膚の切開も小さいため、術直後の傷の痛みも非常に軽くリハビリも順調に進んでいきます。そのため、これまでの脊椎の固定術が 3 から 4 週間程度の入院期間であったのが、半分の 10 日 - 14 日程度に短縮されました。

XLIF は全国でも限られた医師と医療機関でのみ実施されており、XLIF 専用の手術研修を受けて認定医となる必要があります。また手術には安全性確保のため、XLIF 専用の脊髄神経機能のモニタリング装置が必要です。当院では指導医資格を 3 名が保有し、XLIF を日本導入早期から開始しており手術の安全性向上のため様々な取り組みも行っています。脊柱管狭窄症以外にもこの XLIF を成人脊柱変形（いわゆる腰曲がりや側弯症）や再手術症例に応用しています。従来方法と比して明らかに小さな侵襲で患者様の身体への負担も少なく手術成績も良好です。

【手術症例数】（平成 29 年）

手術法		手術件数	
脊髄		326	
四肢外傷	大腿骨近位部骨折	150	
	骨折・脱臼	160	
	腱損傷・その他	18	
骨軟部腫瘍	良性	3	
	悪性	1	
上肢・手	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	肩	0
		肘	0
		手指	0
	関節鏡視下手術	肩	0
		肘	0
		手	0
	関節形成術（骨切り他）	0	
	神経、筋腱	17	
その他	32		
下肢	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	股	99
		膝	109

	関節鏡視下手術	股	0
		膝	47
		足	0
	関節形成術（骨切り他）		15
	神経、筋腱		2
	その他		53
合 計			1,032

【業績集】

<論文>

発表年	表 題	著者	雑誌名
2017	Sacral alar-iliac screw を利用した腰仙固定の骨癒合の検討	千住隆博	整形外科と災害外科 volume.66 92-96

<学会発表等>

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名	場 所
2017.1.19	講演：後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症	白澤建藏	第18回下関市保健所難治性疾患講演会	下関
2017.2.26	胸腰椎移行部の骨粗鬆症性椎体骨折に対する MISt の適応と問題点について	山下彰久	第8回日本 MISt 研究会	東京
2017.3.11	上腕骨遠位骨幹部骨折に合併した撓骨神経麻痺の一例	有隅晋吉	第26回山口県骨折治療研究会	山口
2017.5.13-14	MISt 講義とワークショップ	山下彰久 他	TSC スパイントレーニングコース	東京
2017.5.29	当科における頸椎椎弓形成術後合併症	白澤建藏	北九州脊椎脊髄研究会	福岡
2017.6.4	リウマチ性頸椎病変の手術	白澤建藏	第131回下関膠原病・リウマチ懇談会	下関
2017.6.14	脊椎疾患の疼痛管理について	渡邊哲也	第6回下関整形外科レントゲンカンファレンス	下関
2017.6.16	頸椎椎弓形成術中に生じた脊髄梗塞の1例	島田英二郎	第87回西日本脊椎研究会	福岡
2017.6.28	講演：圧迫骨折のそもそも —骨粗鬆症性椎体骨折の診断と	山下彰久	第3回下関骨粗鬆症椎体骨折セ	下関

	最新治療-		ミナー	
2017.7.22	両上肢運動麻痺で発症した偽性アルドステロン症の一例	野村裕	第6回巖流整形外科フォーラム	下関
2017.7.22	興味深い首下がりの一例	山下彰久	第6回巖流整形外科フォーラム	下関
2017.10.21	特別講演：脳性麻痺に合併する頸髄症の診断と治療	白澤建藏	第34回日本脳性麻痺の外科研究会	佐賀
2017.11.12	サルモネラによる化膿性脊椎炎の1例	古川寛	第134回西日本整形災害外科学会	鳥取
2017.11.12	術後出血にて治療に難渋した3例凝固第13因子測定的重要性	鶴居亮輔	第134回西日本整形災害外科学会	鳥取

皮膚科

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

平成元年 4 月から皮膚科専門医である 内田 寛 が一人で担当しています。

【診療実績】

< 外来 > 患者数 6,802 名、新患者 708 名

 外来手術 53 件

< 入院 >

細菌性疾患	14 件
ウイルス性疾患	15 件
湿疹 皮膚炎群	6 件
熱傷	3 件
悪性腫瘍	2 件
良性腫瘍	1 件
水泡症	2 件
紅斑症	1 件
血管炎	1 件
薬疹	1 件
褥瘡	1 件
乾癬	1 件
計	48 件

泌尿器科

【概要・診療】

泌尿器科は、日本泌尿器科学会専門医教育施設としての認定を受け、医師 2 名【吉弘 悟；日本泌尿器科学会専門医・指導医、金岡源浩(2017 年 3 月まで)；同 専門医・指導医、松隈悠(2017 年 4 月より)】で診療を行いました。外来は二診体制で行っています。(二診は再診予約のみ)

【手術】

2017 年も悪性腫瘍に対する手術が大多数を占め、手術件数は 85 件と例年より若干減少し、TUR-P の減少が目立ちました。

今年の特徴として、膀胱癌が 40 例と多く、TUR 38 例と膀胱全摘および膀胱部分切除術がそれぞれ 1 例ずつでした。腎癌は 9 例（全摘 4 例、部分切除 5 例）で、全摘のうち 1 例は腎盂癌、部分切除のうち 1 例は転移癌でした。前立腺生検数の減少の影響で根治的前立腺全摘術は 3 例と例年より減少しました。

<手術実績> (総数 85 件) 2017 年 1 月～12 月

主な手術	件数	主な手術	件数
TURP (経尿道的前立腺切除)	4	副腎髓質腫瘍摘除術	1
TURBT (経尿道的膀胱腫瘍切除)	38	陰嚢水腫根治術	3
膀胱全摘術	1	尿道ステント前立腺部尿道拡張術	5
膀胱部分切除術	1	TUL (経尿道的尿管結石破砕)	2
根治的腎摘除術 (腎盂癌)	4(1)	精巣摘除術	2
腎部分切除術 (転移癌)	5(1)	尿道狭窄内視鏡手術	1
根治的前立腺全摘術	3	その他	14
腎尿管全摘術	1		

【検査】

膀胱鏡検査は 233 件と例年より多い結果となりました。2017 年 10 月よりハイビジョン軟性膀胱鏡システムを更新し、早期がんの発見に貢献する狭帯域光観察(NBI)による詳細な検査が可能となりました。前立腺生検は術前スクリーニングとして MRI 検査を行うことで 43 件と減少しましたが、28 例 (65%) が前立腺癌であり、発見率は例年以上でした。

<検査>2017 年 1 月～12 月

主な検査	件数	主な検査	件数
膀胱ファイバー	233	前立腺生検	43

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.6.4	尿道・膀胱異物の 2例	吉弘 悟	松隈 悠 金岡源浩	第102回日本泌尿器科学会山口 地方会	山口大学医学部霜仁会館
2017.6.4	骨転移で発見された小径腎癌の1 例	松隈 悠	吉弘 悟 松本洋明	第102回日本泌尿器科学会山口 地方会	山口大学医学部霜仁会館
2017.12.2	腎周囲血腫を呈した急速進行性腎炎症候群の1 例	松隈 悠	吉弘 悟	第103回日本泌尿器科学会山口 地方会	山口大学医学部霜仁会館

産婦人科

【スタッフ】

副院長 : 前田 博敬 九州大学卒 (昭和 54 年)

産婦人科部長 : 川崎 憲欣 熊本大学卒 (昭和 56 年)

【診療の概要】

全国的な産婦人科医不足のため、数多くの病院で産婦人科医療、とくに周産期医療からの撤退が社会問題となっています。今年度も常勤医師 2 名体制、産婦人科医療の高度性や緊急性に安全に対応することに限界を感じています。一方、九州大学産婦人科教室からは非常勤医師を派遣いただき感謝しています。診療実績は数字で表わせる手術統計および分娩統計を下記に示しています。手術に関しては総数 41 例 (良性疾患 33 例、悪性疾患 8 例) でした。分娩に関しては分娩総数 62 例と減少、帝王切開率 16%、早産率 1%、周産期死亡率 0% でした。

「少子化」とは、新旧時代の間で 1 対 1 の人口の置き換えができないために生じる現象であり、都市部に比べ地方では出生数の減少に歯止めがきかない状態が持続、一産婦人科医として実に寂しく感じています。

【手術統計】 (平成 29 年 4 月～30 年 3 月)

○良性疾患…手術総数 33 例

子宮全摘術(同時に行った付属器摘除術を含む)	腹式	9	子宮外妊娠の手術	1
	膣式	1	胎状奇胎の手術	0
性器脱の手術	膣式子宮全摘術+膣形成術	1	帝王切開術	10
			子宮切開術	0
	膣閉鎖術	0	頸管無力症の手術	0
子宮筋腫核出術		1	人工妊娠中絶術	0
子宮筋腫の動脈塞栓術		0	流産手術 (妊娠 15 週・IUFD を含む)	0
付属器切除術・卵巣腫瘍摘出術		2	子宮内膜ポリープ切除術	0
腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術		6	腹壁癒痕ヘルニア手術	0
卵巣出血止血術		0	後腹膜腫瘍摘出術	0
卵管結紮術		1	卵巣動脈塞栓術 (動脈瘤破裂)	0
外陰部腫瘍切除術		0	腹壁腫瘍摘出術	0
バルトリン腺の手術		1	膣内異物除去術	0

○悪性疾患・・・手術総数 8 例

子宮頸癌(上皮内腫瘍を含む)	準広汎子宮全摘術	0
	単純子宮全摘術 (腹式・腔式)	0
	円錐切除術+部位別搔爬術	6
子宮体癌(子宮肉腫・子宮内膜増殖症を含む)	子宮全摘・付属器切除・骨盤リンパ節・傍大動脈リンパ節郭清	0
	子宮内膜全面搔爬術	0
悪性卵巣腫瘍(卵管癌・腹膜癌を含む)	子宮全摘・付属器切除・虫垂切除・大網切除・骨盤リンパ節郭清・傍大動脈リンパ節郭清	2
	化学療法後の上記手術	0
	試験開腹・生検	0

※化学療法・・・0名、放射線療法・・・0名

【分娩統計】(平成 29 年 4 月～30 年 3 月)

○分娩総数・・・62 例 (単胎 62、双胎 0 例)

経膈分娩	50 例	単胎頭位 自然分娩	13
		誘導分娩	30
		吸引分娩	7
		単胎骨盤位経膈分娩 (死産例)	0
		多胎経膈分娩	0
帝王切開分娩	10 例	適応	
		胎児機能不全	0
		CPD・回旋異常・遷延分娩	1
		既往帝切あるいは子宮切開*	8
		常位胎盤早期剥離	0
		骨盤位	1
		前置胎盤	0
		糖尿病合併	0
その他 (脳血管腫合併) *	1		
子宮内胎児死亡	2 例	妊娠 14 週・子宮内胎児死亡は PG 錠で経膈娩出	1
		妊娠 16 週・子宮内胎児死亡は PG 錠で経膈娩出	1

*は重複症例

緊急搬送	母体搬送	1
	新生児搬送	0
	母体搬送受け入れ	0
妊娠帰結週数	28 週未満 (妊娠 14・16 週・子宮内胎児死亡)	2
	28－36 週	1
	37－41 週	59
	42 週以降	0
新生児体重	499g 以下 (妊娠 14・16 週・子宮内胎児死亡)	2
	500-999g	0
	1000-1499g	0
	1500-2499g	7
	2500-3999g	53
	4000g 以上	0

死産 (妊娠 14・16 週・子宮内胎児死亡) ……2

早期新生児死亡……0

形態異常……0

羊水穿刺……0

耳鼻咽喉科

【スタッフ】

平成29年度は平俊明部長と齋藤医師の常勤医2名、伊藤彩医師の非常勤医1名の診療体制でした。

【スケジュール】

月曜から金曜の毎日、午前中は外来診療を行いました。手術日は火曜、水曜、金曜の午後でした。手術日以外の午後は、外来での小手術など予約診療を行いました。

【診療実績】

注) その他は1例のみの手術。外来手術は含まず。

手術名	件数	手術名	件数
扁桃摘出術・アデノイド切除術	51例	甲状腺良性腫瘍摘出術	3例
鼓膜チューブ留置術	27例	皮下腫瘍摘出術	3例
ラリngoマイクロサージャリー	20例	気管切開口閉鎖術	2例
気管切開術	17例	喉頭摘出術	2例
内視鏡下副鼻腔手術	12例	鼻腔腫瘍摘出術	2例
鼓室形成術	8例	咽頭腫瘍摘出術	2例
鼓膜形成術	5例	上顎のう胞開放術	2例
乳突洞削開術	5例	その他	14例
リンパ節摘出術	4例	合計	182例
甲状腺悪性腫瘍手術	3例		

【月別入院患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延数	232	272	270	279	252	148	246	241	203	240	209	276	2,868
入院	30	25	21	26	19	13	24	25	19	26	24	25	277
退院	27	30	16	19	25	13	24	21	24	25	25	22	271

【月別外来患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延数	583	626	645	595	679	511	598	617	587	548	596	644	7,229
新患	94	98	99	95	100	72	86	100	95	90	93	100	1,122

今年度は、入院延数、手術件数が増加しました。これからも地域医療の中核病院として、より質の高い医療を目指して努力してまいりたいと思います。

放射線診断科

【スタッフ】

箕田 俊文 日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本 I V R 学会専門医

瀬戸 明香 日本医学放射線学会放射線診断専門医

【診療】

放射線診断科は単純X線写真、CT、MRI、RIの画像診断を主に行っています。

各種の検査装置から作成された画像データを、サーバーを経由して画像読影システムで読影、診断しています。読影、診断結果は報告書の形で電子カルテ上に掲載され、各診療科担当医に報告されます。また病診連携を介して、院外からの画像診断の紹介も受け付けています。現在の医療では画像診断は重要な位置にあり、正確で迅速な読影を心がけています。主に放射線診断専門医2名により読影され、大部分は検査当日のうちに読影レポートが確定されます。

またX線を用いた血管内治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）も行っています。主に動脈内にカテーテルを挿入し、血管撮影装置のX線透視下に目的の臓器、血管まで誘導し治療を行います。対象は肝細胞癌に対する化学塞栓療法、頭頸部癌に対する動注化学療法、喀血・消化管出血・子宮出血・外傷性出血（脾損傷、血胸、後腹膜出血）・鼻出血・肝腫瘍や腎腫瘍の破裂による出血、などに対する止血目的の動脈塞栓術、動脈血栓塞栓症に対する血栓溶解療法、内臓動脈瘤や肺動静脈奇形に対するコイル塞栓術、多血性骨腫瘍に対する術前塞栓術、門脈圧亢進症による消化管静脈瘤に対するBRTO、重症急性膵炎に対する蛋白分解酵素阻害剤持続動注療法、大動脈ステントグラフト内挿術の術前処置としての内腸骨動脈コイル塞栓術、静脈狭窄に対するメタリックステント留置術、CTガイド下膿瘍ドレナージなど多岐にわたり、院内の各診療科からの依頼をうけて施行しています。

【H29年4月～H30年3月の画像診断レポート・IVR件数】

CT（2台：64列、16列、30年3月より64列2台）：14,120件

MRI（1台 1.5T）：5,181件

RI：258件

単純写真：4,861件

IVR：45件

放射線治療科

放射線治療：

日本医学放射線学会専門医による質の高い放射線治療を行っています。各種悪性腫瘍への根治治療、症状・疼痛緩和目的の対症療法を行っています。

平成20年7月より Varian 社製 CLINAC iX による診療を開始し、定位放射線治療をはじめとした、より精密・正確・高度な放射線治療が可能になりました。

また平成21年4月より、医師・診療放射線技師(注1)・看護師とも女性スタッフによる診療を開始しました。放射線治療は、肌を露出して診察・セッティング・治療を行うことが多いため、女性患者様にご好評をいただいています。(注1：診療放射線技師は、女性1名、男性3名のスタッフから毎日2名がローテーションで担当します。連日女性放射線技師が担当するものではなく、男性放射線技師が担当する日もあります。)

【放射線治療専任スタッフ】

職種名	氏名	卒業年次	所属学会・資格
医師	有賀美佐子	平成6年	放射線治療専門医 日本医学放射線学会会員 日本放射線腫瘍学会会員
看護師	廣田 知子	平成6年	
診療放射線技師	森本 健治	平成1年	
	菊池 友紀	平成21年	
	森田 浩正	昭和62年	
	佐藤 秀喜	平成9年	

【平成29年放射線治療数】(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

部位別照射総数：173例			
脳・脊髄	18	胃・小腸・結腸・直腸	11
頭頸部	11	生殖器・婦人科系	1
食道	5	泌尿器・男性性器	16
肺癌・気管・縦隔	36	造血器・リンパ系腫瘍	4
乳房・胸壁	34	皮膚・骨・軟部腫瘍	37
肝・胆・膵	0		

*うち 定位放射線治療 5

麻酔科

【スタッフ】

平田 孝夫 裊 愷哲 長畑 佐和子

【概要】

人の動きとしては大野医師が平成 29 年 3 月末で退職し、4 月より裊医師が九州大学より当院に赴任しました。平成 27 年 1 月から続く麻酔科マンパワー不足を手術室スタッフと協力し「手術室で働く全ての人が、自信を持って、誇らしく働く環境、そしてお互いを尊重し、助け合いの精神」をモットーに手術室運営を行いました。

手術室の効率的利用のため外来、病棟スタッフの理解と協力で、予定手術の約 80%を 17 時までに入室することができました。

院内教育では 12 月に日本救急医学会主催の、ICLS (Immediate Cardiac Life Support) 講習会を開催しました。人員面では九州大学麻酔科、九州歯科大学からの歯科麻酔研修、加えて非常勤麻酔専門医の応援態勢を確立しました。「患者様一人ひとりに安全で優しい、安心できる麻酔の提供」を心がけるという当科の目標のもと個々の症例に対し、麻酔方法、周術期管理について検討しています。

【活動内容】 麻酔科管理症例 2017 年 1 月～12 月

全身麻酔（吸入）	703 例
全身麻酔（完全静脈麻酔）	415 例
全身麻酔（吸入）＋神経ブロック・硬膜外麻酔	762 例
全身麻酔（静脈）＋神経ブロック・硬膜外麻酔	37 例
硬膜外＋脊椎麻酔	5 例
脊椎くも膜下麻酔	7 例
計	1,929 例

(前年 1,830 例)

教育・指導面では、スーパーローテート研修の西田、小佐々、徳永、立田医師をそれぞれ 2 ヶ月、川畑医師を 4 ヶ月の研修指導を行いました。また、救急救命士による気管挿管実習（2 名）30 症例を行いました。

【業績集】

<発表>

開催年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.6.8	オフポンプ冠動脈バイパス術における術前の呼吸機能と術後の酸素化能の関係	平田孝夫	大野宏幸	日本麻酔科学会 第64回学術集会	神戸
2017.6.9	オフポンプ冠動脈バイパス術中に投与された5%アルブミン製剤が術後の急性腎障害発生に及ぼす影響の検討	平田孝夫	大野宏幸	日本麻酔科学会 第64回学術集会	神戸
2017.9.9	凝固第Ⅷ因子活性低下を伴い止血に難渋した大腿骨骨幹部骨折の1症例	平田孝夫	裊 惺哲	九州麻酔科学会 第55回大会	大分
2017.9.9	全身麻酔術後に嘔吐を機に失神をきたした高度房室ブロックの1例	裊 惺哲	平田孝夫	九州麻酔科学会 第55回大会	大分

病理診断科

【概要】

適切な治療の基礎に適切な診断があり、適切な診断の要となるのが病理診断です。日々高度化する臨床サイドの要求に応えるべく、臨床医との緊密な意思疎通を図り、新たな疾患分類に即応し、免疫染色等の付加的手法を積極的に導入しつつ、正確で迅速な病理診断に努めています。

病理診断認証としては、日本病理学会登録施設および日本細胞学会認定施設として認証取得しています。

免疫染色においては、ロシュ社の全自動免疫染色装置を導入しており、染色の安定性・再現性が図られ、乳腺では、HER2、ER、PgR、MIB1(Ki-67)を、胃癌摘出例ではHER2免疫検査を、全例においてルーティン化して実施し、他にも、リンパ腫、中皮腫、転移、原発探求が行えるよう、多くの抗体を保有し、診断に役立てています。大腸のRAS、肺のEGFR、ALK、PD-L1、ROS1、乳腺、肺のHER2/FISHは外部へ委託しています。

迅速組織診、迅速細胞診は、日中での数量は制限することなく実施、脂肪を含む凍結検体は川本法を導入し、薄切の品質を保つようにしています。また、病変マッピングはギョータックを用いて原寸大コピーをすることで、臨床側から評価を得ています。加えて、診断のスキルアップとしては、College of American Pathologistsの病理診断生涯教育プログラムに参加して診断レベルの向上に努め、細胞診は、日本臨床衛生検査技師会、日本細胞学会、山口県臨床衛生検査技師会等の精度管理調査に参加、また、週1回実施の呼吸器カンファレンス、月1回の乳腺カンファレンスに参加し、臨床との整合性を図り、他にも多くの研修会や学会に参加するよう心掛けています。

機器は、ディスカッション顕微鏡と写真撮影装置を更新しました。

部門システムとして、Dr.ヘルパー（広鉄計算センター）を2018年3月、電子カルテ（富士通）更新を機にバージョンアップ、電子カルテとの連携を図っています。

リスクマネジメント対策として、部門システムにある機能を活用し、臨床側が報告書を閲覧したかどうかを適宜チェックし、閲覧されていない報告は一覧表にして各臨床医に配布し、確認するよう促しています。

ホルマリン対策としては、第1管理区分であり、ホルマリン濃度は低値ですが、低レベルを維持するよう常に改善を図っています。

【スタッフ】

病理医 2名（うち1名は非常勤嘱託医）

臨床検査技師 3名（うち1名は病理専属の細胞検査士、1名は午前中外来検査兼務）

常勤病理医：安田大成*1

非常勤嘱託病理医：谷村晃*2

技師：川元博之*3、佐々木真理*4、山本美奈*5

【所属学会および資格】

*1	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
*2	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、 日本病院病理学会、日本臨床病理学会
*3	日本臨床衛生検査技師会細胞検査士、日本臨床衛生検査技師会認定病理検査技師、山口県糖尿病療養指導士、 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、日本乳癌学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者
*4	日本臨床衛生検査技師会細胞検査士 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会 山口県糖尿病療養指導士、特化物・四アルキル鉛等作業主任者、 有機溶剤作業主任者
*5	日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会 特化物・四アルキル鉛等作業主任者、有機溶剤作業主任者

【病理業務】（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

組織診（生検、手術）	2,190 例
術中迅速組織診断	120 例
細胞診	2,700 例
術中迅速細胞診	94 例
病理解剖	5 例

歯科・歯科口腔外科

【スタッフ】

歯科系総括部長、歯科・歯科口腔外科部長：上原 雅隆

(博士(歯学)、口腔外科指導医・専門医、がん治療認定医(歯科口腔外科)、口腔がん専門医)

歯科医長：長畑 佐和子(歯科麻酔専門医)

非常勤歯科医師：入学 陽一、平林 文香(口腔外科認定医)

福田 晃、柳沼 樹、山形真有香

歯科衛生士：奈須本 理恵、浜崎 朋美

歯科技工士：高林 潤吏

歯科助手：竹本 美保

受付：岡田 志津代

【概要】

常勤歯科医師 2 名、非常勤歯科医師 5 名(九州歯科大学口腔外科より 4 名応援)、歯科衛生士 2 名、歯科技工士 1 名、歯科助手 1 名、受付 1 名の計 12 名で構成されています。下関地域の二次医療機関として役割が果たせるように、一般開業医および他科との連携を重点に置き診療を行っています。平成 29 年 4 月より口腔外科指導医が常勤となり、全身麻酔手術を積極的に受け入れ、総合病院ならではの手術、診療を行っていることが特徴です。

手術内容は智歯抜歯から顎顔面外傷、口腔内の良性および悪性腫瘍などを対象としています。また、他科の全身麻酔手術症例および当科悪性腫瘍手術前に衛生士が中心となり、周術期口腔ケアとして口腔衛生処置を行っており、当病院における術後肺炎の予防に貢献できるよう努力しています。また入院患者様、および外来患者様に対する一般歯科治療も行っています。

【活動報告】

北九州・下関地区および山口県病院歯科協議会に出席。第 62 回日本口腔外科学会出席。第 36 回日本口腔腫瘍学会出席。九州歯科大学歯科医師臨床研修管理委員会に出席。院内 医長会、手術部運営委員会(上原) リスクマネジメント部会(長畑)

【症例内容】

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

外来受診者数(新患+再診)：8,376 名 一日平均 34.3 名

周術期口腔機能管理患者数：1,841 名 月平均 153.4 名

<外来小手術>

下顎智歯抜歯術	119	過剰歯抜歯術	1
上顎智歯抜歯術	31	下顎骨骨折非観血的整復固定術	2
根尖切除術	5	ヘミセクション	1
歯根嚢胞摘出術	4	上顎洞内迷入歯根除去術	1
良性腫瘍切除術	3		

<入院全身麻酔手術>

下顎骨悪性腫瘍手術	1	上顎洞根治手術	1
下顎隆起形成術	1	舌悪性腫瘍手術	6
顎炎又は顎骨骨髓炎	1	全層植皮術	1
顎骨腫瘍摘出術	12	創傷処理	1
気管切開術	1	唾石摘出術	1
口蓋悪性腫瘍手術	1	分層植皮術	1
口腔外消炎手術	1	埋伏歯抜歯	31
歯根端切除手術	2	有病者の抜歯	12
歯根嚢胞摘出術	4		

<歯科技工物>

クラウン	67	スプリント	33
インレー	45	ブリッジ	41
前装冠	52	オブチュレーター	10
メタルコア	77	根面板	2
仮歯＋人工歯	30	止血シーネ	5
義歯新製	72	個人トレー	5
義歯修理	91	HJK（硬質レジンジャケット冠）	8

【診療内容】

手術を中心とした口腔外科的治療、周術期口腔機能管理、一般歯科の3本柱で診療に当たっています。平成29年4月より口腔外科専門医・指導医が常勤となったことにより、一般開業医からの紹介患者を中心に、特に口腔外科手術症例に力を注いでいます。

外来小手術としては、下顎智歯抜歯が最も多く119例、それに続いて上顎智歯抜歯が31例、根尖切除術、歯根嚢胞摘出術がそれぞれ5例、4例となっています。一方、全身麻酔手術症例としては、埋伏抜歯が31例、顎骨腫瘍摘出が12例、悪性腫瘍手術が8例となっています。

平成28年度と比較して一日外来患者数平均30名から34.3名と増加、外来手術件数は172例から167例と若干減少していますが、全身麻酔症例は35例から78例と大幅に増加しています。特に悪性腫瘍の手術に関しては、今年度より本格的に治療を開始することができました。

歯科技工物は計 538 件で、昨年度の 472 件を上回っています。本件数は一般歯科診療の指標とも考えられ、昨年度と比して増加しております。また、今年度の周術期口腔管理は 1,841 例でした。

看護部

【看護部の概要】

我が国が高齢化社会へと進んでいく中、地域包括ケアシステムの構築から推進へ向けて、医療が変化しています。急性期病院である当院においても患者様の疾患に対する治療や看護に加え、入院時から退院後の患者様の生活を見据えての退院支援は不可欠となってきています。専従看護師や担当者だけでなく看護師ひとりひとりが理解してすすめていかなければなりません。

前年度の反省点から看護部の目標を「患者さんの立場に立った質の高い看護を提供する」とし、1. 受け持ち看護師を中心に退院支援を実践する 2. 患者愛に基づいた看護ケアを実践する 3. 病院の方針を理解し経営に参画する 4. 一步ステップアップするために自己の教育目標を決め実行する としました。特に、1、2に関しては各病棟で「受け持ち看護師を中心に」ということを意識して退院支援に関わることとし、患者様の退院後の生活を考えての援助を計画し、看護の実践に取り組みました。退院支援専従看護師の活動をはじめとし、師長会・主任会での取り組みもあり、患者様へのより良いアドバイスがタイムリーに行えるようになりました。

院内で今年度から始まった「顔の見える連携交流会」は、患者様が退院後の生活で必要とするサービスの内容や流れについての知識を多職種で深めることができました。また、外部の方の生の声を聴く場となり、私たちの看護を振り返り次へつなげるよい機会となっています。しかし、平均在院日数が短縮される中では、支援計画の実践が十分行えないまま退院を迎えることも多く、今後の課題といえます。また、新たに認知症ケアチーム、呼吸ケアチーム、排尿自立支援チームの活動に向けて、必要な研修に合計 16 名が受講を修了することができ、それぞれの院内チーム活動にメンバーとして参加し貢献できるようになりました。看護必要度については、師長会・主任会を中心とした第三者評価、ツールを用いた整合性確認などでA項目の評価精度は上がってきました。今後はこれに加えてB評価の記録の精度を高めることを継続し、取り組んでいきたいと考えています。

看護教育面では、教育システムである教育プラネット研修会も独自の院内・外講師に加え、オンデマンド研修を取り入れ多彩な内容へと少しずつ拡大しています。院外の学会発表では今年度は 10 題の発表を行い、院内においても各種報告会、発表会など多彩に行えるようになっていきます。認定看護師もまた、地域の医療者向けの勉強会を年間 3 回行ったほか、「認定看護師による出張セミナー」なども取り組み始めました。病院行事として定着してきた「市民病院フェスタ」や、地域で行われる彦島保健センターでの「健康フェスタ」への参加で各種測定や健康相談など、地域の皆様への健康啓蒙活動を行うなど幅広く貢献できました。

【1. 看護部の理念と方針】

病院の基本理念に従い、心のこもった安全で質の高い看護を提供します。

1. 患者様の立場に立ち、**信頼**される看護を提供いたします
2. **安全**で心の通った看護に努めます
3. 常に自己研鑽し、組織の一員として経営に**貢献**いたします
4. 職務に責任をもち、**協調**の姿勢で取り組みます

【2. 看護部の目標】

患者さんの立場に立った質の高い看護を提供する

1. 受け持ち看護師を中心に退院支援を実施する
2. 患者愛に基づいた看護ケアを実践する
3. 病院の方針を理解し経営に参画する
4. 一歩ステップアップするために自己の教育目標を決め実行する

【3. 院内教育計画プラネット】

□教育理念

1. 専門職業人としての高い倫理観と誇りに基づいた、患者中心の看護を展開できる看護師を育成する
2. 科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を育成する
3. 患者及びその家族のQOL向上を目指した質の高い看護サービスを提供できる看護師を育成する
4. 社会のニーズに対応できる専門職業人として個々の能力を十分発揮させ、創造性のある、「やり甲斐を感じ輝く」看護師を育成する
5. 人として他者（患者、職場の同僚）を思いやる「ハート」を備えた看護師を育成する
6. 上記を達成するための継続学習を支援する

□教育目的

1. 倫理に基づいた行動が取れるよう人間性豊かな感性をはぐくむ
2. 科学的根拠に基づいた看護実践能力を育成する
3. 専門職として学習を怠らず、主体性・自律性のもと、質の高い看護を提供できる人材を育成する
4. 人として他者を思いやる「ハート」と、職業人としてやり甲斐を感じることによる「輝き」を備えた人材を育成する
5. 個人の学習を充実・持続させるための環境を提供する

□教育目標

1. 患者中心の看護を展開するため、倫理、エビデンスに基づいた自律した専門職業人としての成長を図る
2. 患者のみならず、組織の仲間に対する「思いやり」を兼ね備えた「人」としての成長を図る

3. 一人一人が「やり甲斐」を持続するための自己研鑽を図る

□当院教育システムの特徴

1. クリニカル・ラダー制導入
 - ・教育システムを系統化
 - ・組織に於ける「自分の役割」を明確化
 - ・興味を持続化→「やり甲斐」を感じられる
2. ポートフォリオ作成＝「自分の履歴書」
 - ・教育システム、役割、目標が明確化され身近になる
 - ・「いつでも」「過去・現在・未来の自分」と出会える
3. 年間計画
4. ポイント制導入
 - ・「自分の努力」が可視化される
 - ・頑張った分、他者からも評価を受けることができる

□院内教育

教育委員会が1年間の教育計画を作成・企画・運営・評価する

- ・経年別研修（必須）
 - ラダー1－1は毎月研修
- ・実践能力開発研修
- ・その他、研修会など

□院外研修

認定看護管理者教育課程ファーストレベル

認定看護管理者教育課程セカンドレベル

認定看護管理者教育課程サードレベル

山口県看護協会主催研修

各学会

【4. 学会・院外研修参加】

《学会の参加》

学会名	主催	参加者数
日本感染管理ネットワーク学会学術集会	感染管理	1名
第26回日本創傷・オストミー失禁管理学会学術集会	日本経腸栄養学会総省・オストミー失禁管理学会	1名
第62回日本透析医学会学術集会	日本透析医学会学術集会総会	2名
第30回日本看護福祉学会学術集会	日本看護福祉学会	1名
日本老年看護学会第22回学術集会	日本老年看護学会	1名
日本ホスピス緩和ケア協会2017年度年次大会	日本ホスピス緩和ケア協会	2名
第22回日本緩和医療学会学術大会	日本緩和医療学会学術大会	2名

第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	1 名
第 48 回日本看護学会看護管理学術集会	日本看護管理学会	2 名
第 58 回日本肺癌学会学術集会	日本肺癌学会	1 名
第 55 回日本癌治療学会学術集会	日本癌治療学会	2 名
日本手術看護学会年次大会	日本手術看護学会	2 名
第 30 回日本外科感染症学会総会学術集会	日本外科感染症学会	1 名
第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	日本クリニカルパス学会	1 名
日本集中治療医学会第 2 回中国・四国支部学術集会	日本集中治療医学会	3 名
第 32 回日本がん看護学会学術集会	日本がん看護学会	1 名
第 45 回日本集中治療医学会学術集会	日本集中治療学会	1 名
第 33 回日本環境感染学会総会・学術集会	日本環境感染学会	2 名
第 31 回日本自己血輸血学会学術集会	日本自己血輸血学会	1 名
第 18 回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会	日本褥瘡学会中国四国地方会	3 名

《認定・教育研修他》

受講研修会名	主催	受講者数
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	西南女学院大学	2 名
	山口県看護協会	2 名
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	西南女学院大学	2 名
認定看護管理者教育課程サードレベル	山口県看護協会	1 名
平成 29 年度医療安全管理者養成研修	山口県看護協会	1 名
平成 29 年度実習指導者養成講習会	山口県看護協会	1 名

《その他の研修会参加》

受講研修会名	主催	参加者数
入門 P N S 準備・導入・運営方法	日総研	3 名
緩和ケア研究発表会	山口県緩和ケア研究会	1 名
認知症高齢者の看護実践に必要な知識	山口県看護協会	6 名
認知症の理解とケア	日本精神科看護協会	3 名
17 重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会 他	8 名
第 36 回山口県集中治療研修会	やまぐち移植医療推進財団	3 名
第 7 回下部尿路症状の排泄ケア講習会	日本創傷オストミー・失禁学会	2 名
臨床と教育のチーム力で学生を支える支援の在り方	下関看護専門学校 他	12 名
平成 29 年度看護職員認知症対応向上研修	山口県看護協会	1 名
実習指導者と看護教員の相互研修	山口県看護協会	3 名

第3回チーム医療研修会	日本医療機能評価機構	1名
第47回緩和ケア研究発表会	山口県緩和ケア研究会	1名
認知症の理解とケア	山口県看護協会	3名
日本フットケア学会神戸セミナー 第10回フットケア指導士認定セミナー	日本フットケア学会	1名
今、求められる退院支援	山口県看護協会	8名
平成29年度山口県小児保健研究会	山口県小児保健研究会	1名
平成29年度訪問看護入門研修	山口県看護協会	4名
平成29年度看護師救急医療業務実地修練	厚生労働省医政局	1名
実践できる感染管理	山口県看護協会	4名
第28回中国ストーマリハビリテーション 講習会	中国ストーマリハビリテーショ ン講習会	1名
平成29年度看護管理研修会（第2回）	日本病院協会	2名
がんのリハビリテーション研修会	日本理学療法士協会	1名
平成29年度看護職員認知症対応力向上研修	山口県看護協会	1名
診療・介護報酬同時改定を見据えた看護必 要度ステップアップ研修	ヴェクソンインターナショナル 株式会社	3名
E L N E CーJ コアカリキュラム看護師教 育プログラム	日本緩和医療学会	1名
平成29年度実習指導者養成講習会	山口県看護協会	1名
平成29年度新人看護職員研修事業 教育担当者研修	山口県看護協会	1名
平成29年度新人看護職員研修事業 研修責任者研修	山口県看護協会	1名
認知症の理解とケア	日本精神科看護協会	2名
平成29年度人生の最終段階における医療 体制整備事業	人生の最終段階における医療体 制整備事業研修会事務局	2名
災害派遣医療チーム研修	厚生労働省医政局	1名
平成29年度院内感染対策講習会	一般社団法人日本感染症学会	1名
第183回JNTECプロバイダーコース	一般社団法人日本救急看護学会	1名
平成29年度結核臨床研修会	山口県、山口県医師会、山口県歯 科医師会	1名
看護職のクリニカルリーダーの活用について	山口県看護協会	2名
医療事故の報告、分析と再発防止について 他	全国自治体病院協議会山口県支部	3名
トリアージナース育成研修会インストラクターコース	一般社団法人日本救急看護学会	1名
チーム創りのためのリーダー研修	NPO法人日本看護キャリア開発センター	3名

【5. 研修生・職場体験の受け入れ・院内外活動について】

《実習受け入れ状況》

- ・ウエストジャパン看護専門学校
- ・下関看護リハビリテーション学校
- ・下関看護専門学校
- ・西南女学院大学
- ・早稲高等学校

《職場体験》

- ・山口県立長府高等学校 3名 平成 29 年 11 月 15～17 日
- ・山口県立下関中等教育学校 3名 平成 29 年 10 月 4～5 日

《ふれあい看護体験》

- ・市内の小学生・中学生 10 名 平成 29 年 8 月 8 日（火）開催

《一日ナース体験》

- ・市内の中学生・高校生 12 名 平成 29 年 8 月 10 日（木）開催

《看護の日「まちの保健室」》

- ・シーモール下関にて 平成 29 年 5 月 12 日（金）10 時～13 時開催
血圧・体脂肪測定、健康相談（リハビリ、薬剤、栄養含）を実施
参加者：看護部 12 名、リハビリテーション部 1 名、栄養管理部 2 名、薬剤部 1 名、
事務部 3 名
来訪者：のべ 191 名

《市民病院フェスタにて「市民の保健室」に参加》

- 下関市立市民病院にて 平成 29 年 9 月 23 日（土）10 時～12 時開催
健康相談・血圧・体脂肪・骨密度・血管年齢測定、物忘れプログラムを実施
その他、バザー部門を担当
参加者：32 名
来訪者：のべ 700 名

《院外活動 彦島保健センターにて「健康フェスタ」に参加》

- 彦島保健センターにて 平成 29 年 10 月 28 日（土）10 時～12 時開催
健康相談・血圧・体脂肪測定・栄養相談・血管年齢測定、栄養相談を実施
参加者：9 名（看護師 8 名、管理栄養士 1 名）
来訪者：のべ 226 名

《そのほか各行事の救護班》

- しものせき海峡まつり 1 名
- 第 64 回山口県中学校春季体育大会 1 名
- 豊かなこころの園児を育てる親の学習会 1 名

平成 29 年度中四国地区高等学校 P T A 連合大会	1 名
第 12 回市民スポーツフェスタ	2 名
第 12 回下関市小学校体育大会	1 名
夏休み子供水道教室	1 名
平成 29 年度山口県高等学校新人陸上大会	2 名
下関海響マラソン	4 名
下関成人の日記念式典	1 名

《看護学校講師》

- ・ウエストジャパン看護専門学校講師・・・看護師 7 名
- ・下関看護専門学校講師・・・看護師 4 名

《その他院外講師》

- ・出前講座「宇部東町ふれあい元気会」・・・摂食・嚥下障害看護認定看護師 1 名
- ・下関市立豊田中学校「職業講話」・・・看護師 1 名
- ・山口県看護協会「訪問看護ステップ I 『排泄ケア』」・・・皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名
- ・下関市立豊田中央病院「認知症患者の家族とのかかわり」
「認知症患者の症状別看護」・・・認知症看護認定看護師 1 名
- ・下関リハビリテーション学校「ヒューマンエラーについて」・・・
専従リスクマネージャー 1 名
- ・ウエストジャパン看護専門学校「ポジショニングのコツと仕方について」・・・
皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名
- ・医療安全講演「医療安全管理の取り組みと『確認』について」・・・
専従リスクマネージャー 1 名
- ・山口県看護連盟豊浦・下関支部ブロック研修「認知症看護」・・・認知症看護認定看護師 1 名

【6. 業績集、発表他】

《発表》

開催年月日	演題名	演者	学会名	場所
H29.5.19 ～20	感染管理認定看護師が支 える感染対策ネットワー ク下関学術集会	感染管理認 定看護師 浅野郁代 他	日本感染管理ネットワー ク学会学術集会	函館ア リーナ
H29.6.16 ～18	加圧マッサージ法を導入 したシャント管理の試み	透析センター 海野智枝 松本和美 市川智春 川満利恵 木村裕子	第 62 回日本透析医学 会学術集会	パシフィコ 横浜
H29.7.1 ～2	文献からみる皮膚・排泄 ケア認定看護師と看護職	皮膚・排 泄ケア認	第 30 回日本看護福祉 学会学術集会	西九州 大学

	のオストメイトに関する連携	定看護師 藤重淳子		(佐賀県)
H29.9.9	1型糖尿病導入期における統一した看護を目指して	3階西病棟 廣瀬玉枝 重永洋子 柳井田和子	平成29年度山口県小児保健研究会	山口大学 医学部
H29.10.12 ～13	2分野の認定看護師が協働した尿道留置カテーテルの適正使用への取り組み	皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子 感染管理認定看護師 浅野郁代	第48回日本看護学会看護管理学会	札幌コンベンションセンター
H30.1.27	呼吸サポートチーム(RST)介入により長期人工呼吸管理から離脱に成功した1症例	集中ケア認定看護師 保村宏樹 集中治療部 吉中美和 東敦子 栗原悠二	日本集中治療医学会第2回中国・四国支部学術集会	川崎医科大学総合医療センター
H30.1.27	重症患者に対応した持続経腸栄養プロトコール作成による早期経腸栄養の定着と合併症予防	集中治療部 栗原悠二 青木由希 宮原友希 兼安美保 集中ケア認定看護師 保村宏樹	日本集中治療医学会第2回中国・四国支部学術集会	川崎医科大学総合医療センター
H30.2.3 ～4	A市における乳癌化学療法中の発熱の現状と課題	がん化学療法看護認定看護師 上野妙子 他	日本がん看護学会学術集会	幕張メッセ
H30.2.24	感染対策ネットワーク下関(ICNS)における8施設の擦式アルコール手指消毒使用量の増加要因	感染管理認定看護師 浅野郁代 又賀明子 他	第33回日本環境感染学会総会	グランドプリンス新高輪他
H30.3.3	口演第2群5題(座長)	摂食・嚥下障害看護認定看護師 高橋理恵	第17回山口県看護研究学会	山口県看護研修会館(防府市)

H30.3.18	膀胱留置カテーテルアセスメントシートの作成とその使用効果	4階東病棟 草柳咲織 5階西病棟 石津美奈子 皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子	第18回日本褥瘡学会 中四国地方会学術集会	山口県立大学講堂
----------	------------------------------	---	--------------------------	----------

《論文》

論文・症例・原著等	著者	雑誌名・発行所
人工呼吸管理下の患者への鎮静・鎮痛管理に Behavioral Pain Scale(BPS)を使用した効果	集中治療部 福永倫子 木原智行 石田清子	2017年発行 「人工呼吸」 第34巻第2号
(特集2) 他施設の主任はどうしてる？医療安全のために“主任”が果たす役割と行動 医師の指示受けミスや多職種連携ミスの防止徹底策と主任の役割	3階西病棟 主任看護師 山中裕子	「主任看護師」 2017年 vol.27, No2 日総研出版

【7. 院内看護研究発表会】

日時：平成29年6月21日（水） 17時30分～18時30分

平成29年11月15日（水） 17時30分～18時35分

場所：講堂

方式：学会方式（前期）（後期）

講評者：皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子（8月）

救急センター師長 山口香世、皮膚・排泄ケア認定看護師 藤重淳子（11月）

	演題	発表病棟	座長
前期	脳神経外科患者の転倒・転落リスクの分析 —車椅子異常児の見守りに着目して—	4階東病棟	廣主任
	E P D S 結果から産後2週間健診の意義を考え	3階西病棟	河野主任
後期	急性期病院看護師の退院調整活動の現状と課題	5階西病棟	福田主任
	ラテックスアレルギーに関する手術部看護師の行動変容 ～ラテックスアレルギー患者マニュアルを使用して～	手術部	上野主任
期	1型糖尿病の入院治療における統一した看護を目指して	〈3年目推薦研究〉 3階西病棟 廣瀬玉枝	

【8. 各部署紹介】

○6階東病棟

病棟主任医：坂井 尚二

病棟師長：津森 千佳子

<スタッフ>

師長 1名 主任看護師 2名 看護師 22名（認知症看護認定看護師 1名含む）

准看護師 4名 看護助手 2名 クラーク 1名

<概要>

当病棟は、病床数 49 床（独立換気を備えた有料個室 3 床・重症個室 2 床を含む）の急性期の混合内科病棟です。主な科は血液内科・消化器内科・リウマチ膠原病内科・腎臓内科ですが、呼吸器外科や消化器外科の内科的治療、整形外科の安静目的、各科持ち回りの肺炎など、複数科を受け入れています。これまでの実績に加え、特に今年度は腎臓内科の腎生検と外科の ERCP 症例が増加しました。治療・看護が多岐に渡る中、超高齢・認知症患者は増加の一途であり、認知症看護認定看護師の協力を得ながら安全な医療の提供に努めました。地域包括ケアシステムの構築で在宅復帰を目指す高齢患者が増加する一方、DPC 導入により入院期間の短縮が求められています。特有の疾患により、入院期間が長期化する例も少なくありませんが、院内外の多職種と連携しながら退院支援にも力を入れました。

時間外勤務が多い中、有給休暇の取得率は低い状況でしたが、スタッフ一同協力し責任を持って業務を遂行しました。今後は業務改善に力を入れ、時間外勤務の削減と経営に貢献した病床運営ができるように努力していきます。

<病棟実績>

独立換気稼動	4 件	クリーンルーム稼動	8 件
化学療法	413 件	骨髄穿刺	22 件
輸血	474 本	人工呼吸器管理	8 件
全身麻酔手術	6 件	気管切開術	1 件
BAE	4 件	シャント PTA	20 件
内シャント造設・再建	26 件	腎生検	14 件
胃瘻造設	5 件	胃・食道・大腸 ESD	21 件
ERCP（FUS-FNA 含む）	77 件	G-CAP	18 件
EVL	1 件	TAE	2 件
CAG	2 件	体外式 PM	1 件
PMI	1 件	下肢 EVT	1 件

<研修実績>

H29.6.14～16	日本老年看護学会	1 名
H29.7.29	安全管理研修【事例分析の考え方と手法】	2 名
H29.8.4	実習指導者研修	1 名
H29.9.15・16・H29.12.10	実習指導と看護職員の相互研修	1 名

H29.9.21・22	日本看護学会	1名
H29.10.28・11.11・24	新人看護職員研修事業【研修責任者研修】	1名
H29.12.7・8	看護職員認知症対応力向上研修	1名
H30.1.14	人生の最終段階における医療体制整備事業	1名

○5 階東病棟

病棟主任医：石光 寿幸

病棟師長：轟木 友里

主任看護師 4名 看護師 21名 准看護師 3名 看護助手 3名 クラーク 1名

<概要>

当病棟は、病床 52 床（有料個室 2 床・重症個室 3 床を含む）の、主に消化器外科疾患・乳腺外科疾患・呼吸器外科疾患患者の治療を主体とした外科病棟です。

がん治療を中心とした入院患者様が多くを占めるため、肝胆膵の内視鏡検査・周術期・化学療法・緩和ケアなどのがん治療全般と、終末期ケアまでを担っています。近年、内視鏡治療・低侵襲の手術を安全に提供し、短期間での在宅復帰、その後の治療に繋がっていくために、多職種と連携が求められています。医師・がん化学療法看護認定看護師はもちろんのこと、緩和ケア認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、認知症看護認定看護師、集中ケア認定看護師ら院内認定看護師、薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士ら多職種の職員と連携し、リハビリ・褥瘡ハイリスク・栄養・退院支援の各スタッフカンファレンスの充実に努めました。

また、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を活用して、患者様のニーズに見合った病床で、入院生活が継続出来るように院内連携にも取り組みました。

<病棟実績>

手術件数			
外科症例	261 件	呼吸器外科症例	64 件
救急科症例	7 件	CV ポート留置術	27 件
整形外科・泌尿器科等他科手術	24 件	手術件数《合計》	383 件
化学療法件数 総数 (胃がん・大腸がん・胆管がん・肝臓がん・膵臓がん・乳がん・肺がん等)			466 件

<研修実績>

H29.8.24・25 第 21 回日本看護管理学会参加（パシフィコ横浜）轟木友里

H29.9.21・22 第 48 回日本看護学会ヘルスプロモーション学会学集参加（山口市）
今田純子 井上篤子

H30.1.17~20 平成 29 年度災害派遣医療チーム研修受講（兵庫県災害医療センター）
山村光子

H29.5.11~8.26 H30.1.12~1.20 認定看護管理者教育課程サードレベル研修受講（山口県看護協会）
轟木友里

○5 階西病棟

病棟主任医：山下 彰久

病棟師長：小戸 美智子

主任看護師 3 名 看護師 22 名 准看護師 1 名 看護助手 4 名

<概要>

当病棟は、平成 28 年 10 月より地域包括ケア病棟になりました。毎週「転入判定会議」を行い、各病棟から挙げた転棟候補の患者様を、リハビリ・在宅復帰率・DPC 算定・看護必要度の観点から協議して、1 週間の転棟する患者様を決定しています。判定会議の結果については、院内 Web 等で伝えています。

一般病棟からの移行でスタッフも戸惑うこともありましたが、1 年が経過しスムーズな受け入れができるようになっていきます。地域包括ケア病棟としての役割を果たすため、退院支援には力を入れています。早期より退院支援カンファレンス・退院支援スタッフカンファレンスを行っています。退院前に地域関係医療機関とも連携をとり、退院前カンファレンスや家屋調査にも積極的に取り組んでいます。訪問看護にも目を向け、研修に参加を希望するスタッフも増え、順次研修に参加しスタッフの意識向上に繋がっています。何より、転院することなくリハビリを継続し、自宅退院できると患者様からも感謝の言葉をいただくことも多く、地域包括ケア病棟の役割を再認識しています。

<平成 29 年 4 月－平成 30 年 3 月 退院患者内訳>

合計：1,071 件		
他の病棟からの転棟 (594 件)		
	件数	割合%
6 階東病棟	45	7.6
5 階東病棟	40	6.7
4 階東病棟	69	11.6
4 階西病棟	361	60.8
3 階東病棟	41	7.0
3 階西病棟	37	6.2
I C U	1	0.1
合計	594	100
直接入院 (477 件)		
	件数	割合%
ポリペク (短期滞在手術 3)	136	28.5
白内障 (短期滞在手術 3)	67	14.0
シャント P T A (短期滞在手術 3)	28	5.9
前立腺生検 (短期滞在手術 3)	36	7.5
鼠径ヘルニア (短期滞在手術 3)	6	1.3
整形術前 (ヘパリン化など)	8	1.7
手根管症候群	4	0.8

抜釘	4	0.8
ミエロ入院	120	25.2
結核疑い（独立換気）	10	2.1
糖尿病教育入院	11	2.3
インフルエンザ（曝露含む）	10	2.1
歯科入院	10	2.1
その他	27	5.7
合計	477	100

<研修実績>

- H29.6.1～2 認知症研修 早田博江
- H29.6.9～10 認知症研修 松本七美
- H29.6.24～12.16 認定看護管理者教育課程ファーストレベル（西南女学院大学）
小濱ゆかり
- H29.7.20～22 第7回下部尿機能障害の排尿ケア講習会 石津美奈子
- H29.7.29 事例分析の考え方と手法について～ImSAFER 分析方法の活用
小戸美智子、高木香
- H29.8.1～H30.1.18 平成29年度山口県実習指導者養成講習会（山口県看護協会）
長谷川査予子
- H29.9.6・13 訪問看護研修（山口県看護協会） 藤井三津、松本七美
- H29.10.1 退院調整場面における家族ケアと意思決定支援（福岡） 小戸美智子
- H29.12.1～2 第18回日本クリニカルパス学会学術集会（大阪市） 藤井三津
- H30.2.21 ディズニーマカデミー公開セミナー（東京） 小戸美智子

○4 階東病棟

病棟主任医：中村 隆治

病棟師長：小田 純子

<概要>

当病棟は、脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科を主とした混合病棟です。51床（有料個室2床・重症個室3床を含む）のうち約半数は脳神経外科の患者で、残りの半数を泌尿器科と耳鼻咽喉科の患者で占める構成になっています。また最近では整形外科・呼吸器外科・歯科・救急科など多種・多様な患者が入院し、まさに混合病棟となっております。看護スタッフは看護師28名・准看護師4名・看護補助者4名からなり、全員で協力しながら患者様の早期回復に向けて努力をしています。

今年度は病棟目標にチーム医療の推進を挙げ、退院支援に繋げられるように努めました。薬剤部の介入、リハビリテーション部、栄養管理部、各科とのスタッフカンファレンスを行い、情報共有に努めました。早期離床、転院調整や自宅退院に向けて各部署と連携をとりながらタイミングよく今後も退院に向けて調整を進めていきたいと考えます。また転院後も安心してリハビリを含む加療が継続出来る様に、地域連携パスの活

用に努め定着してきました。今後も患者様と御家族の立場に立った思いやりのある看護を提供していきたいと考えます。

<病棟実績>

化学療法	110 件	(泌尿器科・耳鼻咽喉科・脳神経外科)
手術	脳神経外科	65 件
	泌尿器科	74 件
	耳鼻咽喉科	196 件 (小児科手術を除く)

<発表業績>

H30.3.18 膀胱留置カテーテルアセスメントシートの作成とその使用効果
第 18 回日本褥瘡学会中四国地方会学術集会 草柳咲織

○4 階西病棟

病棟主任医：白澤 建藏

病棟師長：石田 清子

病棟理念：安全で心のこもった医療を提供します

基本方針：在宅へ向けて、ご家族の方を含めた早期離床への働きかけをします

<概要>

当病棟は、病床数 53 床（有料個室 2 床・重症個室 3 床を含む）の、整形外科病棟です。師長 1 名、主任看護師 3 名（摂食・嚥下障害看護認定看護師 1 名）、看護師 20 名、准看護師 1 名、看護補助者 3 名で、看護師は 2 交代勤務を行っています。整形外科の手術件数は、当院で行われる外科的手術の中で最も多く、当病棟だけでも 1 日 5～6 例の手術が行われることも少なくありません。

当病棟に入院される患者様は、その殆どが整形外科疾患を有しています。脊椎疾患、変形性関節症などの関節疾患、スポーツ障害、高齢者の転倒による大腿骨頸部骨折や外傷などの運動機能の障害により、日常生活が制限された患者様など、様々な病状の方々が入院され、入院生活を送る上で ADL（日常生活動作）の援助を必要としています。

手術前の看護はもちろんのこと、手術直後の全身管理、リハビリや在宅生活復帰に向けての支援など、患者背景をふまえた援助が必要であり、看護師は、安全で質の高い看護を提供するために、日々研鑽を続けています。

近年、高齢で合併症を持ちながら手術を受ける患者様や、手術後も ADL（日常生活動作）の低下によりリハビリ入院が必要なケースも多くなっています。そのため入院時から、医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーション部スタッフと連携して情報の共有をはかり、早期の在宅復帰を目指しています。また、患者様やご家族が転院後も安心してリハビリを続けることができるように、地域連携パスを活用した退院調整にも力を入れています。地域医療機関との連携を図ることで切れ目のない医療の展開をしていくと共に、その人に合わせた日常生活の自立を目指して支援を行っています。

今後も、患者様に寄り添ったきめ細やかな看護を提供していきたいと考えています。

<病棟実績>

・平成 29 年度整形外科手術件数 985 件（病院全体）

・H30.3.18 第 17 回山口県看護研究学会 座長 摂食・嚥下障害看護認定看護師 高橋理恵

○3 階東病棟

病棟主任医：金子 武生

病棟師長：下口 広美

<概要>

当病棟は、52 床（有料個室 2 床・重症個室 2 床を含む）、循環器・心臓血管外科・腎臓内科を主とした病棟です。また、複数科（内科・整形外科・外科）も受け入れ、24 時間モニター監視を行い、急変の予見・回避に努め迅速な対応をしております。

平成 29 年度の病棟看護目標は“倫理的な立場を理解した看護の展開を行う”でした。多職種で、入院から退院後まで、倫理的な観点を持ちながら、退院支援に取り組むことが必要です。そのためには多職種でのカンファレンス・地域との関わり・ケアマネジャーとの連携・患者家族との信頼関係の構築をして参りました。

疾患に対する取り組みもパワーアップしております。下肢 EVT 目的の入院が増えたため、今まで以上に、休日の入院を受け、フットケアに力を入れています。心臓血管外科の急患も多くなり、ますます当病棟の役割が必要であることを感じています。

今後も市民のために、安心の優しい医療が提供できるように努力し続けます。

<平成 29 年度 症例件数>

開心術	25 例	F-F・F-P	20 例
ストリッピング術	8 例	CAG	388 例
PCI	183 例	PMI (T-PM41 例)	31 例
EVT	153 例	シャント PTA	7 例
CAPD 導入	1 例	PET	5 例
人工呼吸器管理	10 例	ASV 管理	50 例

○3 階西病棟（女性と子どもの病棟）

病棟主任医：前田 博敬

病棟師長：重永 洋子

<概要>

3 階西病棟は「女性と子どもの病棟」として、妊娠・出産・子育て期にわたり、継続的に支援できる体制作りをしています。コンセプトは「患者さんを中心として家族単位で療養できる安全で快適な病棟」で「女性と子どもの病棟」の理想形を目指しています。

病床数は 29 床（有料個室 3 床・重症個室 1 床・重症 2 床室 4 床を含む）で、入院対象は、女性と子ども（新生児～中学 3 年生まで）です。看護スタッフは、助産師 10 名、看護師 15 名と看護助手 1 名の合計 26 名で、助産師 8 名はアドバンス助産師の資格取得者です。

妊娠・出産期では、助産師による外来保健指導、母親学級、両親学級、2週間健診を開催しています。出産後は分娩に立ち会った助産師が、母乳ケアを中心に継続看護を行い、退院後も相談できる電話窓口を設けています。子育て期においては、小児の入院は全科受け入れを行っています。対象となる新生児～中学3年生までは、心身の成長発達が著しいため、年齢に応じたコミュニケーションを図り、患児の頑張る力を引き出せるように支援しています。また、お子様の入院で心痛されているご両親への配慮も心がけています。

<基本方針>

1. 母子同室として、産婦が安心して子どもと愛着形成ができる
2. 入院した子どもや女性が家族と一緒に過ごすことで安心して療養できる
3. 妊娠期から子育てまでの連続した支援システムを導入する

<平成29年度トピックス>

- ・平成29年4月 産婦人科外来に助産師1名が応援勤務、日曜産科当直を助産師が対応
- ・平成29年5月 小児入院医療管理料4算定開始
- ・平成29年6月 改築工事終了
- ・平成29年7月 PNS（パートナーシップ・ナーシングシステム）導入
- ・平成29年9月 平成29年度山口県小児保健研究会「1型糖尿病導入期における統一した看護を目指して」廣瀬玉枝

<科別新入院患者数>平成29年1月～平成29年12月

産科[出産61件]	71名	(-35)	↓	耳鼻咽喉科	59名	(-21)	↓
婦人科	41名	(+8)	↑	泌尿器科	2名	(+1)	↑
小児科	335名	(-101)	↓	血液内科	3名	(-2)	↓
小児外科	50名	(+2)	↑	皮膚科	10名	(+9)	↑
整形外科	171名	(+53)	↑	腎臓内科	10名	(-2)	↓
歯科・歯科口腔外科	35名	(+12)	↑	消化器内科	23名	(+3)	↑
外科	50名	(±0)		循環器内科	6名	(-1)	↓
救急科	7名	(+2)	↑	心臓血管外科	32名	(+29)	↑
眼科	6名	(-4)	↓	呼吸器外科	10名	(-8)	↓
内科	2名	(-3)	↓	緩和ケア内科	1名		
脳神経外科	2名	(+1)	↑	患者総数	926名/年		

※()主な疾患科の平成28年と平成29年の比較

○緩和ケア病棟

病棟主任医：牧野 一郎

病棟師長：下野 美奈

<概要>

緩和ケア病棟とは、がんなどの悪性腫瘍を患った患者様やご家族の抱える身体的な苦痛や気持ちのつらさ、精神的な不安が和らぐように支援することを目的とした病棟です。病床数は20床で特別個室2床・個室14床・2床室4床を配置しています。

がん種は多岐にわたり、消化器系、呼吸器系、肝・胆道系、乳腺領域、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、泌尿器科、婦人科領域などの患者様に療養して頂いています。

がんそのものを治療することはできませんが、付随する症状についての治療を積極的に行っています。また、様々な症状コントロールを行い、体調を整えて在宅療養をされる患者様もおられます。そのためにリハビリテーションも積極的に取り入れています。

患者様、ご家族の意志を尊重し、気持ちに寄り添う看護を目標に、緩和ケア認定看護師を中心にケアの質の向上を目指しています。

また、皮膚・排泄ケア認定看護師、リハビリテーション部、栄養管理部、医療ソーシャルワーカーとも連携を取りながら看護を行っています。

<病棟実績>平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

入院数：自宅より	21 名	転院	46 名	院内より	66 名
退院数：自宅退院	10 名	転院	6 名	死亡退院	118 名
平均在院日数：38.99 日					

<主な研修 学会参加>

1. 日本がん看護学会
2. 第 22 回日本緩和医療学会
3. 第 41 回死の臨床研究会
4. 第 55 回日本がん治療学会集会
5. 第 15 回山口がんチーム医療研究会
6. 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会参加
7. 第 46 回・47 回山口県緩和ケア研究会・世話人会出席
8. 第 7 回下関チーム医療緩和ケア懇話会にて発表 幹事会出席
9. 下関医療圏緩和ケア看護師ネットワーク研修会 シンポジスト・世話人会出席
10. 医療従事者のための麻薬使用についての研修会
11. エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座（支援者取得）
12. ELC 山口研修会

○集中治療部（ICU）

病棟主任医：中原 千尋

病棟師長：麻野 美子

病床数：8 時 30 分から 24 時まで 10 床運用、0 時から 8 時 30 分まで 8 床運用

<概要>

救命センターは中原主任医のもと、師長 1 名、主任看護師 2 名、看護師 26 名（集中ケア認定看護師 1 名）で、2 対 1 看護体制をとっています。夜勤帯は、準夜勤務者 5 名、深夜勤務者 4 名が業務に従事し、救急初期治療後の患者様と共に、心臓血管外科をはじめとする術後や、重症呼吸、循環不全など集中治療管理を要する患者様の受け入れを行っています。また、臨床工学部の協力のもと、血液浄化、体外循環管理を行って

ます。

全身麻酔手術症例や合併症を有する高リスク症例は、術後安全に当該病棟へ移動できるように、ICU 内で数時間術後管理を行う体制をとっています。

平成 29 年度の年間入室者数は 681 名、平均延べ入室患者数 200.1 名／月、平均在室日数 2.97 日でした。集中治療管理は各科の主治医が行い、入退室基準に基づき、医師や救急部、病診連携室、他病棟の師長との連携を密にし、スムーズに入退室が行われるようにしています。

集中ケア認定看護師を 1 名配置し、日々変化していく医療体制の中、最新の情報を取り入れ、病院の理念でもある、安心で安全な医療・看護を提供できるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

<学会発表等>

日本集中治療医学会第 2 回中国・四国支部学術集会

- ・「重症患者に対応した持続経腸栄養プロトコール作成による早期経腸栄養の定着と合併症予防」：栗原悠仁
- ・「呼吸サポートチーム(RST)介入により長期人工呼吸器から離脱に成功した 1 症例」：保村宏樹

科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外科	20	16	28	26	19	21	23	20	24	24	17	14	252
脳神経外科	7	6	6	7	9	5	7	3	6	4	3	7	70
循環器内科	5	5	4	5	8	9	7	6	7	7	7	5	75
心臓血管外科	6	12	7	11	5	8	9	18	12	6	12	10	116
整形外科	7	10	12	8	7	4	10	3	10	3	4	10	88
内科	3	1	0	1	1	2	1	0	3	3	3	1	19
救急科	2	4	2	7	2	3	3	4	1	3	7	3	41
泌尿器科	2	1	1	2	1	1	2	1	1	0	0	0	12
その他	0	0	0	2	1	2	1	1	0	0	1	0	8
計	52	55	60	69	53	55	63	56	64	50	54	50	681

○救急部

病棟主任医：中原 千尋

病棟師長：山口 香世

<救急部基本方針>

- (1) 夜間、休日の受診患者さんに対しても「安心の優しい医療」を提供する
- (2) 4 病院による輪番制 2 次救急体制での責務を果たす
- (3) 飛び込み、紹介、救急搬送患者さんのいずれも原則として断らない

<概要>

当部署は上記の救急部基本方針に則り、救急部長である中原医師を中心に下関市内の二次救急医療機関としての役割を果たしています。また、平成29年1月1日からは日本救急医学会専門医指定施設となり、当院で救急科の専門医が取得できるようになりました。平成30年1月からは下関医療センターの整形外科閉診に伴い、2～3回/月の「二次病院輪番制の外傷系当番体制」にも病院を上げて積極的に協力体制を取っています。

平成29年度の救急部における受診の内訳は以下に示します。

救急外来受診件数 3,245件（うち入院件数1,118件）

救急車搬送件数 2,301件

CPA受け入れ件数 61件

外傷系当番受け入れ（平成30年1月～3月） 21件

また、救急センターは救急外来診療の他に種々の業務を行っていますが、今年度は中央処置室の開設に伴い点滴・輸血・処置件数は787件と減少し、救急看護に専念できるようになりました。しかし自己血貯血件数は265件となり、救急業務との兼ね合いが今後の課題です。

新たな取り組みとしては、救急部と麻酔科が協賛し、当院でのICLSコースを開催しました。今後も継続していく予定です。

<研修参加>

- | | | |
|-------------|--|---------------|
| H29.6.3 | ICLSコース受講生参加（国立病院機構関門医療センター） | 山口香世 |
| H29.9.7～15 | 看護師救急医療業務実施修練合同研修（東京都リロ会議室） | 鋤田浩利 |
| H29.9.25～29 | 看護師救急医療業務実施修練施設研修（川崎医科大学附属病院） | 鋤田浩利 |
| H29.12.2 | 第1回下関市立市民病院ICLSコース（下関市立市民病院）
受講生参加 渡辺ルミ
アシスタント参加 山口香世、藤井晶子 | |
| H29.12.10 | 第7回下関長門地域外傷セミナーJPTECプロバイダーコース（関門医療センター） | 渡辺ルミ、工藤真理子 |
| H30.1.20・21 | 第183回JNTECプロバイダーコース（久留米大学病院） | 磯部紀子 |
| H30.2.3・4 | 第34回トリアージナース育成研修会（日本赤十字社医療センター） | 磯部紀子 |
| H30.2.11 | 第5回萩市民病院ICLSコース（萩市民病院） | アシスタント参加 山口香世 |
| H30.2.11 | 第5回萩市民病院ICLSプロバイダーコース（萩市民病院） | 磯部紀子 |
| H30.3.9・10 | 第31回日本自己血輸血学会学術総会：周術期の貧血改善を求めて（大阪中央会堂） | 田村将子 |
| H30.3.11 | 第15回福岡県医師会ACLSアシスタント参加（福岡県医師会館） | 山口香世、藤井晶子 |

○化学療法センター

病棟主任医：石光 寿幸

病棟師長：山口 香世

<スタッフ>

師長 1 名（救急センター兼務） 主任 1 名 スタッフ 4 名

（がん化学療法看護認定看護師：主任 1 名、スタッフ 1 名）

<概要>

全診療科の外来で実施可能な化学療法を受ける患者様を対象とし、がん化学療法および、炎症性腸疾患やリウマチ、ベーチェット病などの生物学的製剤による治療を実施しています。

化学療法センターでは、患者様が安全に安心して治療を受けることができるよう、医師、看護師、薬剤師等の多職種がチームとなって、多方面から患者様をサポートする体制を整えています。毎週 1 回、多職種で外来化学療法カンファレンスを実施し、最新のガイドラインやエビデンスをもとに、患者様に応じた最適なレジメンを検討し、治療方針等の情報共有や、有害事象に対する対処方法の検討等を行っています。また、毎朝、曜日別の専任医師と、看護師、薬剤師によるショートミーティングを行い、過敏症発生時にはすぐに対応できる体制としています。

場所：新館 1 階

ベッド数：12 床（リクライニングチェア 4 床＋ベッド 8 床：うち個室 1 室）

<センター実績>

平成 29 年度 外来化学療法件数

総件数：2,143 件（平成 28 年度より 211 件増）

内訳 がん化学療法：1,469 件 生物学的製剤：674 件

<研修実績及び業績等>

H29.5.13 抗がん剤曝露対策セミナー in 山口「抗がん剤曝露対策への取り組み」演者：上野妙子 場所：国際ホテル宇部

H29.12.16 山口県乳癌チーム医療ワークショップ 場所：海峡メッセ下関

H30.1.24 大腸癌治療の今後の展望「パニツムマブの皮膚障害対策におけるチーム医療の取り組み」演者：上野妙子 場所：山口グランドホテル

H30.2.3 第 32 回日本がん看護学会学術集会「A 市における乳癌化学療法中の発熱の現状と課題」演者：上野妙子 場所：千葉幕張メッセ

○透析センター

病棟主任医：坂井 尚二

病棟師長：松本 和美

<概要>

透析センターは、腎臓内科医師 3 名、看護師 15 名、臨床工学技師 7 名、看護助手 1 名で組織しています。「安全で、質の高い心の通った医療を提供致します」を理念に、血液透析及び腹膜透析をはじめとして血漿交換・腹水濾過・白血球除去など幅広い血液

浄化を行っています。

透析ベッド数は32床。血液透析は、月水金は午前・午後の2クール体制、火木土は午前のみ1クールで、月曜日～土曜日まで毎日行っており、他施設からの紹介も柔軟に対応しています。夜間透析は行っていません。維持透析患者数は約90名前後で、平成29年度透析件数は14,158件でした。透析導入数は、血液透析33名、腹膜透析2名でした。専門的知識と技術を用いて、安全で安心できる治療・ケアを提供するとともに、透析を継続していく上で抱える様々な問題に対し、相談、助言、調整を行っています。

腹膜透析においては患者数9名で腹膜外来も行っていきます。透析患者の下肢末梢動脈疾患の重症化予防としてフットケア・足回診をより確実なものにするための取り組み、血液透析にとって重要なシャント管理として、他施設で効果があったとされるシャント加圧マッサージに取り組んでいます。また、保存期の患者様に、少しでも将来の透析に対する不安を軽減するよう腎代替療法の説明を行っています。スタッフの知識の向上を図るために、日本透析学会や近隣施設における研修・勉強会などにも積極的に参加をしています。

○手術部

病棟主任医：井上 政昭

病棟師長：吉富 京子

<スタッフ>看護師長1名 主任2名 スタッフ15名 委託職員数名

<理念>『安心』『安全』『ハートフル』

<概要>

手術室 6室 家族説明室 1室

(勤務体制) 平日 日勤

土・日・祝日 2名の8時間オンコール体制

(大型連休の救急輪番日 24時間オンコール体制)

*平成30年1月より、土・日・祝日の救急輪番日・外科当番日も24時間オンコール体制をとっています。

全ての手術を受けられる患者様が安全な治療を受けられるように、質の高い医療・看護の提供を心掛けています。麻酔科医・臨床工学技士・放射線技師や他部門のスタッフ、中央材料室・委託職員など医療従事者以外の多職種とも連携をとり、チーム医療を実践している部門です。

<平成29年度 手術件数>

外科	473	歯科口腔外科	34	合計 2,192件
呼吸器外科				
整形外科	985	眼科	87	
心臓血管外科	155	産婦人科	59	
脳神経外科	79	小児外科	35	
泌尿器科	95	腎臓内科	57	
耳鼻咽喉科	130	ペイン(麻)	3	

放射線部

【概要】

平成29年度放射線部は、平成28年度末に1名の定年退職者と1名の女性技師退職が重なり、総勢18名（診療放射線技師は正規職員13名・有期雇用職員1名）となりました。スタッフでもう一度「安全で安心な検査と治療への取り組み」を目標に掲げました。部内では人員減により配置を考えながら業務を行う過酷な日々が続きました。

新規導入装置としては、平成29年度末にCTの更新を行い64列の2台体制になりました。今後はその活用により待ち時間減少などが期待されます。

今年もICLS認定者や検診マンモグラフィ認定診療放射線技師が誕生しました。今後も日々の研究に加え、認定技師資格所得を目指し努力を続けてまいります。

【主な放射線機器装置】 ☆は平成 29 年度追加・更新機器

一般撮影装置	4	泌尿器・婦人科専用 X 線 TV 装置 (DR)	1
FPD 一体型撮影装置	1	64 MDCT 装置	☆2
乳房撮影装置	1	ワークステーション VINCENT	☆1
パノラマ撮影装置	1	1.5TMR 装置	1
骨密度測定装置	1	デジタルガンマカメラ装置	1
ポータブル撮影装置	4	バイプレーン血管撮影装置	1
CR システム	4	多目的血管撮影装置 (IVR-CT) ☆更新	1
FPD・カセット型パネル	8	ヘリカル CT 装置	1
外科用イメージ	3	ライナック装置	1
X 線 TV 装置 (FPD)	2		

【関連学会等の認定資格所得など】 ☆は平成 29 年度新規取得者有

認定などの名称	人数	認定などの名称	人数
第一種作業環境測定士	1	救急撮影認定技師	1
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	☆4	放射線機器管理士*	2
消化器内視鏡技師	1	医療画像情報精度管理士*	1
医療情報技師	1	Ai 認定診療放射線技師	1
X 線 CT 認定技師	1	胃がん X 線検診技術部門 B 資格	2
シニア診療放射線技師認定*	1	アドバンスド診療放射線技師認定*	1
ICLS (日本救急医学会認定)	☆1		

*は (公益社団法人) 日本診療放射線技師会認定資格

【代表的な参加学会・研究会等】 *は役員有

日本放射線技術学会	山口 CT UPDATE セミナー
日本診療放射線技師会	21 世紀山口核医学セミナー
* 山口県診療放射線技師会	* 山口乳腺画像研究会
* 山口 MR 撮影技術研究会	* 山口 IVR 懇話会
山口放射線治療研究会	* 下関乳腺画像診断カンファレンス
山口核医学技術検討会	九州循環器撮影技術研究会
CT テクノロジーセミナー	九州放射線治療システム研究会
山口 MRI UPDATE	山口マルチモダリティセミナー

【検査数】

項 目		件 数	合 計
一般撮影系 (延数)	一般撮影	43,854	52,641
	病棟撮影	6,746	
	手術室撮影	2,041	
CT 検査	単純	10,730	14,112
	造影	3,382	
MR 検査	単純	4,774	5,177
	造影	403	
透視下内視鏡検査 (延数) (延数)	消化器系	16	568
	気管支系	115	
	ERCP 関係	433	
	その他	4	
DR 検査	上部消化管	876	1,467
	下部消化管	89	
	肝胆膵・Tubu 系	134	
	泌尿器系	128	
	脊椎骨関係	236	
	その他	4	
核医学検査	脳神経系	21	255
	循環器系	64	
	全身検索系	157	
	その他	13	
血管造影・CT 透視等 (延数)		1,218	1,218
放射線治療		155	155
86Sr 治療		0	0

(2018.3.11 より更新された新富士通統計ナビゲータにより抽出)

【業績集】

開催年月日	演題名	演者	学会名等	場所
2017.7.1	特別講演「PADに挑む薬物療法～カテーテル治療まで」	座長 高山裕健	山口 IVR 懇話会	済生会山口総合病院
2017.7.21	症例検討	座長 高山裕健	下関乳腺画像診断カンファレンス	下関グランドホテル
2017.9.30	「乳がんの放射線治療について」	口演 菊地友紀	山口乳腺画像研究会	山口大学医学部付属病院
2018.3.17	「最適な造影検査を目指してー当院における下肢動脈造影CTの取り組みー」	口演 高瀬一臣	山口 Volume CT セミナー	ホテルかめ福

検査部

【概要】

検査部は、検査部長 1 名、臨床検査技師 32 名（職員 17 名、非正規職員 15 名）、事務職員 0.5 人で構成されています。職場は、建物の構造上、外来検査室（一般検査、血液検査、血液管理センター）、生理検査室、免疫血清・生化学検査室、細菌検査室、病理検査室の 5 部門に分かれています。なお、平成 28 年 12 月、生理検査室を院内改装によって拡張移転され、平成 29 年はより環境整備を図りました。

当院は、地域の拠点病院としての責務を担い、24 時間救急体制に伴う日当直による迅速検査業務を実施しています。日常検査は、正確なデータを臨床側に提供することを常に念頭におき、検査項目の見直しも心掛けています。また検査の効率化を図る目的で、機器および検査内容の検討を引き続き行いました。日本臨床衛生検査技師会認定の精度保証認証施設として認証を受け、確実なる検査室運営に努めています。

生理部門においては、心臓・腹部・体表などほとんどのルーティンでの超音波検査は、技師が行っています。また、耳鼻咽喉科で看護師によって行われていた聴力・重心動揺検査を技師で測定するようにしました。

機器更新としては、アークレイ社のヘモグロビン A1c 分析装置 ADAMS HA-8190V をデータ管理システム MEQNET MINILAB と接続し、変異ヘモグロビンを測定、A1c の偽陰性・偽陽性化を見逃さないシステムとしました。また、血糖専用機は、A&T 社の GA06 を採用、脳脊髄液や尿糖の測定も行っています。さらに、尿定性分析装置 AX-4030（アークレイ社）と尿沈渣 iQ200SPRINT（富士レビオ）をミニラボ（アークレイ社）で制御するシステム化を新規購入で図り、FOBIT WAKO（和光）を新規購入し、便ヘモグロビン定量を開始しました。

日当直は通常 1 名で、救急輪番日は 1 名待機とし、血液、生化学、凝固、感染、免疫等、様々な検査に加え、輸血業務やノロウイルス、ロタウイルス、レジオネラ、肺炎球菌、マイコプラズマ抗原の迅速検査を実施、キットに対しては適宜見直しを行っています。グラム染色や結核菌染色も依頼があれば実施し、また心電図検査も技師が行っています。血液培養は 24 時間受付、陽性反応が出た場合は、時間外でも分離培養し、1 日でも早く結果を報告し、臨床に役立つよう努めています。

病院の電子カルテ（富士通）を更新し、検体検査部門システム（富士通、HOPE/LAINS-GX）、輸血システム（バイオ・ラッド）、生理検査システム（富士通）、細菌システム（シスメックス）、病理システム（広鉄計算センター）を接続させ、各々連携を図り、随時情勢にあわせ、使い勝手が良くなるよう改良しています。

院内活動では、輸血療法委員会、病院機能向上委員会、感染管理委員会、NST 運営委員会、管理運営会議など多くの委員会、また院内講演、学習支援活動等へ参加し、チーム医療の一員としての活動に努めています。糖尿病教室では、1 コマを検査部が担当し、検査の意義、検査値の解釈について講義しています。整形外科の手術に必要な自己血採取においては、看護師 1 名と技師 1 名が協力し、実施しています。

【資格取得】

資格等	人数	認定団体
認定輸血検査技師	1	日本輸血・細胞治療学会
超音波検査士（腹部領域）	3	日本超音波学会
超音波検査士（体表領域）	2	日本超音波学会
超音波検査士（循環器領域）	4	日本超音波学会
細胞検査士（国際細胞検査士）	2	日本細胞学会
認定病理検査技師	1	日本臨床衛生検査技師会
認定救急検査技師	1	日本臨床救急医学会 日本臨床衛生検査技師会
緊急臨床検査士	1	日本臨床検査医学会
毒物劇物取扱者	3	厚生労働省
特化物・四アルキル鉛等作業主任者	3	厚生労働省
有機溶剤作業主任者	3	厚生労働省
山口県糖尿病療養指導士	4	山口県医師会

【院外活動】

院外活動役職名	人数
山口県臨床検査技師会役員	1
山口県臨床検査技師会臨床化学部門実務委員	1
山口県臨床検査技師会管理部門実務委員	1
日本試料分析学会評議委員	1

【講師・座長】

開催年月日	演題名	役目	学会名	場所
H29.5.28	「Rh（D）陰性患者への緊急輸血と輸血業務のマネジメントの一例」	宮崎嘉文 （演者）	山口県医学検査学会	山口市
H29.8.5	「災害医療現場で臨床検査技師にできること」	大藪優子 （講師）	山口県臨床検査技師会臨床生理部門・臨床検査総合部門合同研修会	防府市
H29.11.11	「Salmonella sp. による化膿性脊椎炎の1症例」	菊池哲也 （演者）	第50回中四国支部医学検査学会	下関市
H29.11.11	「ルミパルスプレスト HBsAg-HQ による血清・血漿検体の乖離事象の報告」	長本陽子 （演者）	第50回中四国支部医学検査学会	下関市
H29.11.11	「抗 D _{1b} 保有患者への輸血対応の一例」	宮崎嘉文 （演者）	第50回中四国支部医学検査学会	下関市

H29.11.11	「B型肝炎再活性化対策における高感度 HBs 抗原測定の意味」	川元博之 (座長)	第50回中四国支部医学検査学会	下関市
H29.12.12	「輸血とお金」	大藪優子 (講師)	看護プロジェクト 経営そろばん塾	下関市
H29.12.13	「CRE (カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)」	菊池哲也 (講師)	地域医療研修会 下関地域抗菌 セミナー	下関市

リハビリテーション部

【スタッフ】

医師	山下彰久				
理学療法士	安部裕美子	宮野清孝	長谷知枝	水野博彰	鐘井光明
	小林健治	内田景子	池田高超	白幡雄大	鈴木雅仁
	宮田辰成	吉本幸代	宇都宮功一	木下修平	梅本翔
	竹永秀平	月城一志			
作業療法士	銭本公子	平佐田紘子	本村厚郎	和田将平	中居昭博
言語聴覚士	岩崎加津子	内田朋宏			
助手	山瀬陽加	大下夏栄			

【理念】

安心、安全に早期リハビリテーションの充実・促進を図ることにより、早期回復を促し、患者様の退院・転院の橋渡しが的確にできるよう努める。

【方針】

当部においては、急性期のリハビリテーションの役割を担っていると考え、主として発症まもない患者様、手術後まもない患者様を対象として積極的にリハビリテーションを実施します。

また、退院後の治療継続が必要な患者様においては、外来でのリハビリテーションを実施します。

【主な対象疾患】

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
骨折・外傷・脊椎脊髄疾患・関節疾患・関節リウマチ・切断など
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
脳出血・くも膜下出血・脳梗塞・頭部外傷など
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群（腎不全・腎盂腎炎・胆のう炎・脱水など）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎など
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
心筋梗塞・心不全・心大血管疾患術後等
- ・がん患者リハビリテーション料
各種がん疾患・手術後・化学療法や放射線による治療中・治療後等

【重点診療方針】

- ・ 早期リハビリテーションの充実・促進
- ・ 患者様の満足度向上
- ・ チーム医療の充実

【施設基準】

- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ がん患者リハビリテーション料

【概要】

平成 29 年度は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を各 1 名ずつ増員し、理学療法士 17 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 2 名、助手 2 名の計 26 名の体制で、当院の基本方針・当部の重点診療方針に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者様に対して、発症早期または手術後早期よりリハビリテーションを実施しました。

平成 29 年度の重点目標として、平成 28 年度に引き続き、『専門性を高める』『退院支援体制の充実』、新たに『働きやすい職場作り』を加えた 3 つを掲げ、取り組みました。

『専門性を高める』については、前年度より導入したリハビリスタッフの病棟担当制を継続し、担当病棟に特化した疾患の知識や技術を高めるための勉強会を実施しました。また、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職種ごとの勉強会も企画し研鑽することで、それぞれの専門性を活かした良質なリハビリテーションの提供につなげることができました。

『退院支援体制の充実』については、入院当初から患者様が生活してこられた「これまで」を踏まえて、「これから」を見据えたりハビリテーションを提供するよう努めました。

積極的に退院前カンファレンスへの参加や退院前訪問を実施し、患者様、ご家族、ケアマネジャー等へ動作指導をはじめ、サービス利用や家屋改修・福祉用具の選定などの提案を行いました。今後も、患者様、ご家族の思いに沿って、一人ひとりに合った患者中心のリハビリテーションの提供を心がけていきたいと考えております。

『働きやすい職場作り』については、仕事と生活の両面のバランスの整った働き方を実現していくために、スタッフそれぞれのワークライフバランスをお互い理解し合うことが必要となります。今年度は、全スタッフとの面談や利用可能な制度の周知等を行い、生活面の把握できましたが、業務内容・勤務体制の見直しや業務の効率化など、仕事面での課題が検討事項として挙がりました。今後は、課題を一つひとつクリアし、少しでも働きやすさを感じる職場を目指してまいります。

日本の医療モデルは高齢化に伴い、病院だけで医療が完結する時代から「生活を支える医療」「地域完結型医療」へと移行しています。地域包括ケアシステムが掲げる『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける』ためには、患者様の身体能力と生活

能力を結びつける役割として、我々リハビリテーション専門職が、急性期の段階から積極的に関わり、地域の多職種とも連携し、地域の住民を支える医療の柱となれるよう努めていきたいと考えております。

【治療実績】（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

1) リハビリテーション処方数

平成 29 年度、リハビリテーション部に処方された患者は 2,564 名（前年より 150 名増、前年比 6.2%）で、その疾患内訳数は表 1 に示します。全体数の中で運動器疾患が 42%、脳血管疾患等が 11%、廃用症候群が 17%、呼吸器疾患が 5%、心大血管疾患が 13%、がん疾患 12%を占めました。

表 1 リハビリテーション処方数（疾患別）

（単位：件,前年比：%,マイナス：▼）

疾患別名	処方数	前年比
運動器	1,068	7.6
脳血管疾患等	272	0.4
廃用症候群	438	18.1
呼吸器	144	▼5.3
心大血管疾患	340	▼5.3
がん疾患	302	12.7
合計	2,564	6.2

2) リハビリテーション実施延べ単位数

総数は 69,130 単位（前年より 6,263 単位増、前年比 10.0%増）。疾患・外来・入院別の内訳は、表 2 に示します。療法別の内訳は、表 3 に示します。

表 2 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（外来・入院別）

（前年比：%,マイナス：▼）

	外来	前年比	入院	前年比	合計	前年比
リハビリテーション	6,263	9.9	62,867	21.5	69,130	10.0
運動器	6,008	9.5	30,685	12.9	36,693	12.3
脳血管疾患等	132	▼22.8	15,326	41.9	15,458	40.9
廃用症候群	122	2,950	8,593	63.4	8,715	65.6
呼吸器	0	▼100	1,951	▼20.7	1,951	▼21.1
心大血管疾患	1	▼95.7	3,559	▼3.3	3,560	▼3.3
がん患者			2,753	15.7	2,753	15.7

表3 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（療法別）

（前年比：％，マイナス：▼）

	理学療法	前年比	作業療法	前年比	言語聴覚療法	前年比
運動器	32,782	11.5	3,911	19.5		
脳血管疾患等	6,336	38.2	6,579	39.6	2,543	▼52.0
廃用症候群	6,695	47.5	328	131	1,692	191.2
呼吸器	1,897	▼20.8	54	▼31.6		
心大血管疾患	3,548	▼4.0	12	50		
がん患者	2,277	2.8	98	▼31	378	281.8
合計	53,535	14.3	10,982	32.6	4,613	96.0

3) 退院患者の自宅復帰率

自宅復帰率は、全体で57.3%（前年より0.7%減、前年比▼1.2%）。疾患別の内訳は表4に示します。

表4 疾患別リハビリ別 自宅復帰率

（単位：人，前年比：％，マイナス：▼）

疾患別名	自宅復帰率	前年比
運動器	59.2	3.67
脳血管疾患等	34.4	▼22.2
廃用症候群	50.9	▼3.8
呼吸器	58.7	11.0
心大血管疾患	61.9	▼3.0
がん疾患	78.8	0.5
平均	57.3	▼1.2

4) 日常生活自立度の改善状況（BI値の変化）

各疾患において差はありますが、BI値利得は増えており改善がみられたといえます。

	運動器	脳血管疾患	廃用症候群	呼吸器	心大血管疾患	がん患者
リハビリ介入時	38	29	34	38	45	45
退院・転院時	80	59	49	53	71	88

【ファシリテーター】

開催年月	演題	発表者	学会名
2017.10	「がんのリハビリを実践する上での問題点」	安部裕美子	がんのリハビリテーション研修会（山口）

【発表】

開催年月	演 題	発表者	学会名
2017.10	「ASO による左下腿切断後の透析患者が自宅復帰となった症例 ～他院入院中に外来リハを実施～」	池田高超	第 1 回山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会（下関）
2017.10	「長期間の人工呼吸器管理からウィーニングに至った小脳出血患者の一症例 ～ウィーニング中の呼吸理学療法アプローチについて～」	水野博彰	第 1 回山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会（下関）
2017.10	「長期間の人工呼吸器管理からウィーニングに至った小脳出血患者の一症例 ～RST 介入の重要性と多職種連携～」	水野博彰	第 33 回山口県リハビリテーション研究会（宇部）
2017.11	「ASO による左下腿切断後の透析患者が自宅復帰となった症例～他院入院中に外来リハを実施～」	池田高超	第 27 回山口県理学療法士学会（下松）
2018.3	「全盲を併存している膝 OA 患者の術後理学療法～自宅復帰支援と QOL～」	月城一志	第 2 回山口県理学療法士会下関ブロック症例検討会（下関）

【社会貢献活動】

- 2017.5 第 17 回全国障がい者スポーツ大会えひめ大会プレ大会
（中四国ブロック予選会）（愛媛市）
山口県男子バレーボールチームトレーナー帯同
宮野清孝
- 2017.8 全国高等学校野球選手権山口大会
サポートスタッフ
水野博彰・鐘井光明
- 2017.9 平成 29 年度ふくふく健康 21 フェスタ
イベントスタッフ
内田景子・宇都宮功一・竹永秀平・安部裕美子・内田朋宏
- 2017.11 下関海響マラソン大会 2017
サポートスタッフ
月城一志・池田高超・安部裕美子・宮野清孝・宇都宮功一

【下関市生涯学習まちづくり 出前講座】

開催年月	テーマ	講師
2017.4	転倒予防	鈴木雅仁・宇都宮功一
2017.5	転倒予防	内田景子
2017.6	転倒予防	宇都宮功一・梅本翔
2017.9	腰痛予防	小林健治・鐘井光明
2018.1	転倒予防	水野博彰
2018.3	転倒予防	梅本翔・内田景子

栄養管理部

【理念】 『食べることを通じてチーム医療の一翼を担い、患者様の健康回復に貢献するよう努めます』

【概要】

栄養管理部は、平 俊明栄養管理部長（耳鼻咽喉科部長）、管理栄養士5名、栄養士1名の病院職員が栄養管理業務を担当しています。給食業務は一部委託での運用がされています。入院患者の栄養管理では、患者様の栄養・喫食状態に基づいて、管理栄養士が医師・看護師と共に栄養管理計画を作成しています。患者様に対する栄養管理内容の説明は、受け持ち病棟ごとに管理栄養士が行い、併せて患者様の嗜好や喫食状況などを把握し個別対応による食事提供を心がけています。また、1食1食の個別対応により、喫食量の増加に繋げるとともに、低栄養状態や治療による摂食障害の患者様に対しては、多職種のスタッフで構成したNST（栄養サポートチーム）により栄養状態の改善に取り組んでいます。

給食管理においては、誕生食、化学療法による食欲不振の方には、にこにこ食（緩和食）、リクエスト食を継続し、嗜好、形態の考慮と摂取量の増加に委託業者とともに取り組みました。また、緩和ケア病棟においては、患者様の嗜好により一層寄り添うためにオーダーメイド対応を実施。患者様がその時食べたいものを提供する運用を行っています。行事食も例年通り毎月行い、季節感を大切に献立作成に取り組みました。また、毎週木曜日に開設している niko café（にこカフェ）は延2,683名に利用していただきました。

入院・外来患者に対しての栄養指導では、病棟担当栄養士が入院時栄養指導に力を入れ、入院時から治療にあわせた食事を食べていただき、患者様自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行いました。

各病棟診療科のカンファレンスへ参画し、チーム医療で患者様の栄養管理について検討し、また、委員会活動は、栄養管理委員会をはじめ、感染管理、クリニカルパス、DPC、病院機能向上、NST、褥瘡対策、リスクマネジメント部会などに参加しました。

【栄養管理部人員構成】 平成30年3月31日現在

平 俊明部長（耳鼻咽喉科部長兼務）

管理栄養士 5名 栄養士1名 配茶配膳者 11名

〈委託〉 管理栄養士 3名 栄養士 4名 調理師 11名

調理員 3名 調理補助 3名 食器洗浄 10名

【業務動向】

入院時からの栄養士介入で患者様にあった治療食への変更や治療食についての理解を深める指導は以前より行っていますが、今年度はより食事摂取不良患者への対応を行い一般食に変更してから食事調整を行ったため、特別食算定率は減少しました（69%→63.8%）。

栄養指導件数は前年に比べて（2,168件→2,233件）と増加しました。従来の病棟担当制による積極的な栄養指導に加えて、加算対象でない患者様への指導も増えたことと集団栄養指導での参加数の増加が総件数に影響しています。今後は、集団栄養指導の内容を拡充することで様々な食事療法に対応できるサポート体制を整えていきます。

【給食実施状況（2017.4.1~2018.3.31）】

1. 食種別 患者給食数 (単位：食)

食種		合計	全体比%	
一般食	常食	19,334	7.7%	
	軟菜（米-5分）	68,558	27.3%	
	3分粥	737	0.3%	
	流動	2,273	0.9%	
計		90,902	36.2%	
非加算	幼児	1,943	0.8%	
	離乳	134	0.1%	
	離乳アレルギー	0	0.0%	
	アレルギー	10	0.0%	
	消化不良	96	0.0%	
	出産祝い膳	53	0.0%	
	低残渣	6,722	2.7%	
	減塩	20,760	8.3%	
	カロリー制限	631	0.3%	
	生もの制限	4,223	1.7%	
	嚥下食	10,377	4.1%	
	にこにこ食	10,882	4.3%	
	濃厚流動	10,659	4.2%	
	検査前低残渣	42	0.0%	
	腸疾患（非加算）	0	0.0%	
	腸検査（非加算）	0	0.0%	
	検査後	898	0.4%	
	非加算 計		67,430	26.8%
	特別食	術後	4,544	1.8%
		潰瘍・吐血	2,403	1.0%
肝A高たんぱく		16	0.0%	
肝B低脂肪		1,050	0.4%	
肝C		145	0.1%	
膵臓		1,376	0.5%	
腎不全		10,746	4.3%	
人工透析		7,081	2.8%	
ネフローゼ		1,267	0.5%	
小児腎		0	0.0%	
妊娠高血圧症		38	0.0%	
糖尿病性腎症		3,668	1.5%	
心臓病		26,514	10.6%	
カロリー制限		32,192	12.8%	
炎症性腸疾患・腸炎		768	0.3%	
腸検査食（加算）		160	0.1%	
貧血		837	0.3%	
加算 計		92,805	37.0%	
特食計		160,235	63.8%	
合計		251,137	100.0%	

2. 栄養指導件数 (単位：件)

指導内容		合計	入院	外来	
個人	腎臓病	246	140	106	
	ネフローゼ	20	17	3	
	妊娠高血圧症	0	0	0	
	心・高血圧症	641	633	8	
	貧血	11	11	0	
	糖尿病	433	383	50	
	肥満	4	4	0	
	アレルギー	42	0	42	
	肝臓病	22	18	4	
	膵臓病	40	40	0	
	胃潰瘍・術後	187	184	3	
	人工透析	57	53	4	
	脂質異常症	29	17	12	
	クローン・腸炎	12	12	0	
	糖尿病性腎症	72	48	24	
	がん	22	21	1	
	摂食嚥下	15	14	1	
	低栄養	5	5	0	
	非加算	アレルギー	7	0	7
	地域包括ケア病棟	103	103		
その他	188	179	9		
計		2,156	1,882	274	
集団	加算	糖尿病教室	1	1	
	非加算	減塩教室	8	8	
	非加算	母親学級	3	0	3
非加算	糖尿病教室	35	0	35	
計		47	9	38	
その他	減塩教室（外部）	30		30	
総件数		2,233	1,891	342	

【niko café(にこカフェ)】



【当院でのお食事】

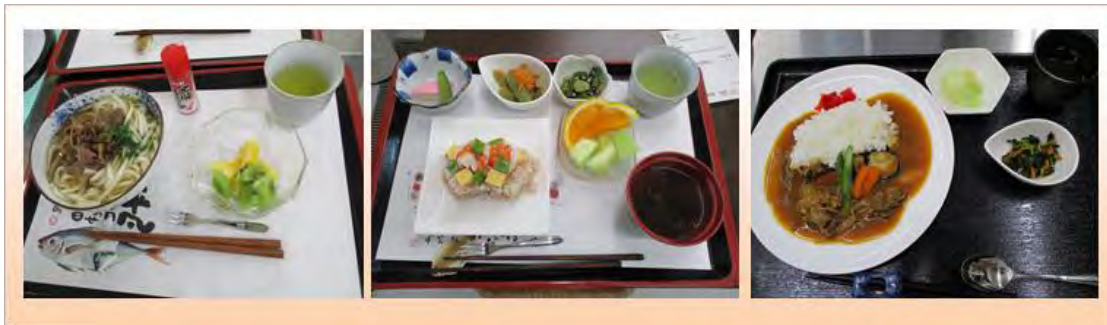
嗜好に応じた個食対応
例：南蛮漬け・人参・魚・タマネギ・
ピーマン・ショウガ・酢禁止

子供の日 お子様ランチ

誕生日プレート



●緩和ケア病棟では…



【イベント食実施状況】 ☆は、メッセージカード付

実施日		イベント	行事献立
毎月	1日		散らし寿司
4月	6日 ☆	お花見弁当	お花見弁当
5月	5日 ☆	こどもの日	柏餅、豆ごはん
6月	16日 ☆	あじさい弁当	あじさい弁当
7月	7日 ☆	七夕	そうめん、七夕デザート
	25日 ☆	土用の丑	うなぎ料理
8月	15日 ☆	暑中見舞い	冷やしうどん
9月	23日 ☆	秋分の日	栗ご飯、茶碗蒸し
10月	22日 ☆	紅葉弁当	紅葉弁当
11月	14日 ☆	世界糖尿病デー	糖尿病献立
12月	22日	(小児病棟クリスマスデザートプレート)	
	24日 ☆	クリスマスイブ	ケーキ、プレート
	31日	大晦日	年越しそば
1月	1日 朝☆	雑煮	
	1日 夕	おせち料理	
	2日 昼	散らし寿司	
	7日 ☆	七草粥	七草粥
2月	3日 ☆	節分	炊き込みご飯、福豆
	9日 ☆	“ふく”の日	ふくの刺し身
3月	3日 ☆	ひなまつり	ひなまんじゅう、散らし寿司

行事食



【栄養指導（減塩教室）】



薬剤部

理 念

『患者様への安心、良質、適切な優しい薬物療法に寄与します』

基本方針

1. 常に患者様中心の医療を考え、医薬品の適正使用の推進を使命とします。
2. 「くすりの専門家」としての専門知識を携え、医療チームの一員として、高度医療を支えます。
3. 高い知識と技能の水準を維持するよう研鑽に努めます。

【スタッフおよび業務動向】

平成 29 年度は、薬剤部長以下、総薬剤師数 18 名（前年対比 2 名増）・調剤補助員 2 名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・治験薬管理業務・医薬品情報管理（DI）・薬剤管理指導業務・チーム医療への参画（感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、リスクマネジメント部会、糖尿病教室チーム）に従事しました。

平成 29 年度の薬剤管理指導件数は拡大に向けて取り組んだ結果、平成 28 年度実績の 6,338 件/年に対して、29 年度実績は 7,446 件/年、前年比 117.5%と大幅に拡大できました。

また本年度目標の 7,200 件/年と比較しても 103.4%を達成することができました。

外来がん患者指導件数は前年度 46 件/年から 64 件/年へ着実に実績を拡大しています。

持参薬鑑別業務は平成 28 年度実績 6,639 件/年から 7,161 件/年、前年比 107.9%と拡大しました。また本年度目標の 5,800 件/年と比較しても 123.5%を達成することができました。これは入院患者の増加と薬剤師の増員及び手術前注意薬の鑑別を積極的に行ったことによります。

薬剤師の増員を行い、また 6 月より薬剤部門システムを更新し、9 月から病棟薬剤業務実施加算 1 を取得しました。病棟業務を行うことによって多職種との連携がとれ円滑に業務を進めることができました。薬剤管理指導業務の増加にも寄与しています。

厚生労働省が推進している後発医薬品への切替も積極的に行い、年度末には医薬品使用数量ベースで 86%を達成することができました。

昨年度は長期実務実習生を 1 名受け入れていましたが、本年度は 2 名受け入れることができました。病院薬剤師も薬剤師の育成に協力しなければなりません。

【平成 29 年度実績】

常備医薬品数（平成 30 年 3 月現在）

内服薬	589 品目
外用薬	222 品目
注射薬	509 品目
合計	1,320 品目

後発医薬品院内採用品目数

内服薬	110 品目	(18.7%)
外用薬	29 品目	(13.1%)
注射薬	66 品目	(13.0%)
合計	205 品目	(15.5%)

平成 29 年度薬事審議会結果

新規採用	13 品目
削除	18 品目
後発切替	62 品目

払出し管理薬品数

麻薬	30 品目
毒薬	22 品目
向精神薬	12 品目
全身麻酔薬	5 品目
PGE ₁ 膾坐剤	1 品目
血漿分画製剤	18 品目
合計	88 品目

院内製剤件数

院内製剤	品目数	製造件数
内用材	0	0
外用剤	19	848
注射剤	1	751
合計	20	1,599

無菌製剤処理件数	処理件数
TPN	431
抗がん剤	2,464
合計	2,895

処方箋枚数（枚）	年間合計	1 日平均	
外来処方箋	院内処方箋	10,431	42.8
	院外処方箋	67,843	278.0
入院処方箋		41,792	114.5
注射処方箋（入院）		68,064	186.5
注射処方箋（外来）		13,805	56.8
注射処方箋（外来化学療法）		1,469	6.0
麻薬処方箋	内服・外用	1,298	3.6
	注射	7,250	19.9
	合計	8,548	23.5

院外処方箋発行率	92.2%
----------	-------

薬剤指導算定件数	合計	月平均	
患者数（人）	5,513	459	
薬剤管理 指導（件）	総算定数	7,466	622
	ハイリスク薬	3,108	259
	一般薬	4,358	363
加算（件）	麻薬指導	187	16
退院時指導（件）		1,996	166

外来がん患者指導件数	指導件数	64
------------	------	----

化学療法レジメン管理	レジメン数	209
------------	-------	-----

医薬品鑑別件数	件数	7,161
	剤数	49,541

外来患者薬剤情報提供件数	一般	3,293
	手帳	3,293

血中濃度解析件数（抗 MRSA 薬）

初期投与設計	10
TDM 解析	27

治験薬管理業務	治験実施件数	13
	症例数	50

実務実習生受入実績

3ヶ月間：2名

医薬品情報提供（紙媒体）

・医薬品集 2013 年度追補版 4 回発行

【薬剤師の他の資格取得者】

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	生涯研修履修認定薬剤師	5名
日本病院薬剤師会	生涯研修認定薬剤師	12名
日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	4名
日本薬認定指導薬剤師		1名
日本糖尿病療養指導士		1名
やまぐち糖尿病療養指導士		4名
日本静脈経腸栄養学会認定 NST 専門療法士		1名

【業績集】

<学会発表等>

開催 年月日	演題名	演者	共同演者	学会名	場所
2017.6.18	当院における院外処方疑義紹介への取り組み	納見泰寛	香河里江子 松岡宏	山口県病院薬剤師会薬学研究会第189回例会	山口県セミナーパーク
2017.9.17 ～18	変形性膝関節症、変形性股関節症術後疼痛管理にブプレノルフィン経皮吸収型製剤を使用した患者における副作用と肝・腎機能検査の相関に対する検討	徳永知世	植野孝子 浦野史織 松岡宏	第78回九州山口薬学大会	宮崎市
2017.9.17 ～18	当院入院患者における入院時の定期服用薬剤数とアルブミン値との相関	藤川雄也	松岡宏	第78回九州山口薬学大会	宮崎市

地域連携部

平成 14 年 5 月から地域医療連携室として活動していましたが、平成 28 年 4 月より地域連携部へと名称変更し、前方支援の病診連携室と後方支援の医療相談室で、連携強化に努めています。平成 29 年 2 月には、「地域医療支援病院」に承認され、同年 4 月には入院支援センターが設置されました。病病連携・病診連携を推進、地域の医療機関との更なる連携強化に努めています。

【スタッフ】

地域連携部長（病診連携室長）		坂井 尚二（副院長）
病診連携室	主査	藤村 美代子（副看護部長）
	事務担当	竹中 順子・村上 貴代美
医療相談室	副参与	河田 うしを
	室長（病診連携室長補佐）	金子 佳子
	退院支援専従看護師	大平 佳子（主任看護師）
	室員	葛目 知沙・水永 佳歩・杉 恵莉香
入院支援センター	看護師 百田 桂子（副主任看護師）・前村 昌子（副主任看護師）	
	事務 城山 恵介（医事グループ医事班長）	

【病診連携室】

●コンセプト

地域医療支援病院としての前方連携の充実をはかり、地域の先生方との協力を推進する管制塔としての役割を果たす

●業務

1. 紹介患者の予約
2. 紹介患者の返書の徹底
返書および退院サマリーの送付の徹底（把握と督促）
3. 逆紹介の把握
4. 他医療機関への紹介予約
5. 医療機関への診療情報提供の依頼
6. 医療機関からの情報提供依頼や問い合わせの対応
7. 病床管理
8. 広報に関して
9. 奇兵隊ネット（連携医療機関へのカルテ開示）

●会議・委員会等

地域医療連携推進委員会

地域医療研修委員会

病床管理委員会

しものせき在宅医療提供体制推進協議会

●紹介患者予約システムの特徴

ベテラン看護師（スタッフ参照）が対応します。（専用電話・ファックスにて対応）

診察医師の指定にも十分対応しています。CT・MRI 等、医療機器の共同利用は放射線診断科で対応しています。登録医の先生方には、開放病床の共同利用も可能です。

疑問や不明な点があればご連絡ください。

●専用回線

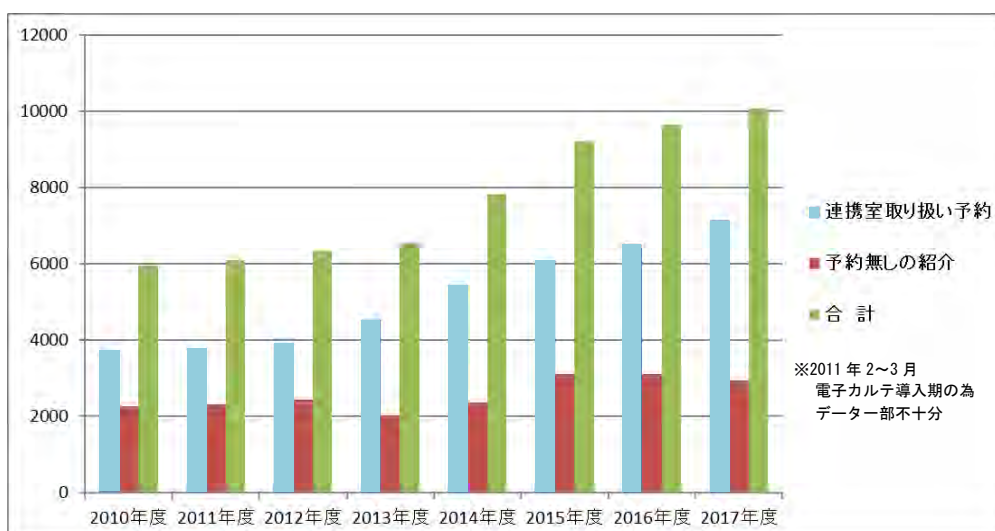
病診連携室	TEL：083-224-3860
	FAX：083-224-3861

●活動状況

1. 紹介受入数

	2015年度		2016年度		2017年度	
	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)
連携室取扱い予約	6,099	66	6,518	68	7,123	71
予約無しの紹介	3,117	34	3,114	32	2,941	29
合計	9,216	100	9,632	100	10,064	100

病診連携室の取り扱い件数は、紹介患者全体の約 71%です。地域の医療機関からの紹介受入をよりスムーズにするためにも、100%を目指しています。病診連携室の取り扱い件数のうち、当日紹介は 25%でその内当日入院は約 45%です。病診連携室は病床管理も行い、各病棟の空床状況を把握していますので、入院依頼についてもすぐに対応することとしています。



2. 他医療機関への紹介数

	紹介数	セカンドオピニオン
2014年度	321	2
2015年度	347	8
2016年度	377	11
2017年度	409	7

3. 紹介率・逆紹介率 (%)

	紹介率	逆紹介率
2014年度	46.6	102.3
2015年度	61.96	125.37
2016年度	67.16	117.03
2017年度	68.06	126.35

4. 共同利用実績

	CT	MRI	骨塩定量	骨シンチ	RFA	共同 病床利用
2015年度	96	211	11	2	4	
2016年度	130	217	12	2	4	
2017年度	195	273	25	2	3	47日間

5. 奇兵隊ネットによるカルテ開示数

	施設数	総開示数
2014年度	17	418
2015年度	17	459
2016年度	28	682
2017年度	31	617

【医療相談室】

患者様ご家族をはじめ地域の各種関係機関および関係職種の相談窓口としての役割を担い、様々な相談や要望、苦情などに対応し、より安心・安全な医療を提供することを目指しています。

1. 患者サポート

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度	20	22	22	6	17	14	17	13	10	10	3	7	161
2017年度	3	7	8	7	8	2	4	3	11	9	3	14	32

2.MSW（医療ソーシャルワーカー）相談対応件数

	医療相談生活相談		がん相談		相談総数	
	2016年度	2017年度	2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
4月	792	816	39	41	831	857
5月	865	961	25	40	890	1,001
6月	753	1,019	39	64	792	1,083
7月	747	802	61	30	808	832
8月	846	919	38	54	884	973
9月	727	884	31	34	758	918
10月	819	823	28	37	847	860
11月	768	965	40	29	808	994
12月	716	975	28	55	744	1,030
1月	740	962	37	48	777	1,010
2月	869	953	42	65	911	1,018
3月	796	1,174	39	53	835	1,227
合計	9,438	11,253	447	550	9,885	11,803

3. 地域連携について

①下関市立市民病院 地域医療連携の会

平成29年11月22日「第3回下関市立市民病院 地域医療連携の会」を開催しました。

他医療機関より92名の参加があり、当院より64名（医師・看護師・MSW・理学療法士・事務）が参加し、症例検討および交流会を行い、地域連携に努めることができました。

②下関市立市民病院 顔の見える連携交流会

下関市内の「訪問看護ステーション」「居宅介護支援事業所」「地域包括支援センター」の職員の方々にお集まりいただき、「顔の見える連携交流会」を定期的で開催しております。平成29年度は計9回開催いたしました。

開催日	対象	参加事業所	参加人数	院内参加人数	
				看護師	MSW
5月26日	訪問看護ステーション	11	看護師 13	22	4
6月29日	居宅介護支援事業所	33	ケアマネージャー 45	17	4
7月28日	地域包括支援センター	7	介護支援専門員 7	16	4
9月22日	訪問看護ステーション	12	看護師 14	20	4
10月24日	居宅介護支援事業所	26	ケアマネージャー 39	24	4
11月24日	地域包括支援センター	9	ケアマネージャー 3 社会福祉士 3 保健師 1 看護師 5	23	4
1月26日	訪問看護ステーション	10	看護師 11	21	4
2月19日	居宅介護支援事業所	29	ケアマネージャー 35	18	4

3月23日	地域包括支援センター	9	社会福祉士 3 保健師 3 看護師 10 介護支援専門員 2	19	4
-------	------------	---	--------------------------------------	----	---

【入院支援センター】

当センターは、平成 29 年 4 月 1 日より地域連携部入院支援センターとして設置され、平成 29 年 5 月 8 日より入院支援を目的として運用を開始しました。当初の対応は、看護師と事務だけでしたが、同年 7 月から管理栄養士による聞き取りも開始しています。また、対象とする診療科は整形外科から始め、順次診療科を増やしています。

初年度の実績は 1,235 名でした。全入院患者 6,893 名の約 18%で、予定入院患者 3,353 名の約 37%でした。

1.目的

(1) 患者満足度の向上

入院を予定している患者様について、一人一人の状況把握および評価、さらに入院生活や入院中に行われる治療の説明を入院前に行うことで、患者様が入院から入院後までの治療経過をイメージ出来るよう理解を深め、不安を少なくすることで安心して入院できるよう支援します。

(2) 医療の質の向上

入院時の説明並びに手続きの統一化、および他職種による情報共有を行い、安心・安全の患者サービスの提供と入院時から退院支援に取り組める環境を支援します。

2.業務内容

- (1) 患者情報（現病歴・既往症・家族構成・生活習慣等）聴取および必要事項を電子カルテへ入力
- (2) 転倒転落アセスメントおよび DPC 確認票記入
- (3) 入院生活に関するオリエンテーション
- (4) アレルギー、嗜好、食事の要望確認
- (5) 入院時に必要な書類（入院申込書、病衣・紙おむつ等）の説明
- (6) 医療費、保険証確認、高額療養費に関する説明
- (7) その他入院に関する必要事項の説明

3.実績（平成 29 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実績数	0	40	59	69	99	121	113	169	119	136	142	168	1,235
予定入院患者数	309	279	296	261	254	269	293	273	245	291	299	284	3,353
全入院患者数	565	586	520	565	541	557	581	584	589	606	586	613	6,893

※予定入院患者数と全入院患者数は参考資料

健診部（健診センター）

近年増加している生活習慣病の早期発見、早期治療を目的とし、平成 28 年 5 月より本館 2 階旧透析センターを改修し、健診センターを開設いたしました。

健診センターでは、主に人間ドックや企業を対象とした企業健診、その他各種健診を実施しております。改修後は、落ち着いた雰囲気の中、一箇所で健診を受けることができるようになり、受診者の方には好評いただいております、受診者数も前年比 130%と順調に推移しております。

【スタッフ】

健診部長	坂井尚二（副院長）
医師	1 日 2 名体制
看護師	4 名
放射線技師	1 名
検査技師	1 名
事務員	3 名

【平成 29 年度実績】

	人間ドック		企業健診	その他
	日帰り	一泊		
4 月	13	0	22	0
5 月	17	0	116	0
6 月	144	0	221	37
7 月	182	0	169	0
8 月	160	1	150	56
9 月	136	1	151	13
10 月	133	0	176	45
11 月	143	4	175	12
12 月	102	0	173	15
1 月	164	0	114	0
2 月	157	0	135	0
3 月	56	0	82	0
合計	1,407	6	1,684	178
平成 28 年度合計	1,280	7	1,106	118
前年比 (%)	110	86	152	151

※4・5 月内視鏡室改修

医療安全対策室

【概要】

医療安全を組織横断的に推進するために、平成 19 年 4 月 1 日「医療安全対策室」を設置しました。医療事故の未然及び再発防止と発生時の適切な対応を図るため、システムやマニュアルの整備、医療安全に係る研修の企画・運営、各部門間の調整（調査）を中心になって行っています。さらに、平成 27 年度から各部署のリスクマネージャーによる医療安全 RM ラウンドを 2 回/月実施し、マニュアルやルールの周知状況や実践状況を確認するとともに、問題点の抽出を行い改善につなげるように取り組んでいます。

平成 30 年 3 月の電子カルテ更新に伴い、インシデント報告も新システムを導入しました。実行可能な対策、改善に繋がる報告となるよう新システムの運用の研修会等を行いました。

チーム医療と医療安全推進のためにはよりよいコミュニケーションは不可欠であり、当院においても院内コミュニケーションの改善が必要になります。平成 29 年度は安全管理委員会の年間目標を『「安全管理に向けたチーム医療を実施する」①話し合いのできる、垣根の低い職場風土をつくる。②“前向きな言葉”があふれるコミュニケーションを心がける。③多職種および患者さん協同で“確認”を実施し、誤認のない安全な医療を実施する。』とし、昨年度に引き続き多職種間のコミュニケーションの強化と誤認防止、PDCA サイクルの活用に取り組みました。目標達成のため医療安全対策室が核となって、教育・実施・評価までを関与しました。

また、医療に関する患者様からのクレームや有害事象発生時の対応では、医療安全対策室は患者様と医療者を結ぶ医療対話推進者としての役割を求められています。昨年度に引き続き毎朝室員によるミーティングとカンファレンスを行い、情報の共有とタイムリーな対応に努めました。

【医療安全対策室の構成】

室長：前田 博敬（副院長）

専従リスクマネージャー：大久保 典子（看護師長）

室員：石田 清子（4 階西病棟看護師長）

山中 裕子（3 階西病棟主任看護師）

吉田 英子（5 階東病棟主任看護師）

柴田 優理恵（6 階東病棟副主任看護師）

安部 裕美子（リハビリテーション部技師長）

林 祥子（薬剤部主任 薬剤師）

吉田 圭（医事グループ主任主事）

※室員全員兼任

【基本理念】

「みて きいて かんじて」

【基本方針】

- 1) 患者の安全を最優先に考える
- 2) 患者と医療従事者との対等な関係を築く
- 3) 院内の安全文化の向上
- 4) 組織全体のシステムの整備

【平成 29 年度の主な活動】

- ①「医療安全対策室だより」4 回発行
- ②医療安全院内巡視（医療安全 RM ラウンド、感染ラウンド、院長・看護部長室合同ラウンド他）
- ③「院内安全情報」3 回発行
- ④医療安全推進月間（11 月 13 日～12 月 15 日）

厚生労働省の定める医療安全推進週間（11 月 19 日～11 月 25 日）を含む 1 ヶ月間を医療安全推進月間とし、院内全体で取り組みを強化しました。その一環として委託を含む全職員より医療安全に関する標語・ポスターを募集し、最優秀賞・優秀賞を選定し 12 月の朝礼で表彰を行いました。

標語の部最優秀賞：「これはなぜ？ 聞ける勇気が 防ぐ事故」

- ⑤研修会等の企画・運営

開催日	テーマ	講師	参加者
H29.4.28	BLS 講習会	院内 BLS 講習会チーム	新採用看護師 18 名
H29.6.8	医療安全講演会 「医療コミュニケーション ～なんでやねんか～」	放送作家：W マコト (中山 真氏/中原 誠氏)	院内 150 名 院外 23 名
H29.6.12 H29.6.14	糖尿病研修会	江口 透 (糖尿病内分泌代謝内科)	135 名
H29.7.6	下関地区医療情報懇談会	(内容) 病院見学 医療安全に関するディスカッション	下関市医師会 4 名 山口県医師会 2 名 裁判所 6 名 弁護士 8 名 院内 8 名
H29.7.29	ImSAFER 分析手法実践セミナー	田嶋 英明氏 (株式会社 NSD ビジネスイノベーション)	院内 23 名 院外 16 名
H29.10.12	医療安全講演会 「医療現場での意思決定とコミュニケーション」	長谷川 剛氏 (上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長)	院内 96 名 院外 46 名
H29.11.16	医療安全講演会 「がんと血栓症～重要性を増す Onco	池田 正孝氏 (兵庫医科大学 外科学講座)	院内 69 名 院外 14 名

	「cardiology と静脈血栓塞栓症治療 ～」	下部消化管外科准教授	
H30.1.24 H30.1.29	MMT 測定方法と評価のポイント	リハビリテーション部スタッフ	45名
H30.2.8	第14回リスクマネジメント大会 テーマ：チーム医療を考えよう 栄養管理部：食を通じたチーム医療 化学療法センター：外来化学療法における リスクマネジメントとチーム医療 3階西病棟：小児の転倒転落予防について 緩和ケア病棟：緩和ケア病棟における 転倒転落の現状と課題 (特別発表) リハビリテーション部 過去の転倒転落事例から検討した今後 の院内転倒予防の対策について～イン シデントレポートの集計を通して～	発表者 栄養管理部：上口 竜也 化学療法センター：上野 妙子 3階西病棟：山中 裕子 緩和ケア病棟：濱 亜希子 リハビリテーション部：転倒予防班 (宮田 辰成・白幡 雄大・木 下 修平・水野 博彰・安部 裕 美子・長谷 知枝)	120名
H30.3.29	医療安全講演会 「アナタの常識は、ワタシの常識では ない！～報道事例から学ぶ『安全管理 に必要な新しい視点』～」	古川 裕之 氏 (山口大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長)	院内 70名 院外 55名

⑥患者クレーム対応など患者、家族への対応

⑦BLS ヘルスケアプロバイダーコース山口トレーニングサイト誘致

(BLS 2回・ACLS 1回)

⑧医療安全に関する院内研修会講師等

開催日	内 容	講 師
H29.4.5	新採用者研修 医療安全・看護倫理	大久保 典子 (専従リスクマネージャー)
H.29.4.11	研修医早朝講義 医療安全	前田 博敬 (副院長、医療安全対策室室長)
H29.5.1	5月採用者研修	大久保 典子
H29.5.2	4月採用者補充研修	(専従リスクマネージャー)
H29.6.2	6月採用者研修	〃
H29.7.3	7月採用者研修	〃
H29.8.1	8月採用者研修	〃
H29.8.8	ふれあい看護体験学習 BLS 講習	〃
H29.9.4	9月採用者研修	〃
H29.9.13	臨地実習事前オリエンテーション(西南女学院大学保健福祉学部) 「医療安全研修」	〃
H29.9.13	看護助手研修「KYTをやってみよう」	大久保 典子

		(専従リスクマネージャー)
H29.10.2	10月採用者研修	〃
H29.10.18	臨地実習事前オリエンテーション (ウエストジャパン看護専門学校) 「医療安全研修」	〃
H29.11.1	11月採用者研修	〃
H29.11.17	山口県立長府高等学校生徒体験学習 BLS 講習	〃
H29.12.18	臨地実習事前オリエンテーション (下関看護リハビリテーション学校) 「医療安全研修」	〃
H30.2.1	臨地実習事前オリエンテーション (下関看護専門学校) 「医療安全研修」	〃
H29.5月～ 9月 (22回)	院内必須医療安全研修会 (前期) 「“確認” は安全管理の第一歩」	〃
H29.10月 ～H30.3月 (25回)	院内必須医療安全研修会 (後期) 医療安全型 5S ～5S の視点で事故防止～	〃

⑨調査

- ・肺血栓塞栓症リスク判定と予防策の指示出し調査 (4回/年 定点調査)

⑩院外研修への参加

開催日	内 容	参加者	主 催	会 場
H29.4.18	第1回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	済生会下関総合病院
H29.6.20	第2回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	済生会下関総合病院
H29.6.24	医療事故紛争対応研究会 九州・沖縄セミナー	大久保典子	医療事故・紛争対応研究会	九州大学医学部百年講堂
H29.7.3	第1回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	長門総合病院
H29.7.22	山口県看護情報ネットワーク協議会総会	大久保典子	山口県看護情報ネットワーク協議会	山口県立総合医療センター
H29.9.1	医療安全管理者養成研修 公開講座	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
H29.9.2	第3回チーム医療研修会	大久保典子	日本医療機能評価機構	日本医療機能評価機構
H29.9.7	山口県立大学 キャリアアップ研修 「カウンセリングの理論とスキル」	大久保典子	山口県立大学	山口県立大学
H29.10.29	山口県立大学 キャリアアップ研修 「ヒューマンケア・チームアプローチ」	大久保典子	山口県立大学	山口県立大学
H29.8月～10月	医療安全管理者養成研修	小田純子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
H29.9.19	第3回下関ブロック医療安全管理者	大久保典子	山口県看護協会	済生会下関総合

	交流会			病院
H29.10.7~8	第41回日本死の臨床研究会年次大会	大久保典子	第41回日本死の臨床研究会年次大会	秋田県民会館他
H29.10.25	医療事故発生時の責任と看護記録 弁護士 友納 理緒氏	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
H29.11.24	過労死等防止対策推進シンポジウム	和田英一 大久保典子	厚生労働省	生涯学習プラザ 宙のホール
H29.12.5	平成29年度医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	山口県看護研修会館
H29.12.16	VTE 医療安全セミナー in 山口 「これからのVTE 予防」	大久保典子	日本コヴィディエン株式会社	ホテルニュータナカ
H30.1.16	第4回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	済生会下関総合病院
H30.2.4	全国自治体病院協議会山口県支部研修会 「医療事故の報告、分析と再発防止について」 「医療事故調査精度の現状と関連諸制度について」	大久保典子	全国自治体病院協議会山口県支部	山口県立総合医療センター
H30.2.22	第2回下関・長門・萩ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	長門総合病院
H30.3.3~3.4	医療安全マスター養成プログラム (継続編)	大久保典子	日本医療総評評価機構	日本医療総評評価機構
H30.3.12	第5回下関ブロック医療安全管理者交流会	大久保典子	山口県看護協会	済生会下関総合病院

⑪院外講師

開催日	内容	講師	会場	主催
H29.11.1	医療安全研修会 「ヒューマンエラーの考え方とコミュニケーション」	大久保典子	下関リハビリテーション病院	下関リハビリテーション病院
H30.2.1	医療安全研修会 「医療安全管理の取り組みと”確認”について」	大久保典子	下関市立豊田中央病院	下関市立豊田中央病院

⑫その他

論文・症例・原著等	著者	雑誌名等	発行所
医師の指示受けミスや多職種連携ミスの防止徹底策と主任の役割	山中裕子	『主任看護』(隔月刊誌) 2017年11・12月号	株式会社日総研出版

ドクターズクラーク室

【概要】

医師事務作業軽減のために 10 名配置されています。

(医師事務作業補助体制加算 1 40 対 1)

【主な業務実績 (平成 29 年 1 月~12 月)】

主な業務内容	件数
診断書作成補助	6,851
実施済み注射・処方代行入力	32,433
サマリー作成補助	382
外科系・心臓血管外科症例登録補助 (NCD)	614
循環器内科症例登録補助 (J-PCI・J-EVT)	314
心臓血管外科開心術症例登録補助 (JACVSD)	51
心臓血管外科術式登録補助	194
手術部位感染データベース登録補助	392
麻酔チャート登録補助 (日本麻酔科学会)	1,488
外来診療補助	—

医師からの要望があり必要度の高い外来診療科に 10 名全員配置されています。

外来にてオーダー代行入力等の診療補助を行い、医師の過重労働軽減に努めました。外来業務終了後には 6 階西ドクターズクラーク室にて、従来の業務である診断書などの書類作成業務、上記各種症例登録補助などを行いました。診断書の大半はドクターズクラークで代行作成を行っています。医師事務作業補助者としての定められた業務に基づき医師の事務作業軽減に貢献しました。

今後も業務内容を拡大出来るように努めてまいります。

薬事審議会

【目的・委員】

当審議会は医薬品の診療上の有効性及び安全性及び経済効率を考えた合理的運営を図ることを目的とし、常備医薬品の選定や当院で使用する医薬品の問題を審議する為に設置されています。

当審議会は、院長、副院長 5 名、医局幹事、感染管理委員会代表、医局選出医師 13 名、歯科医師、看護部長、事務部長、事務部 4 名、薬剤部長、薬剤師 2 名の総数 30 名の委員で構成されています。

【動向】

平成 29 年度は、5 月、9 月、11 月、2 月の 4 回審議会を開催し、常備医薬品に 13 品目新規採用し、18 品目を削除しました。長期不使用薬や、複数規格、同種同効薬の整理を積極的に行い、採用品目数の適正化に尽くしました。なお、後発薬の採用は 62 品目でした。

【平成 29 年度 薬事審議会実績】

	品目数
新規採用	13 品目
削除	18 品目
後発切替	62 品目

感染管理委員会

【概要】

当委員会は患者様や職員の交叉感染を防ぐため活動を行っています。また、当院は下関エリアでの感染症法上の第 2 種感染症指定医療機関施設となっており、指定感染症の診療や新型インフルエンザ等の対策を行っています。

かねてより全国で数少ない日本環境感染学会の教育認定施設、また日本感染症学会の認定施設として多数の感染症専門医を輩出しています。これを中心とした地域のネットワーク造りの実績が地域連携につながり、現在も地域で中心的役割を果たしています。院内では全職員を対象とした感染防止の必須研修を行うほか、職種に応じた研修を開催し、出前セミナーも行っています。

さらに、日本化学療法学会の抗菌化学療法指導医 2 名を中心に抗菌薬の届出制に加え、許可制を行っており、アフターケアまで抗菌薬ラウンドにて行い、Antimicrobial Stewardship Program（抗菌薬適正使用）を実践しています。

次に、毎月の定例会、感染セミナーおよび業績（発表）について報告いたします。

1. 定例会

毎月、感染症情報レポートと抗菌薬使用状況、サーベイランス報告を行っています。そのほか多くの感染防止対策について検討しています。主要なトピックは以下のとおりです。

1) 感染症情報レポート

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）をはじめとした薬剤耐性菌検出状況、ノロウイルス、クロストリジウム・ディフィシル感染症（いわゆる偽膜性腸炎、抗菌薬関連下痢症）、インフルエンザなどについて院内の状況、県・国の動向と合わせ報告を行っています。この感染症情報は速やかに感染管理チームで共有され、集中して発生が認められた場合にはリアルタイムで介入しています。

2) 抗菌薬使用状況

許可制としている広域剤（カルバペネム系、第 4 セフェム系など）や届出制としている抗 MRSA 薬について報告しています。その指標として WHO による抗菌薬使用密度（AUD）を用い、地域の近隣病院と比較して多寡による検討も行っています。当院では広域ペニシリン、キノロン系抗菌薬についても使用を監視しています。

3) サーベイランス

中心静脈カテーテル使用状況および血流感染の有無を調査し報告しています。血流感染を疑う症例について検証し啓発予防を行っています。

また、厚生労働省の院内感染対策サーベイランス事業に参加し、検査部門、手術部位感染（SSI）部門へ報告を行っています。各参加医療機関の集計・解析から比較した還元情報を活用しています。

4) 地域連携

感染対策ネットワーク下関の世話人として、医師・感染管理認定看護師・薬剤師・臨床検査技師の4職種でカンファレンスや相互ラウンドを実施し、地域の感染防止対策実践者と協働しています。このネットワークでは、地域の医療関係者であれば、どなたでも参加いただける学術集会を年に1回開催しており、本年は11月11日に88名の方々に参加していただくことができました。このほか、地域の感染防止対策担当者を対象とした感染症セミナーや急性期医療機関関係者と耐性菌研究会を開催しています。

5) 環境整備

昨年に引き続き、ATP（アデノシン三リン酸）を利用した清浄度調査を実施し、清掃状況の確認および改善を図りました。

6) アウトブレイク対策

季節性インフルエンザに対するワクチン接種の推奨、早期発見、タミフルの予防投与等を行うほか、ノロウイルス感染症では検査キットに反応しにくいとされる型に対し、臨床症状により判断するなど感染の拡大防止に努めています。

7) 渡航外来・海外感染症

グローバル化が進む中で渡航者への感染予防、帰国者や諸国からの入国者に対し感染症診療を行っています。この遂行において、管轄の保健所と密接な連携を図っています。

8) 手指衛生推進

1月を手指衛生推進月間と定め、標語や啓発ポスターを募集し、委員を中心に推進活動を実践しました。また、擦式アルコール製剤の使用量調査を行っており、データを還元しています。

9) 院内改修に関する感染管理

外来の空気感染をはじめとする感染症対策を要する患者の動線分け、内視鏡室での清潔不潔管理について安全で効果的な提案を行ないました。さらに、病棟の独立換気室の増設の重要性も発信しました。

2. 感染管理チーム（ICT）・抗菌薬適正使用（ASP）ラウンド

毎週火曜日、ICT 会議を行うと共に、ASP ラウンドをカルテ上および病室訪問で行っています。許可制・届出制の前提は抗菌薬投与前の血液培養検査採取としており、2セット採取が定着しています。これらの培養結果に基づくデ・エスカレーション（狭域化）についても確認をしています。

3. ICT・環境ラウンド

毎週木曜日に全部署を対象とし、チェックリストを用いて点検しています。

4. 感染管理セミナー

1) 必須研修

感染防止対策の基本として、前期「標準予防策・感染経路別予防策」、後期「職業感染防止、血液・体液曝露予防と対応」について全職員を対象に開催しました。

2) 職種別研修

- (1) 新規採用者研修
- (2) 感染症病棟稼働訓練
- (3) 空気感染予防、N95 マスクの取り扱い
- (4) 薬剤耐性菌
- (5) 感染症診療や結核対策、感染防止について、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・看護助手・コメディカル等、業務別に対象者に合わせた内容で開催しています。

5. 業績（平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

<学会発表等>

開催 年月日	演 題 名	演者等	学 会 名	場 所
2017.2.24 ～2.25	目標管理を取り入れたリンクナース 活動の可視化	浅野郁代	第 32 回日本 環境感染学会 総会・学術集会	神戸国際 会議場
2017.2.24 ～2.25	新生児環境における感染リスク要因 の検討と改善	永瀬志津 浅野郁代 吉田順一	第 32 回日本 環境感染学会 総会・学術集会	神戸国際 会議場
2017.2.24 ～2.25	8 施設合同での ATP 測定法を用いた 環境表面清浄度調査	浅野郁代 他病院 9 名	第 32 回日本 環境感染学会 総会・学術集会	神戸国際 会議場
2017.4.6 ～4.8	病院・職種情報連携の抗菌薬適正使用 (AS): 地域 4 病院 5 年間で抗菌薬使 用・血液培養の密度、緑膿菌の感受性 をアウトカム	吉田順一 原田由紀子 他病院 2 名	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル
2017.4.6 ～4.8	迅速検査キットによる抗原・抗体の推 移を観察したデング熱の 1 例	原田由紀子 吉田順一	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル
2017.4.6 ～4.8	約 2 ヶ月の間に当院で経験したレジ オネラ肺炎の 3 症例	原田由紀子 吉田順一	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル
2017.4.6 ～4.8	日本の Clostridium difficile 感染症疫 学研究報告：タイピング解析	吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学研 究グループ)	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル

2017.4.6 ～4.8	日本の Clostridium difficile 感染症疫 学研究報告：発生率とリスクファクター	吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学研 究グループ)	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル
2017.4.6 ～4.8	日本の Clostridium difficile 感染症疫 学研究報告：細菌学的検査法における 比較検討	吉田順一 菊池哲也 (日本の CDI 疫学研 究グループ)	第 91 回日本感 染症学会総会・ 学術講演会	京王プラザ ホテル
2017.5.20	感染管理認定看護師が支える感染対 策ネットワーク下関学術集会	浅野郁代 他病院 9 名	第 6 回日本感 染管理ネット ワーク学会学 術集会	函館アリーナ
2017.11.11	感染対策ネットワーク下関第 3 回学 術集会・会長あいさつ	吉田順一	第 3 回感染 対策ネット ワーク下関 学術集会	下関市立 市民病院
2017.11.11	渡航後診療で考える感染対策	原田由紀子	第 3 回感染 対策ネット ワーク下関 学術集会	下関市立 市民病院
2017.11.11	看護業務における感染予防対策の改 善への取り組み	高比良里枝 浅野郁代	第 3 回感染 対策ネット ワーク下関 学術集会	下関市立 市民病院
2017.11.11	感染防止対策シンポジスト	浅野郁代	第 3 回感染 対策ネット ワーク下関 学術集会	下関市立 市民病院

<論文>

年	表題	著書等	雑誌・巻・ページ
2017	The effect of bezlotoxumab for prevention of recurrent Clostridium difficile infection (CDI) in Japanese patients	参加施設	J Infect Chemother 24:123-129
2017	4施設における病院・職種連携の抗菌薬適正使用:抗菌薬使用密度、血液培養密度および Pseudomonas aeruginosa に対する最小発育阻止濃度をアウトカムに	吉田順一 原田由紀子 村谷哲郎 小畑秀登 佐藤穰 加藤彰 菊池哲也 森山紀代子 中野千宏 菊池勉 浅野郁代 國弘健二 三村由佳 坪根淑恵 植野孝子 河田武志 岡本朋子	Jpn J Antibiot 70(5)261-268
2017	Multicenter collaboration study on the β -lactam resistant Enterobacteriaceae in Japan - The 65th anniversary public interest purpose project of the Japanese Society of Chemotherapy.	参加施設	Japanese Society of Chemotherapy J Infect Chemother 23:583-586
2017	日本化学療法学会 公益目的事業プロジェクト β -ラクタム系薬耐性腸内細菌科細菌に関する多施設共同研究	参加施設	日本化学療法学会 誌 65(5)647-649
2017	日本化学療法学会公益目的事業プロジェクト Clostridium difficile 感染”1日” 多施設共同研究	参加施設	日本化学療法学会 誌 65(1)1-3
2017	Bezlotoxumab for Prevention of Recurrent Clostridium difficile Infection	Mark H. Wilcox, M.D., Dale N. Gerding, M.D., Ian R. Poxton, Ph.D., Ciaran Kelly, M.D.,	N Engl J Med 2017; 376:305-317

		Richard Nathan, D.O., Thomas Birch, M.D., Oliver A. Cornely, M.D., Galia Rahav, M.D., Emilio Bouza, M.D., Christine Lee, M.D., Grant Jenkin, M.D., Werner Jensen, M.D., You-Sun Kim, M.D., Junichi Yoshida, M.D., Lori Gabryelski, S.M.T., Alison Pedley, Ph.D., Karen Eves, B.S., Robert Tipping, M.S., Dalya Guris, M.D., Nicholas Kartsonis, M.D., and Mary-Beth Dorr, Ph.D. for the MODIFY I and MODIFY II Investigators	
--	--	--	--

保険委員会

【概要】

保険委員会では、病院の経営上最も重要な収入である診療報酬の保険請求について、毎月1回委員会を開催し、検証、検討を行なっています。

主な活動として、保険請求を行った診療のうち、減点査定されたものに対し査定の適否を検討し、不当と思われる査定に対しては、審査支払機関へ再審査を依頼しています。

また、減点査定一覧表を各医師に配布することで審査の動向を把握し、適宜減点査定されないよう注意喚起を行なっています。

なお、平成29年度の診療報酬保険請求査定減点状況は以下のとおりで、外来診療と入院診療を合わせた査定減は件数、点数とも前年を下回り良好な成績でした。なかでも入院の査定減点率は、前年を大きく下回る結果となりました。

社会保険審査支払基金及び国保連合会では、査定の強化、厳正化を進めており、当院としても請求前点検の実施強化など、引き続き、査定減の縮小に向けた取り組みが必要になります。

査定減点件数

(件数)

	外来	入院	合計
4月	108	58	166
5月	111	44	155
6月	131	61	192
7月	103	50	153
8月	98	57	155
9月	102	47	149
10月	147	63	210
11月	145	51	196
12月	141	40	181
1月	193	61	254
2月	206	57	263
3月	205	83	288
合計	1,690	672	2,362
前年	1,499	1,035	2,534

査定減点率

(%)

外来	入院	合計
0.15	0.26	0.23
0.15	0.19	0.18
0.29	0.41	0.38
0.12	0.31	0.26
0.22	0.54	0.45
0.27	0.52	0.45
0.18	0.14	0.15
0.13	0.09	0.10
0.22	0.12	0.14
0.13	0.18	0.16
0.14	0.24	0.22
0.18	0.11	0.13
0.18	0.25	0.23
0.21	0.37	0.33

輸血療法委員会

【構成】

委員長：上野 安孝 副院長

委員：15名 院長、副院長、医師、看護師長、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務局より構成。（自己血責任医師、学会認定自己血輸血看護師、学会認定臨床輸血看護師、認定輸血検査技師、医療安全対策室専従リスクマネージャーを含む。またオブザーバーとして山口県赤十字血液センター医薬情報担当者も参加）

【活動状況】

平成29年度は厚生労働省「血液製剤の使用指針」が改定されたことから、指針の周知を含めた血液製剤の適正使用の推進・啓発を主目標として活動を行いました。また、正しく安全な輸血療法を実施するための取り組みとして、多職種に向けた教育活動を積極的に行いました。

主な活動内容

1. 血液製剤の適正使用に関する啓発
2. 血液製剤の依頼・使用状況に関する解析、報告
3. 自己血貯血・輸血件数の増加に伴う諸問題への対応
4. 輸血依頼に関する諸問題への対策
5. 輸血療法に関する教育・啓発活動
6. 血液製剤に起因する輸血副作用に関する情報提供
7. インシデント事例の検証と再発防止対策
8. システム障害・非常時への対応・対策
9. 各種調査への協力

【輸血療法関連実績】

1. 血液製剤等使用量（平成29年4月～平成30年3月）

輸血依頼総件数	2,302 件	
輸血患者数（延べ数）	678 名	
血液製剤総使用量	9,934 単位	(3,698 本)
赤血球製剤（Ir-RBC-LR など）	3,466 単位	(1,734 本)
新鮮凍結血漿（FFP -LR）	1,868 単位	(884 本)
血小板製剤（Ir-PC-LR）	3,890 単位	(389 本)
自己血（貯血式）	710 単位	(691 本)
自己血（回収式）	70,802 mL	(159 件)
自己血（希釈式）	1,800 mL	(3 件)
アルブミン製剤	6,510.0 g	(606 本)

2. 貯血式自己血貯血量 (平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

実施症例数	207 症例	
自己血貯血量	736 単位	(714 本)

3. 輸血管理料

輸血管理料 (I) および輸血適正使用加算 (I)、貯血式自己血輸血管理体制加算を算定しています。算定対象は輸血管理料・適正使用加算が 895 件、貯血式自己血輸血管理体制加算が 194 件でした。

【副作用監視状況】

1. 輸血副作用報告

輸血副反応ガイド (日本輸血・細胞治療学会) に沿って、症状を 17 項目に分類、製剤ごとの報告としました。輸血中・後に「副作用あり・疑い」と報告されたものは 57 件でした。

個々の報告について調査を行いました、疾患に起因するものや手術後の発熱等と鑑別ができない非重篤例が主体であり、特に原因検索や日本赤十字社への副作用報告を要する例は認められませんでした。

対象製剤種		RBC	FFP	PC	自己血	計
対象製剤本数		36	2	14	5	57
患者数 (重複あり)		26	2	5	5	34
症状項目		報告数 (重複あり)				
1	発熱	29	2	8	3	42
2	悪寒・戦慄	2	0	1	0	3
3	熱感・ほてり	1	0	0	1	2
4	掻痒感・かゆみ	2	0	3	1	6
5	発赤・顔面紅潮	2	0	0	1	3
6	発疹・蕁麻疹	2	0	3	0	5
7	呼吸困難	2	0	0	0	2
8	嘔気・嘔吐	0	0	1	0	1
9	胸痛・腹痛・腰背部痛	0	0	1	0	1
10	頭痛・頭重感	1	0	2	0	3
11	血圧低下	3	0	0	0	3
12	血圧上昇	0	0	0	0	0
13	動悸・頻脈	0	0	0	0	0
14	血管痛	1	0	0	0	1
15	意識障害	0	0	0	0	0
16	赤褐色尿 (血色素尿)	0	0	0	0	0

17	その他	1	0	0	0	1
----	-----	---	---	---	---	---

2. 輸血前後感染症マーカー検査

厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」にのっとり、輸血前感染症マーカー検査 484 件、輸血後感染症マーカー検査 142 件を実施しました。輸血後肝炎をはじめとした感染性輸血副作用は認められませんでした。

3. 遡及調査

日本赤十字社からの通知による遡及調査依頼は 3 件でした。

1 件は、当院に納品された血液製剤について、その後に同じ供血者が献血した際に HBV 関連検査陽性と判定されたことから、使用状況の照会と受血者の調査依頼がありました。納品された血液製剤は当時の検査で HBV 関連検査陰性でしたが、感染初期のウィンドウピリオド期にあたることから、使用状況の追跡が必要とされたものでした。当該製剤が使用された受血者の輸血後感染症検査（HBV-DNA 定量）は陰性であり、当該製剤による感染の疑いはないものと考えられ、その旨を日本赤十字社へ報告回答しました。

他の 2 件は日本赤十字社の献血者血液適合判定基準引き上げに伴うもので、受血者の健康被害につながるものは認められませんでした。

輸血前後の感染症検査の実施や検体保管、輸血用血液製剤の使用記録保管の重要性が改めて認識されました。

【その他の活動】

1. 教育活動

院内職員を対象に、輸血療法に関する研修を行い、輸血療法委員会委員がその教育活動に講師として参加・協力しました。

今年度は新たな取り組みとして、新人看護師研修に、模擬血液製剤バッグと輸血セットを用いた実技演習を取り入れ、輸血施行準備のポイントや注意点を指導しました。

また、多職種向けの地域医療研修会を 2 回開催し、自施設だけでなく近隣の医療従事者も対象に、輸血療法への知見を深める機会を設けました。

平成 29 年 6 月 2 日（金） 新人看護師研修 「輸血検査に関する注意点」	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大菌 優子
平成 29 年 10 月 6 日（金） 輸血に関する新人看護師研修	主任 看護師 学会認定自己血輸血看護師 副主任 看護師 学会認定自己血輸血看護師 学会認定臨床輸血看護師	柴田 千春 田村 將子

平成 29 年 11 月 17 日 (金) 輸血に関する新人看護師見学 研修	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大藺 優子
平成 29 年 12 月 12 日 (水) 看護部経営そろばん塾 「輸血とお金 ～数字でみる 輸血医療」	主任 臨床検査技師 認定輸血検査技師	大藺 優子
平成 29 年 5 月 10 日 (水) 輸血療法に関する研修会 (地域 医療研修会) 「日本版敗血症ガイドライン 2016 への概要 ～DIC の治療、免疫グロブリン 療法など」	(WEB 講演会)	
平成 29 年 10 月 26 日 (木) 輸血療法に関する研修会 (地域 医療研修会) 「消化器内科における高張ア ルブミン製剤の使用について」	(WEB 講演会)	

2. 対外活動

(1) 山口県輸血療法委員会合同会議への出席

山口県健康福祉部薬務課主催の山口県輸血療法委員会合同会議へ出席し、山口県内の献血および血液製剤の供給・使用状況について協議を行いました。

(2) 輸血用血液の供給に関する懇談会への出席

山口県赤十字血液センター主催の懇談会へ出席しました。中四国ブロック赤十字血液センターの広域運営体制と製剤需給に関する諸問題、山口県赤十字血液センター・同センター西部供給出張所（下関市・山陽小野田市を管轄）による下関医療圏における血液製剤供給体制に関する問題点について、市内医療機関の代表者とともに協議しました。

(3) 各種調査への協力

厚生労働省をはじめとする種々の輸血療法関連調査について、調査協力および回答を行いました。

遡及調査と使用状況・受血者情報調査	日本赤十字社
血液事業の広域運営体制に関する調査	中四国ブロック赤十字血液センター
山口県輸血療法委員会合同会議事前調査	山口県健康福祉部薬務課
血液製剤使用実態調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血業務に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血製剤年間使用量に関する総合的調査	厚生労働省医薬食品局血液対策課
輸血用血液製剤の将来需要予測調査	山口県赤十字血液センター

治験審査委員会

【目的】

医薬品の臨床試験の実施に関する省令(GCP)により、病院長による設置が義務付けられ、治験依頼者（製薬会社）が立案した治験計画が、科学的、倫理的及び医学的に適正であるか、また更に被験者の立場に立ち、その妥当性等、治験を実施するに当たり必要な事項について審議する。

【委員構成】

医師 3 名、薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務局職員 2 名、外部委員 2 名の 計 9 名

【平成 29 年度開催実績】 年 12 回（1 回／月）

【平成 29 年度実績】

侵襲の大きい予定脊椎手術患者を対象とした黄色ブドウ球菌の術後感染予防ワクチン（SA4Ag）、変形性関節症（肩・肘・足関節）の疼痛・炎症をコントロールする SI-613、及び関節リウマチに対する新規作用機序を有する生物学的製剤の ASP5094 が新規に開始となりました。実施試験数は昨年度の過去最高の 14 試験には及びませんでした。症例数は過去最高となりました。

治験名称	依頼会社名	診療科
セレンの補充を必要とする患者を対象とした FPF3400 の長期投与試験 ー多施設共同オープン試験ー	藤本製薬株式会社	救急科
クロストリジウム・ディフィシル感染のリスクにさらされている被験者を対象としたクロストリジウム・ディフィシルトキソイドワクチンの有効性、免疫原性、安全性試験	サノフィ株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
A Comparative Study to Assess the Efficacy, Safety and Immunogenicity of YLB113 and Enbrel for the Treatment of Rheumatoid Arthritis 関節リウマチ治療における YLB113 およびエンブレルの有効性、安全性、免疫原性を評価する比較試験	YL バイオロジクス株式会社	リウマチ 膠原病内科
成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の鎮痛効果および安全性を評価する第 3 相多施設共同無作為化、二重盲検、プラセボおよび実薬対照、並行群間比較試験	ファイザー株式会社	整形外科
日本人成人の慢性腰痛症患者を対象とした Tanezumab の長期皮下投与時の安全性および有効性を評価する第 3 相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照比較試験	ファイザー株式会社	整形外科

治験名称	依頼会社名	診療科
KRP-AM1977Y 第 III 相臨床試験－市中肺炎患者を対象とした二重盲検比較試験－	杏林製薬株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
KRP-AM1977Y 第 III 相臨床試験－呼吸器感染症患者を対照とした一般臨床試験－	杏林製薬株式会社	感染管理室 (呼吸器外科)
活動性関節リウマチ患者に対する YL113 の長期継続投与試験	YL バイオロジクス株式会社	リウマチ 膠原病内科
メトトレキサートによる治療で効果不十分な関節リウマチ患者を対象とした E6011 の用量反応性試験 (治験実施計画書番号：E6011-J081-201)	エーザイ株式会社	リウマチ 膠原病内科
骨折の危険性の高い原発性骨粗鬆症に対する MN-10-T AI の第 III 相臨床試験－注射用テリパラチド酢酸塩を対象とした骨量非劣性試験－ (治験実施計画書番号：MN-10-T-306)	旭化成ファーマ株式会社	整形外科
待機的、後方進入での切開による、インストゥルメンテーションを使用した多椎間におよぶ脊椎固定術を予定する成人を対象とした 4 抗原黄色ブドウ球菌ワクチン (SA4Ag) 接種による安全性および有効性を検討する第 2b 相、プラセボ対照、無作為割付け、二重盲検試験 (治験実施計画書番号：B3451002)	ファイザー株式会社	整形外科
SI-613 の変形性関節症 (肩関節、肘関節、股関節、足関節) 患者を対象とした第 III 相試験 (治験実施計画書番号：613/1033)	生化学工業株式会社	整形外科
ASP5094 前期第 II 相試験－メトトレキサート (MTX) 併用下における関節リウマチ患者を対象とした無作為化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験－ (治験実施計画書番号：5094-CL-0201)	アステラス製薬株式会社	リウマチ 膠原病内科

なお、GCP 第 28 条により、治験業務手順書、治験審査委員会委員名簿、治験審査委員会の審議概要を平成 21 年 4 月から当院のホームページで公開しています。

検体検査管理委員会

【精度管理調査】

平成 29 年度は、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会をはじめ、多くの精度管理調査に参加しました。

日本臨床衛生検査技師会の成績は、臨床化学、免疫血清、微生物、一般、病理、細胞、血液、輸血、生理において 99.6%、日本医師会の成績は総合標点 99.2 点でした。

また、会議を平成 30 年 3 月に開催し、精度管理調査成績報告を行いました。

主な院内精度管理

生化学検査	:	市販コントロール血清 (毎日)
血清学検査	:	市販コントロール血清 (毎日)
一般検査	:	市販コントロール試料 (毎日)
血液検査	:	市販コントロール試料 (毎日)
血中薬物検査	:	市販コントロール血清 (1 回/週)
血液ガス分析検査	:	市販コントロール試料 (1 回/週)
凝固線溶検査	:	市販コントロール血漿 (毎日)
輸血関連検査	:	市販コントロール試料 (毎日)

外部精度管理

全部門：日本臨床衛生検査技師会精度管理調査 (1 回/年)

山口県臨床検査技師会精度管理調査 (1 回/年)

血液、生化学、免疫、一般：日本医師会精度管理調査 (1 回/年)

血液学的検査：QAP (シスメックス 2 回/年)

生化学的検査：QAP (シスメックス 1 回/月)

微生物学的検査：山口県臨床検査技師会サーベイ (1 回/年)

組織・細胞検査：日本細胞学会精度管理調査 (1 回/年)

上記以外にも、多くのメーカー精度管理を実施、参加しました。

【検体検査管理加算】

当院は、検体検査管理加算Ⅱを届出しています。

【精度保証施設認証】

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会が認定している「精度保証施設認証」を、2014 年 4 月 1 日より認証を受け、今期 2020 年 3 月までの 2 年間の認証更新を受けました。

診療録管理委員会

診療録管理委員会は、適正な診療録の記載と管理に資するため、診療録に関する諸問題について協議しています。

【平成 29 年度 診療録管理委員会議事要約】

(1) 第 1 回 平成 29 年 8 月 30 日

- ・ 7 月実施診療録監査の結果を報告。監査項目を増やしたが、意見は特に無く継続することとした。監査結果の医師への報告は各医師にコメントも含めて文書で行うこととした。看護師へのフィードバックは看護部をお願いすることとした。
- ・ 第 2 回目の監査は 10 月初旬に行い、11 月に結果報告を行うこととした。
- ・ 救急部師長も委員になってもらう事が提案された。反対意見なし。

(2) 第 2 回 平成 29 年 11 月 30 日

- ・ 10 月実施の診療録監査結果を報告。現在の評価法について特に意見は出なかった。
- ・ 第 3 回目の監査を 1 月に行うことに決定した。

(3) 第 3 回 平成 30 年 2 月 19 日

- ・ 1 月実施診療録監査の結果を報告。次年度も同じ方法で監査を実施することで合意した。
- ・ 救急記録から入ると、研修医の記載したカルテに指導医の承認が要らないシステムになっているのは問題ではないかという意見あり。安全管理委員会の議題とした。
- ・ 4 月から外来カルテも診療情報管理室で取り扱うこととなった。

【平成 29 年度 診療録適正化のための監査及び監視活動】

(1) 入院診療録の質的監査の実施

平成 29 年度は、入院診療を行っている全診療科全医師の入院カルテの監査を 3 回に分けて行いました。7 月、10 月、1 月に各 50 冊のカルテを抽出し、医師及び看護師がそれぞれ医師記録及び看護記録の記載が適正に行われているかを監査しました。

(2) 退院時要約の監視と督促

退院時要約の作成状況を診療情報管理室で監視し、3 段階で主治医に督促を行っています。退院時要約の完成率は 100% ですが、月毎の退院後 14 日以内の完成率は 1 年を通じて 90%以上を保っています。29 年度下半期は低下傾向です。(図 1)

(3) 入院診療計画書の監査

入院 7 日後に入院診療計画書の監査を行っています。未完成、未署名のものには督促を行い、完遂させています。

(4) 委譲者オーダーの承認の監査

看護師、コメディカルなどにより代行で出されたオーダーに対し、医師の確認と承認がなされていることを毎月監査し、督促しています。

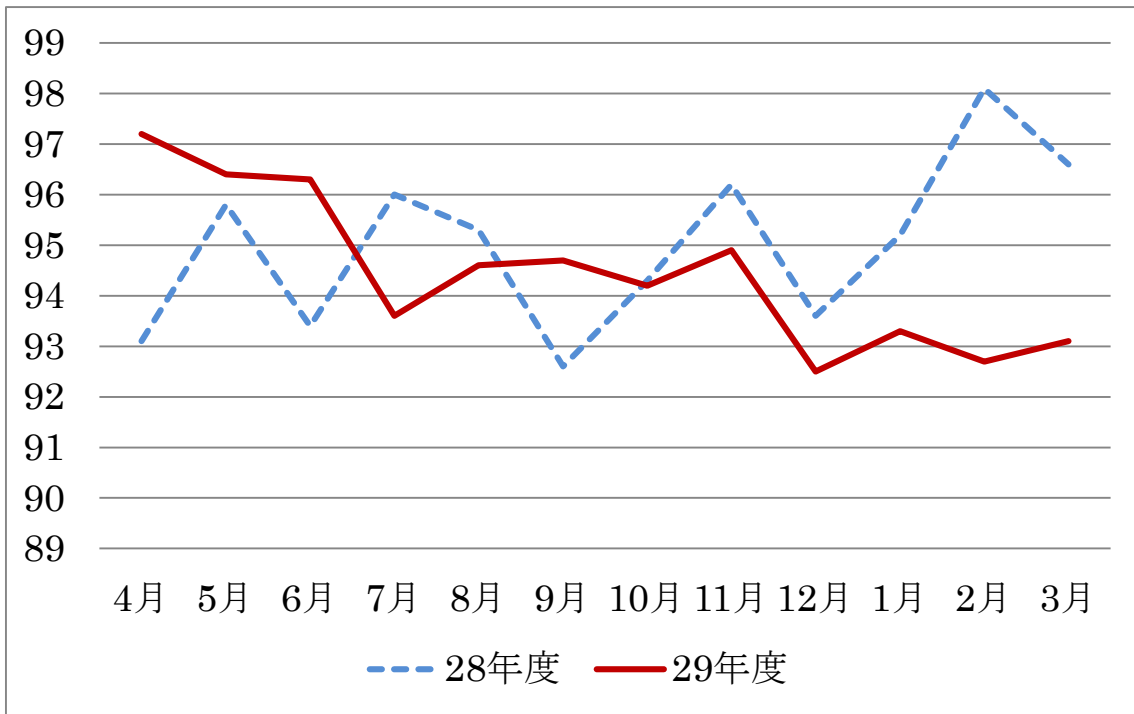


図1 平成 28,29 年度 14 日以内退院時要約作成率 (%)

安全管理委員会

1.安全管理委員会（毎月第4水曜日開催）12回／年開催

医療事故を防止するためには、医療に係る各職員がその必要性と重要性を自分の課題と認識して事故防止に努め、医療の質の向上を図るとともに事故防止体制を確立することが必要になります。この目的に鑑み、当委員会は平成14年に発足し、以下の5つの部会 1) リスクマネジメント部会 2) インシデント事例検討部会 3) 各種ワーキングチーム 4) ヒヤリ・ハットミーティング 5) 医療案件検討部会を基盤としています。

平成29年度は安全管理委員会の年間目標を『「安全管理に向けたチーム医療を実施する」1.話し合いのできる、垣根の低い職場風土をつくる。2.“前向きな言葉”があふれるコミュニケーションを心がける。3.多職種および患者さん協同で“確認”を実施し、誤認のない安全な医療を実施する。』とし、具体的行動目標を各部署、グループで決め取り組みました。平成24年度より医療安全推進のためには、院内コミュニケーションの改善が不可欠であるという考えのもと、「松本宣言」を病院全体で実践することを推奨し、スタッフ間の円滑で積極的なコミュニケーションの醸成を目指しています。今年度はさらに、多職種間のより良いコミュニケーションにより、横のつながりを強くして、誰もが自由に意見を言い合うことができる風通しの良い垣根の低い環境を作り出すことが真のチーム医療を実現する第一歩ととらえ、組織全体で取り組みました。

また、下部組織である「リスクマネジメント部会」の名称を「医療安全推進担当者会議」と改めました。

医療安全管理マニュアルにおいて、平成29年度に改正を行った項目は以下のとおりです。

- 安全管理委員会設置要綱
- 医療安全推進担当者会議設置要綱
- 下関市立市民病院医療安全体制図
- 医療安全対策室業務手順
- 身体的拘束のガイドライン
- 「身体的拘束」に関する説明と同意書
- 四肢拘束時の観察記録用紙
- 自殺企図患者の受け入れに関するマニュアル

安全管理委員会主催の講演会は次のとおりです。その他の研修会は、医療安全対策室より報告いたします。

【医療安全講演会】

開催日時	テーマ	講師	参加者
H29.6.8	「医療コミュニケーション～なんでやねん力～」	Wマコト (中山真氏/中原誠氏) 放送作家	院内 150名 院外 28名
H29.10.12	「医療現場での意思決定とコミュニケーション」	長谷川 剛氏 (上尾中央総合病院 院長補佐・情報管理部長)	院内 96名 院外 46名
H29.11.16	「がんと血栓症～重要性を増す Onco-cardiology と静脈血栓塞栓症治療」	池田 正孝氏 (兵庫医科大学 外科学講座下部消化管外科 准教授)	院内 69名 院外 14名
H30.3.29	「アナタの常識は、ワタシの常識ではない!!～報道事例から学ぶ『安全管理に必要な新しい視点』～」	古川 裕之氏 (山口大学医学部附属病院 薬剤部 教授・ 薬剤部長)	院内 70名 院外 57名

【リスクマネジメント大会】

平成 30 年 2 月 8 日

「第 14 回 リスクマネジメント大会」

発表部署：栄養管理部・化学療法センター・緩和ケア病棟・3階西病棟

特別発表：リハビリテーション部

2.医療安全推進担当者会議（旧リスクマネジメント部会）（毎月第 2 木曜日開催）

12 回／年開催

安全管理・医療事故防止などに関する重要事項について、院内全部署から選ばれたリスクマネージャーが真剣に討議し、有効な対策を提案し安全管理委員会に議案を提出、決定事項については安全管理委員会よりリスクマネジメント部会および院内に広報しました。

インシデント事例報告については、高リスクレベルあるいは発生頻度が多い事例について例会で検討し、部会に通知しました。また適宜、インシデント報告の状況を報告しました。

また、昨年度までは看護部のみで行っていた院内ラウンドを、医療安全 RM ラウンドとして各部署のリスクマネージャーによって、隔週で行い結果を部会で報告しました。

3. インシデント事例検討部会（毎月第 3 金曜日開催）12 回／年開催

提出されたすべてのインシデント・アクシデント報告（ヒヤリハット報告含む）について安全管理委員会委員長ほか 11 名のメンバーが全事例を確認し、対策の必要度をトリアージしています。取り上げた事例について関連部署で SHELL 分析し、リスクマネジメント部会で報告しました。また、ヒヤリ・ハットミーティング報告事例は事例検討部会に還元し

ました。

インシデント・アクシデント報告（転倒転落事故報告含む）の29年度集計は後半に示します。

4.医療案件検討部会（開催は必要に応じて随時）8回／年

平成29年度は緊急案件8件を審議検討しました。部会メンバーは、安全管理委員会委員及び関係診療科・部署の責任者としてしました。

リスクレベル3以上の事例、または対応に苦慮している事例、他部署から疑義が出た事例について、病院としての考え方、対応のあり方、倫理上の問題を組織横断的に検討しました。

5.ヒヤリ・ハットミーティング（毎月第1・3月曜日開催）18回／年

（平成22年11月より開始）

インシデント・アクシデント報告のうち、リスクレベルの高いもの、早期に対応を要する事例、繰り返し起こっている事例、医療上のクレームなどを選択し、幹部職員に報告、早期に指示を得ることを目的として開催しています。内容によっては早めの方針決定や医師への周知が必要なものがあり、院内電子掲示板（My-Web）や関連会議で周知・確認を行い、早期対策の実施につながりました。

6.インシデント・アクシデント報告数：1,284件／年（転倒転落を含む）

リスクレベル分類の0～5については多くの施設が採用している分類です。

当院では、患者に実施されるものではない医療に関連したクレーム、医薬品の紛失・破損、医療従事者に発生したもの、分類困難なもの等、広く収集するためにリスクレベル6を設定しています。

3月には、電子カルテの更新に伴いインシデント報告システムを変更しました。新システムの導入により、インシデントレポートの集計や管理の効率化とともに職員の更なる医療安全意識向上をめざします。

（別項に今年度集計報告）

安全管理委員会委員名簿

平成29年4月1日現在

委員会役職名	氏名	院内役職名	備考
委員長	前田博敬	副院長（医療安全対策室室長）	放射線部長
副委員長（第一）	上野安孝	副院長	医療機器安全管理責任者
副委員長（第二）	大久保典子	医療安全対策室主査（看護師長）	専従医療安全管理者
委員	田中雅夫	院長	
〃	坂井尚二	副院長	
〃	白澤建藏	副院長（外科系統括部長）	
〃	吉田順一	副院長（感染管理室長）	感染管理委員会副委員長
〃	金子武生	内科系統括部長（循環器内科部長）	
〃	石光寿幸	医局幹事	
〃	坂本由紀子	看護部長	
〃	川元博之	検査部技師長	
〃	松岡宏	薬剤部長	医薬品安全管理責任者
〃	池永博文	参与（事務部長）	
〃	水野直	経営企画グループ長	
〃	和田英一	総務グループ長	
〃	秋枝淳司	事務部次長（医事グループ長）	
〃	吉田圭	医事グループ主任主事	

出来事の領域分類別

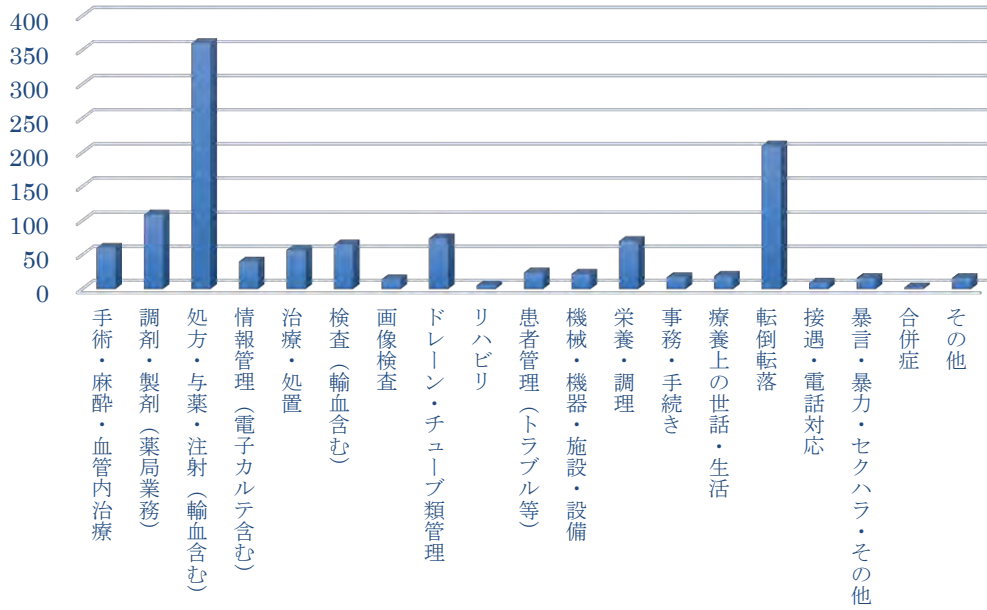
SafeProducer 単純集計

集計期間（報告日時） 2017/4/1~2018/3/10			
出来事の領域分類	件数	出来事の領域分類	件数
手術・麻酔・血管内治療	60	機械・機器・施設・設備	22
調剤・製剤（薬局業務）	109	栄養・調理	70
処方・与薬・注射（輸血含む）	360	事務・手続き	17
情報管理（電子カルテ含む）	40	療養上の世話・生活	19
治療・処置	57	転倒転落	210
検査（輸血含む）	65	接遇・電話対応	9
画像検査	14	暴言・暴力・セクハラ・その他	16
ドレーン・チューブ類管理	74	合併症	2
リハビリ	5	その他	16
患者管理（トラブル等）	24	合計件数	1,189

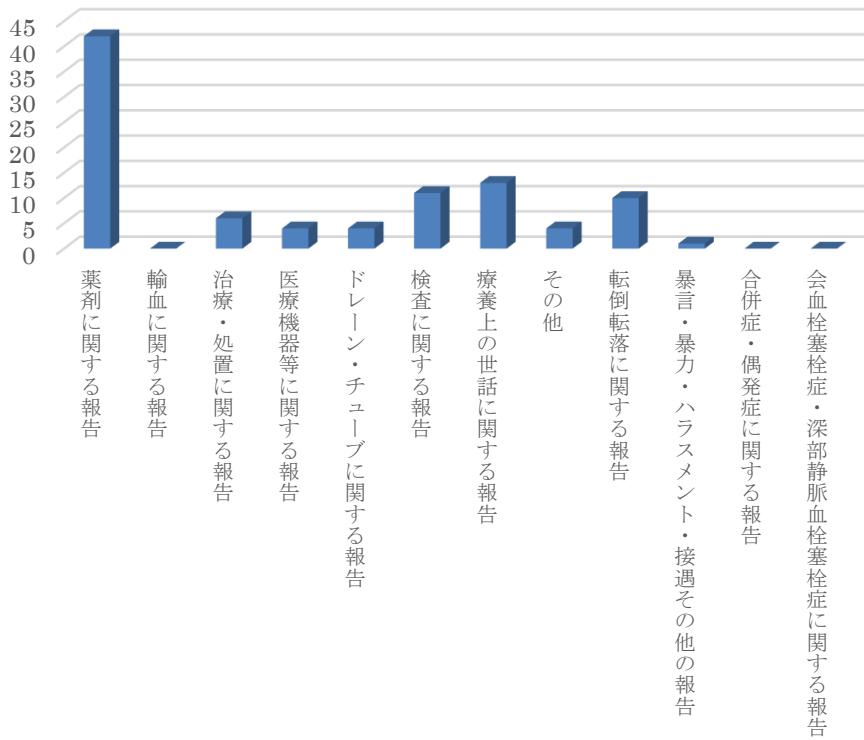
表題別集計

集計期間（報告日時） 2018/3/11~2018/3/31			
表題	件数	表題	件数
薬剤に関する報告	42	その他	4
輸血に関する報告	0	転倒転落に関する報告	10
治療・処置に関する報告	6	暴言・暴力・ハラスメント・接遇その他の報告	1
医療機器等に関する報告	4	合併症・偶発症に関する報告	0
ドレーン・チューブに関する報告	4	会血栓塞栓症・深部静脈血栓栓症に関する報告	0
検査に関する報告	11	合計件数	95
療養上の世話に関する報告	13		

出来事の領域分類別
2017/4/1～2018/3/10
件数1,189件



表題別件数
2018/3/11～2018/3/31
件数95件



報告部署別件数

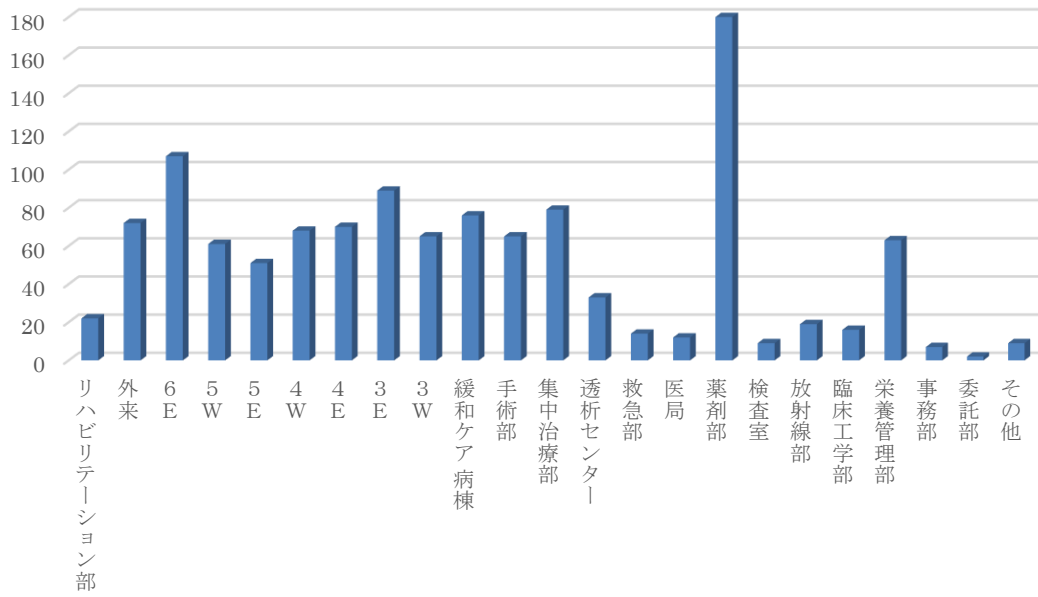
SafeProducer 単純集計

集計期間（報告日時）2017/4/1~2018/3/10	
リハビリテーション部	22
外来	72
6階東病棟	107
5階西病棟	61
5階東病棟	51
4階西病棟	68
4階東病棟	70
3階東病棟	89
3階西病棟	65
緩和ケア病棟	76
手術部	65
集中治療部	79
透析センター	33
救急部	14
医局	12
薬剤部	180
検査室	9
放射線部	19
臨床工学部	16
栄養管理部	63
事務部	7
委託部	2
その他	9
合計件数	1,189

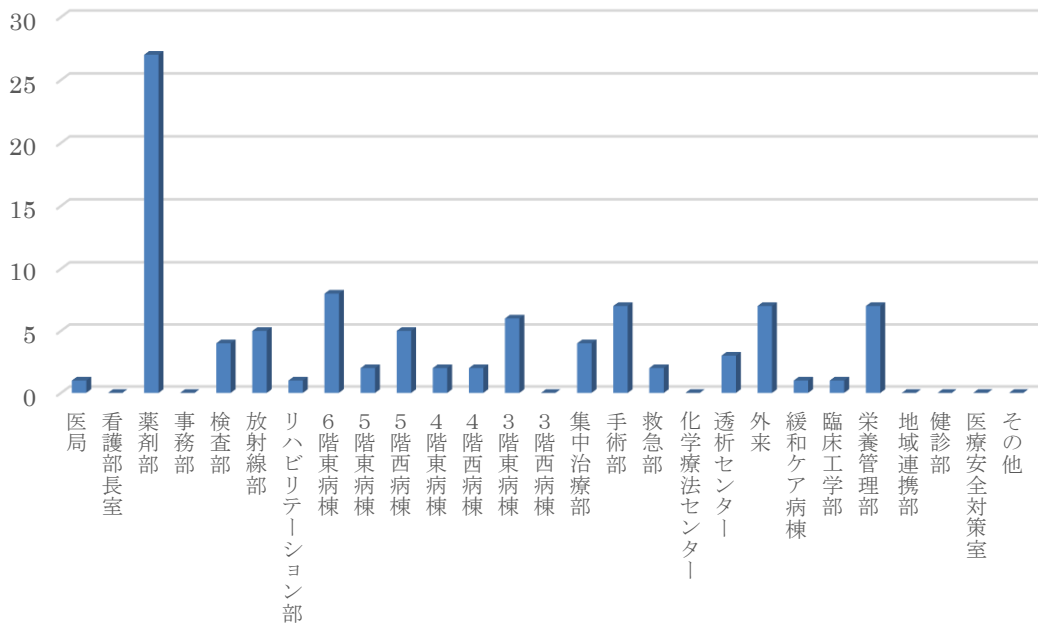
報告部署別集計

集計期間（報告日時）2018/3/11~2018/3/31	
医局	1
看護部長室	0
薬剤部	27
事務部	0
検査部	4
放射線部	5
リハビリテーション部	1
6階東病棟	8
5階東病棟	2
5階西病棟	5
4階東病棟	2
4階西病棟	2
3階東病棟	6
3階西病棟	0
集中治療部	4
手術部	7
救急部	2
化学療法センター	0
透析センター	3
外来	7
緩和ケア病棟	1
臨床工学部	1
栄養管理部	7
地域連携部	0
健診部	0
医療安全対策室	0
その他	0
合計件数	95

報告部署別件数
2017/4/1~2018/3/10
総件数1,189件



報告部署別件数
2018/3/11~2018/3/31
件数95件



褥瘡対策委員会

【目的】

入院患者様に安全で快適な療養環境を提供するために、褥瘡予防・治療上における各職種の専門性を生かした対策を検討し、全職員へ周知、徹底させることを目的としています。

【活動概要】

褥瘡対策委員会は毎月 1 回定期的に開催し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士および理学療法士等、多職種で構成されており、褥瘡対策に関する協議、症例検討等を行っています。カンファレンス、回診を週に 1 回行い、患者様に応じた褥瘡治療・ケアを提供しています。

平成 29 年度は、ポジショニング、フットケア、離床促進の 3 グループで活動を行い、「褥瘡発生 0」をめざしました。

【平成 29 年 褥瘡に関する数値】

院内褥瘡発生率 0.07%

<年間発生数>

院内発生	79 件
院外発生	57 件

<転帰>

	治癒	軽快	不変	悪化
院内発生	27 件	8 件	32 件	11 件
院外発生	19 件	6 件	23 件	7 件

院内発生褥瘡について

<診療科別>

整形外科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	消化器内科	救急科	循環器内科	緩和ケア内科	その他
27 件	12 件	5 件	6 件	3 件	4 件	5 件	12 件	4 件

【平成 29 年度 研修内容】

褥瘡予防のポジショニング

スキンケア

当院での褥瘡対策

排尿自立に向けた移乗のポイント

フットケア

栄養管理委員会

【目的】

当委員会は、院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的としています。

【構成】

委員長：平 俊明 耳鼻咽喉科部長（栄養管理部長兼務）

副委員長：前田 博敬 副院長

委員：医師 2名、看護師長 1名、主任看護師 2名、管理栄養士 1名、事務局 4名

【活動状況】

会議は4回の定例会議を開催しました。審議内容は以下のとおりです。

◇朝食の食事運用方法の変更について

今年度より朝食の食事対応の運用方法を従来の電話対応から専用用紙（食事追加リスト）への記入による紙運用へ変更を行いました。対応内容は、食事開始・転棟・食止めのみとして、嗜好面や形態の変更は昼食からの対応としました。ただし、食事変更でも食物アレルギーや嚥下食・治療食への対応は行うこととしました。

◇新規集団栄養指導の開催について

今年度より一般市民を対象とした減塩教室を偶数月に開催しました。参加者は平均9名（10名定員）程度で参加費として300円頂いています。参加者の評価は好評であり継続的に参加する方もいます。今後は、参加者からの要望も多い腎臓食や介護（嚥下）食教室の開催を実施していく予定です。

◇入院患者への食事アンケート結果について（H29.6・H30.2実施）

栄養管理部で行った入院患者に対する年2回の食事アンケートの結果、みんなの声について評価を行いました。アンケート結果では当院の給食について味・量・彩り・盛りつけ・鮮度で満足度の高い結果でした。

◇災害備蓄用食品について

災害備蓄用食品は250名分を3日間確保していますが、それに対応するディスプレイの食器の数が不足していた為、購入について協議し追加購入する事となりました。

これまでは感染用ディスプレイ食器と備蓄用ディスプレイ食器が混在していた為、それぞれを分けて管理するようにしました。

広報年報委員会

当委員会は、広報活動として広報誌「まごころ」の発刊及びインターネット上の公式サイト
の管理を行い、各部署の年報を編集する任務も果たしています。

1. 広報活動

● 病院広報紙「まごころ」

原稿を編纂し、3ヶ月ごとに発刊しています。当院外来ロビーに設置し、外来患者様へ配
布をするとともに近隣病院など400余に発送しています。その際、「外科だより」「内科だ
より」などトピックに合わせたお知らせを同封しています。

電子版のバックナンバーの一覧は、<http://shimonosekicity-hosp/index61.html> に掲載
しています。

平成29年度発刊分：

【春号】5月15日発刊

特集：「血液疾患ってどんな病気？」

“地域の絆”のコーナー（登録医の先生方にご寄稿いただくコーナー）

- ・愛善会 いけだ整形外科 院長 池田慶裕 先生
- ・医療法人 内山医院 院長 内山和俊 先生

【夏号】8月15日発刊

特集：「歯科口腔外科ってどんな科だろう？」

“地域の絆”のコーナー

- ・すぎはら内科・消化器病クリニック 院長 杉原重哲 先生
- ・やまうち内科循環器科 院長 山内正嗣 先生

【秋号】11月15日発刊

特集：「リウマチ・関節センター」を開設！

“地域の絆”のコーナー

- ・ももさき皮膚科 院長 桃崎直也 先生
- ・吉田メディカルクリニック 院長 吉田寛 先生

【冬号】2月15日発刊

特集：「麻酔科」のご紹介

“地域の絆”のコーナー

- ・古賀耳鼻咽喉科医院 院長 古賀郁彦 先生
- ・医療法人 葵同仁会 林クリニック 院長 林政明 先生

以上のように地域の先生方にも加わっていただき、よりよい広報誌を目指しています。

- 公式サイト

当院ホームページに新着情報やお知らせなどを掲載しています。スマートフォンや携帯電話にも対応しています。

- 年報

電子化したものを当院ホームページに掲載しています。29年度に編纂した28年度版は、<http://shimonosekicity-hosp/> において、[年報]で検索すると各診療科・部署のページにおいて表示されます。

2. その他の広報活動

- 院外広報

公共性の高い情報は、下関市の「市報しものせき」においても広報しています。その例として、採用情報案内や市民公開講座のご案内があります。

倫理研究委員会

【概要】

委員長：井上政昭（呼吸器外科部長）

副委員長：上野安孝（副院長）

委員：9名（外部委員含）

平成29年度の委員会開催回数は5回、審査件数は11件でした。なお、倫理研究委員会設置要綱に則った迅速審査による審査件数は25件であり、総審査件数は36件でした。

研究の侵襲性や個人情報の保護、インフォームド・コンセントが適切であるかなどについて検討し、全て承認となりました。

【倫理研究発表大会】

平成29年度より、下記のとおり「倫理研究発表大会」を開催しました。

日時：平成30年2月14日（水）17：30～

目的：日々、自己研鑽を行っている職員の研究成果を評価するとともに、そこから得られた知識を病院に還元することで、職員の意欲・意識の向上を図り、質の高い医療提供を実践し、地域医療への貢献に繋げる。

発表：研究成果の報告（4題）

・医局部門

演者：循環器内科 医長 辛島 詠士

演題：Vessel Prep with NSE PTA for better outcome！

-Pre stenting,Pre DCB-

発表学会等：Complex Peripheral Angioplasty Conference 2017

・研修医部門

演者：研修医 立田 穂那実

共同演者：中村 亜輝子、江口 透、野村 裕、坂井 尚二、他院医師1名

演題：偽性アルドステロン症による低カリウム性周期性四肢麻痺を呈した一例

発表学会等：第26回山口県西部医学会

・看護部門

演者：栗原 悠二

共同演者：保村 宏樹、青木 由希、宮原 友紀、兼安 美保

演題：重症患者に対応した持続経腸栄養プロトコール作成による早期経腸栄養の定着と合併症予防

発表学会等：日本集中治療医学会第2回中国・四国支部学術集会

・コメディカル部門

演者：臨床工学部 主査 佐々木 毅

共同演者：若尾 泰子、藤田 忍、前田 友美、鈴木 雄揮、坂井 尚二

演題：ニプロ社製 RO 装置 WRO システムを使用時の水質及び熱水消毒温度

についての検討

発表学会等：第 62 回日本透析医学会学術集会・総会

臨床倫理委員会

倫理委員会・臨床部会は平成 29 年度より「臨床倫理委員会」に改称し、新規導入する医療行為についての倫理的審議も行うことになりました。

【臨床倫理委員会の役割】

- (1) 臨床現場で起こる様々な倫理的問題のうち、現場の協議では解決できない問題について協議する。
- (2) しばしば遭遇する代表的な臨床倫理的問題に対する病院としての方針を決定する。
- (3) 新しい医療行為の導入に当たりその倫理的適否を審議する。

平成 29 年度委員会開催実績：

H29. 4. 3	(再審) 判断能力がない患者への人工骨頭置換術の施行について	診療部 整形外科
H29. 4. 11	入院後、検査・治療を拒否し、暴言をはく患者への対応について	診療部 内科
H29. 4. 26	急性期脳梗塞に対する血行再建術の開始について	診療部 脳神経外科
H29. 6. 12	下顎骨骨髓炎に対する腐骨除去術の施行について	診療部 歯科・歯科口腔外科
H29. 7. 31	救急外来を受診した患者の診療内容に対する不満の申出について	診療部 研修医
H29. 8. 7	右側上顎歯肉癌切除術の施行について	診療部 歯科・歯科口腔外科
H29. 8. 9	シスプラチンの保険適応外使用について	診療部 消化器外科
H29. 10. 5	① 右側舌癌に対する舌部分切除術の施行について	診療部 歯科・歯科口腔外科
	② 間質性肺炎例に対しエンドキサンレジメンを適用することの可否について	診療部 呼吸器外科
H29. 11. 30	威圧的態度の家族への対応について	看護部 3階西病棟
H29. 12. 18	内科外来を受診した患者が帰宅途中で救急搬送された事例について	看護部 外来
H30. 1. 22	免疫チェックポイント阻害薬使用時の消化器と呼吸器の免疫関連有害事象におけるインフリキシマブの保険適用外使用について	化学療法委員会

H30. 2. 14	禁煙を条件に診療（在宅酸素療法含む）するという「誓約書」を破棄する患者様について診療を拒否することの可否について	診療部 呼吸器外科
H30. 2. 22	家族が威圧的発言や暴言を発する救急外来受診患者への対応について	診療部 （救急部）

研修管理委員会

当委員会は、下関市立市民病院群の臨床研修について具体的な事項の立案・計画を行うことを目的とし、6名の外部委員を含む29名の委員で構成されています。

平成29年度における活動実績は、次のとおりでした。

1. 初期臨床研修医数

- (1) 基幹型 1年次 2名
 2年次 1名
- (2) 協力型 1年次 2名 (九州大学)

2. 歯科医師臨床研修医

- (1) 8月～11月 1名 (九州歯科大学)
- (2) 12月～3月 1名 (九州歯科大学)

3. 協力病院での研修

精神科 医療法人水の木会下関病院

4. 協力施設での研修

地域医療 下関市立豊田中央病院
医療法人社団松涛会安岡病院

5. 活動状況

- (1) 早朝講義 (研修医及び院内関係者が受講。内容は別表のとおり)
- (2) 研修医合同説明会への参加
 - MECマッチングフェア (5/7 福岡)
 - レジナビフェア (7/2 大阪、3/4 福岡)
 - eレジフェア (6/18 福岡)
- (3) 山口大学病院群の病院説明会への参加
- (4) 病院見学会 (20回)

平成29年度 早朝講義日程表

時間 7:50～8:20

場所 医局カンファレンスルーム

月日	曜日	講義項目		担当
4/4	火	医療人としてのマナーと縫合		田中院長
4/6	木	保険診療	保険医	上野副院長
4/7	金	蘇生法	救急科	中原部長
4/10	月	基本輸液	外科	中原部長
4/11	火	医療安全	医療安全対策室	前田室長（副院長）
4/12	水	泌尿器科の救急疾患	泌尿器科	吉弘部長
4/13	木	呼吸不全について	呼吸器外科	井上部長
4/14	金	耳鼻咽喉科のプライマリーケア	耳鼻咽喉科	平部長
4/17	月	輸血について	血液内科	久保医長
4/18	火	AMIと急性左心不全	循環器内科	金子部長
4/19	水	小児の救急患者対策（1）	小児科	河野部長
4/20	木	小児の救急患者対策（2）	小児科	岡田医師
4/21	金	小児の救急患者対策（3）	小児外科	福原医師
4/24	月	皮膚科の救急疾患	皮膚科	内田部長
4/25	火	脳外科から当直の先生へ	脳神経外科	中村部長
4/26	水	急性腹症	外科	石光部長
4/27	木	消化器病の救急	消化器内科	具嶋医長
4/28	金	整形外科的初期治療	整形外科	山下部長
5/8	月	眼科の救急疾患	眼科	石村部長
5/9	火	摂食・嚥下ケア	看護部	高橋認定看護師
5/10	水	心臓血管外科領域の救急疾患	心臓血管外科	栗栖部長
5/11	木	産婦人科の救急疾患	産婦人科	川崎部長
5/12	金	糖尿病の薬物療法	糖尿病内分泌代謝内科	江口医長
5/15	月	クスリのリスク	薬剤部	松岡部長
5/16	火	感染管理	感染管理室	浅野認定看護師
5/17	水	救急のCT	放射線診断科	箕田部長
5/18	木	緊急検査のピットホール	検査部	川元技師長
5/19	金	研修医の先生方へお願い	放射線部	片岡技師長
5/22	月	口腔外科領域の救急治療について	歯科・歯科口腔外科	上原部長
5/23	火	抗菌薬について	感染管理室	原田医長
5/24	水	創傷管理	看護部	藤重認定看護師
5/25	木	化学療法について	看護部	上野認定看護師
5/26	金	栄養について	栄養管理部	上口管理栄養士

CS推進委員会

【概要】

CS推進委員会は、例年のごとく毎月第3水曜日に開催し、「みんなの声」の投書に対する回答を含め、病院のCSに関する改革について検討を行いました。

委員長：坂井 尚二（副院長）

副委員長：前田 博敬（副院長）・高山 裕健（放射線部主査）

委員：各部署より20名

【みんなの声】

平成29年度「みんなの声」投書数は、231件でした。そのうち、お褒めの言葉が62件（27%）、ご意見・ご要望・苦情等が167件（72%）、その他が2件でした。

いただいた「みんなの声」全231件に対し、当院の回答率は85%でした。（残りの15%については、内容の判読困難なものなどであったため回答ができませんでした。）回答については、正面玄関横の掲示板、病院ホームページにて公開しています。

【接遇週間】

平成29年度に、初の試みとして「接遇週間」を設け、その主な取り組みとして「あいさつ運動」などを実施しました。

接遇週間（平成29年9月11日～15日）の午前8時から9時の間、正面玄関及び救急夜間出入口前にて医師をはじめ、看護師、メディカルスタッフなど、全職種の職員で取り組みました。

接遇週間だけでなく、今後も継続して職員の接遇向上を図り、市民の皆様信頼される病院となるよう一層の努力をまいります。

【接遇研修会】

今年度は、より多くの職員が研修会にて学べるよう、同一テーマで3回実施しました。その結果、今年度の目標でもあった「研修参加率50%」を超え、およそ53%の職員の参加がありました。

テーマ：「市民と信頼を築く接遇」～市民に愛される病院をめざして～

講師：外部講師招聘

開催日：

	開催日	対象者	参加者数
第1回	H29.9.13	全職員（委託職員含）	173
第2回	H29.9.29	〃	132
第3回	H29.10.3	〃	128

【患者さまアンケート】

平成 29 年 9 月 13 日と、平成 30 年 2 月 21 日に、外来患者様と入院患者様に対してアンケート調査を実施しました。

その結果について小冊子にまとめ、正面玄関の掲示板前にて閲覧できるようにし、病院ホームページにて公開しました。

平成 29 年度の平均総合得点は 89.4 点（前年比－1.6 点）であり、施設の老朽化に対するご意見、接遇や職員のマナーの問題、患者様の待ち時間の問題など今後の課題が多く挙げられました。

市民の皆様に、より評価される病院を目指し改善に向けた努力を続けてまいります。

クリニカルパス推進委員会

本委員会は、以下のことを審議・実施することを使命として、活動しています。

- (1) 新たなクリニカルパスの作成に関する事項
- (2) 使用中のクリニカルパスの見直しに関する事項
- (3) その他クリニカルパスの推進に関する必要な事項

平成 29 年度の委員会は、医師 6 名、看護師 19 名、事務職員 5 名、理学療法士 2 名、検査技師・放射線技師・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・診療情報管理士 各 1 名の計 38 名、多職種から集まって構成されています。

活動内容としては、次のとおりです。

月 1 回の委員会開催

それぞれの分担下での、クリニカルパス管理

大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス・がん地域連携パスを通して、地域医療連携に関与

(下関市大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携パス研究会に参加)。

第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会 (12 月 1、2 日、於 ; 大阪市・大阪国際会議場) に参加 (委員の中より 2 名)。

本年度内に作成された新規クリニカルパスは、1 診療科・2 種でしたが、既存のパスにも適宜、見直しを行い、整理・改良を加えました。

現在当院で作成・使用中のクリニカルパスは、以下のとおり計 96 種・15 診療科であり、全入院患者様の 30~35% のケースで使用されていました。

科	パ ス	
糖尿病内分泌代謝内科	糖尿病教育入院	
消化器内科	ポリペク	胃瘻造設
	内視鏡的胃粘膜下層剥離術クリニカルパス	
循環器内科	血管造影検査	下肢動脈形成術
	冠動脈形成術	ペースメーカー植え込み術
	ペースメーカー電池交換	
腎臓内科	PET (腹膜機能検査)	内シャント PTA
	内シャント造設術	腎不全教育入院
	腎生検クリニカルパス・前日入院	腎生検クリニカルパス・当日入院

科	パ ス	
外科	ラパコレ	鼠径ヘルニア
	虫垂切除術	腹腔鏡下結腸切除術
	乳房部分切除術	乳房切除術（全摘）
	ERCP	
呼吸器外科	胸腔鏡下肺切除術（悪性）	胸腔鏡下肺切除術（良性）
	胸腔鏡下肺切除術（気胸）	肺切除術（開胸）
心臓血管外科	腹部大動脈瘤人工血管置換術	下肢静脈瘤（ルンパール）
	下肢静脈瘤（全身麻酔）	下肢血管手術
	ステントグラフト内挿術（胸部）	ステントグラフト内挿術（腹部）
脳神経外科	慢性硬膜下血腫手術（前日入院）	慢性硬膜下血腫手術（当日）
	脳血管撮影（前日入院）	脳血管撮影（当日）
	脳梗塞	脳出血（手術なし）
産婦人科	緊急帝王切開	腹式帝王切開
	経膈分娩	子宮脱
	子宮筋腫腹式手術	円錐切除
	腹腔鏡補助下卵巣腫瘍摘出術	
小児科	低身長 A 検査アルギニン負荷	低身長 B 検査 4 者負荷試験
	インバギ空気整復治療	感染性胃腸炎
	気管支喘息	食物負荷試験
	小児インフルエンザ	免疫グロブリン補充療法
小児外科	2 泊 3 日手術	小児虫垂切除術
整形外科	右 THA（人工股関節置換術）	左 THA（人工股関節置換術）
	右橈骨遠位端骨折骨接合術	左橈骨遠位端骨折骨接合術
	BKP：経皮的椎体形成術	胸・腰椎圧迫骨折／コルセット治療
	右大腿骨骨接合術	左大腿骨骨接合術
	右大腿骨人工骨頭置換術	左大腿骨人工骨頭置換術
	抜釘術（上肢）	抜釘術（下肢）
	1 泊 2 日脊髄造影（ミエロ CT）	腰椎後方椎体間固定術
	1 期目／2 期的低侵襲腰椎側方椎体間固定術	腰椎椎弓形成術
	内視鏡下髓核摘出術	頸椎椎弓形成術
	右人工膝関節置換術	左人工膝関節置換術
	右 HTO（高位脛骨骨切り術）	左 HTO（高位脛骨骨切り術）
	右 ACL（前十字靭帯）再建	左 ACL（前十字靭帯）再建
	右 ACL 縫合あり（前十字靭帯再建＋半月板縫合）	左 ACL 縫合あり（前十字靭帯再建＋半月板縫合）
	膝関節鏡（半月板切除）	膝関節鏡（半月板縫合）

科	パ ス	
泌尿器科	前立腺生検	TUR BT
	TUR P	
眼科	右白内障手術	左白内障手術
	右白内障手術（全身麻酔）	左白内障手術（全身麻酔）
耳鼻咽喉科	扁桃摘出術	内視鏡下副鼻腔手術（両ESS）
	喉頭鏡下微細手術	眩暈
	鼓膜チュービング術	小児扁桃腺摘出術

緩和ケア委員会

【目的】

- ① 緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の円滑な運営を図る。
- ② 院内外において緩和ケアの普及・啓発活動を行う。
- ③ 急性期病棟において緩和ケアの積極的な介入を行う。

【構成メンバー】

- ◇ 医師（緩和ケア内科、外科、血液内科、呼吸器外科、精神科）
- ◇ 看護師（緩和ケア病棟、緩和ケア外来、急性期各病棟、認定看護師）
- ◇ 薬剤部
- ◇ リハビリテーション部
- ◇ 事務部

【主な活動内容】

- 毎月1回委員会を開催
- 毎月1回症例検討会を実施
- 毎週1回(金曜日) 院内回診を実施

【実績】（2017年1月1日～2017年12月31日）

回診：患者数 延べ59名

ボランティア活動

【概要】

平成 12 年 6 月から、市民参加によるボランティア活動を開始しました。

目的に、「市民の方のボランティア活動を通して、開かれた病院づくりを目指す」「地域の方とのつながりを大切にする」を掲げ、活動しています。

平成 29 年度は、新たに緩和ケア病棟ボランティアを募集し、平成 30 年 1 月から 5 名の方が活動を始めました。

【活動について】

(1) 登録人数 30 名

(ア) 活動内容

- ① 外来ボランティア（月曜日～金曜日の平日、8：45～11：15）
活動人員 10 名
受診科案内、車イス介助、再来受付、代筆など
- ② 図書ボランティア（毎週水曜日、13：00～14：00）
活動人員 15 名
移動図書「ふくふく文庫」など
- ③ 緩和ケア病棟ボランティア（月曜日～金曜日の平日、10：30～11：30）
活動人員 5 名
草花の手入れ、季節の飾り付け、イベント準備など

(イ) 年間活動

- ① ボランティア連絡協議会…偶数月 5 回／年
- ② ボランティア交流会…1 回／年
- ③ 「市報しものせき」によるボランティア募集…適宜

出前講座

【平成 29 年度実績】

テーマ	実施日	会場	参加者数	講師
転倒予防 転ばぬ先の杖	4月7日	吉田公民館	60人	リハビリテーション部 鈴木雅仁理学療法士 宇都宮功一理学療法士
転倒予防教室	5月16日	下関農業協 同組合川中 支所	40人	リハビリテーション部 内田景子理学療法士
転倒予防教室	6月19日	勤労福祉会館	35人	リハビリテーション部 宇都宮功一理学療法士 梅本翔理学療法士
腰痛予防	9月20日	リサイクル プラザ	20人	リハビリテーション部 小林健治理学療法士 鐘井光明理学療法士
誤嚥性肺炎を予防 しよう	10月7日	宇部東町 公民館	30人	看護部 4階西病棟 高橋理恵看護部主任看護師
転倒予防教室	1月10日	社会福祉セ ンター	150人	リハビリテーション部 水野博彰理学療法士
子どもの感染症	2月27日	幸町保育園	10人	診療部(小児科) 岡田裕介医師
転倒予防教室	3月9日	コープやま ぐち下関セ ンター	25人	リハビリテーション部 梅本翔理学療法士 内田景子理学療法士